取　扱　書

よくお読みになってご使用ください。
取扱書は車の中に保管しましょう。

LAND CRUISER PRADO

TABLE OF CONTENTS
目次

TABLE OF CONTENTS 目次

メーカーオプションのナビゲーションシステム装着車にお乗りのお客様は、次の装備については「ナビゲーションシステム取扱書」をお読みください。

- GPS ボイスナビゲーション
- バックガイドモニター
- ETC システム
- オーディオ&ビジュアル
- ワイドビューフロント&サイドモニター

1 運転する前に

2 運転するときに

3 室内装備の使い方

1
2
3
4
5
6

3-3. 収納装備の使い方

3-4. その他の室内装備の使い方

4 お手入れのしかた

4-1. お手入れのしかた

4-2. 簡単な点検・部品交換

5 トラブルが起きたら

5-1. まず初めに

5-2. 緊急時の対処法

6 車両仕様

6-1. 仕様一覧

6-2. カスタマイズ機能

6-3. 初期設定

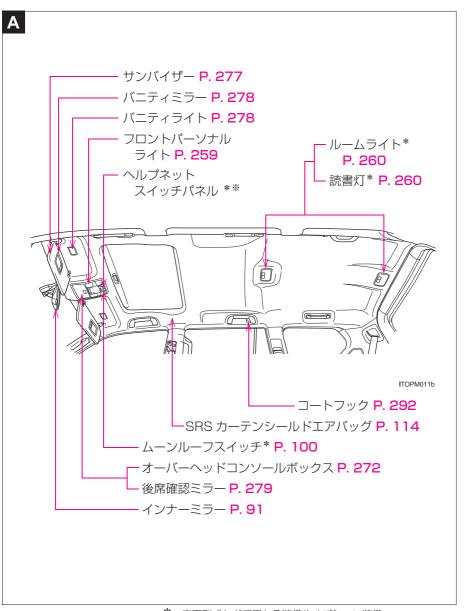
さくいん

外観

フロントワイパー P. 191
ヘッドライト（ハイビーム）P. 185
補助確認装置* P. 95
ボンネット P. 310
ムーンルーフ* P. 100
ドアミラー P. 93
方向指示灯
P. 165
ITOPM008b
方向指示灯 P. 165
フロントフォグライト P. 189
車幅灯 P. 185
ヘッドライト（ロービーム）P. 185

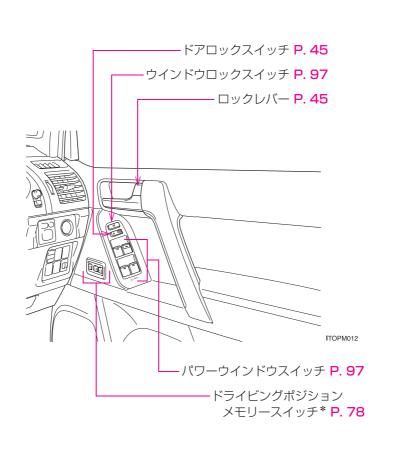
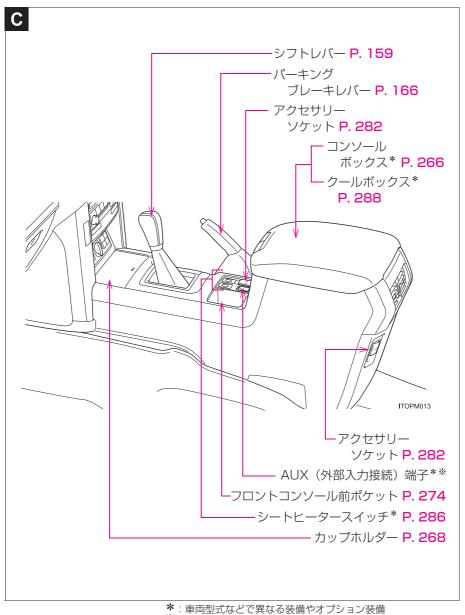
*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

室内

イラストは 7 人乗り車で代表しています。

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備
※：別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。

B

ドアロックスイッチ P. 45
ウインドウロックスイッチ P. 97
ロックレバー P. 45
ITOPM012
パワーウインドウスイッチ P. 97
ドライビングポジション
メモリースイッチ＊ P. 78

C

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備
※：別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。

インストルメントパネル

A

▶ ナビゲーションシステム非装着車

A

▶ ナビゲーションシステム（メーカーオプション）装着車

※1：別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。
※2：別冊「オフロード走行取扱書」を参照してください。

B

▶ 1GR-FE エンジン搭載車

C

クルーズコントロールスイッチ＊ P. 199
レーダークルーズコントロールスイッチ＊ P. 203
“ ENTER ”スイッチ P. 174
電話スイッチ＊※1
メニュースイッチ P. 174
トークスイッチ＊※1

MODE
ENTER
SRS AIRBAG
+RES
−SET
CANCEL

ITOPM020a

車間距離切りかえスイッチ＊ P. 203
カメラスイッチ＊※1
オーディオ操作スイッチ＊※1

＊ ：車両型式などで異なる装備やオプション装備
※1 ：別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。
※2 ：別冊「オフロード走行取扱書」を参照してください。

D

ハンドル位置調整レバー＊ P. 89
ハンドル位置調整スイッチ＊ P. 89
VSC OFF スイッチ P. 227
車高制御 OFF スイッチ＊※
車高切りかえスイッチ＊※
ITOPM019a
AVS スイッチ＊※

E

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備
※：別冊「オフロード走行取扱書」を参照してください。

ラゲージルーム

三角表示板等収納スペース P. 295
工具 P. 375
A
B
トノカバー* P. 296
デッキフック* P. 294
ITOPM022c

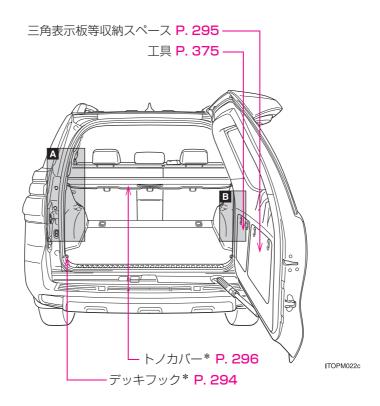
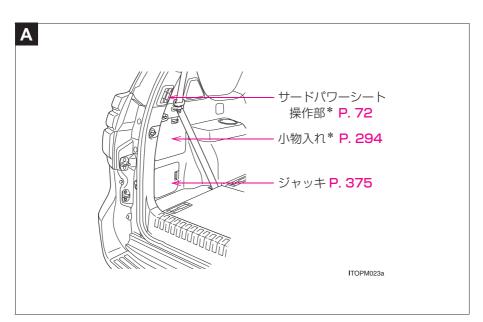
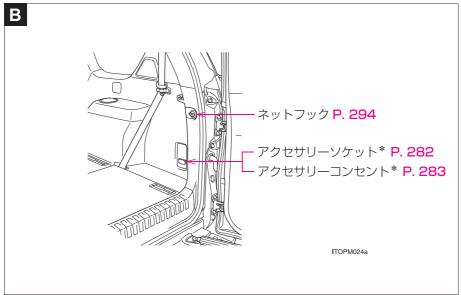
A

サードパワーシート
操作部* P. 72

小物入れ* P. 294

ジャッキ P. 375

ITOPM023a

B

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

知っておいていただきたいこと

本書の内容について

本書はオプションを含むすべての装備の説明をしています。
そのため、お客様のお車にはない装備の説明が記載されている場合があります。
また、車の仕様変更により、内容がお車と一致しない場合がありますのでご了承ください。

トヨタ販売店で取り付けられた装備（販売店オプション）の取り扱いについては、その商品に付属の取り扱い説明書をお読みください。

イラストは、記載している仕様などの違いにより、お客様のお車の装備と一致しない場合があります。

不正改造について

- トヨタが国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、不正改造になることがあります。
- 車高を下げたり、ワイドタイヤを装着するなど、車の性能や機能に適さない部品を装着すると、故障の原因になったり、事故を起こし、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ハンドルの改造は絶対にしないでください。ハンドルには SRS エアバッグが内蔵されているため、不適切に扱うと、正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 次の場合はトヨタ販売店にご相談ください。
  - ・タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットの交換
    異なった種類や指定以外のものを使用すると、走行に悪影響をおよぼしたり、不正改造になることがあります。
  - ・電装品・無線機などの取り付け、取りはずし
    電子機器部品に悪影響をおよぼしたり、故障や車両火災など事故につながるおそれがあり危険です。
- フロントガラス、および運転席・助手席のドアガラスに着色フィルム（含む透明フィルム）などを貼り付けないでください。視界をさまたげるばかりでなく、不正改造につながるおそれがあります。

運転についてのご注意

他の車や歩行者など、周囲の状況に常に注意を払い、安全運転を心がけてください。

飲酒運転は絶対しないでください。お酒を飲むと注意力と判断力がにぶり、思いがけない事故を引き起こすおそれがあります。また、眠気をもよおす薬を飲んだときも運転を控えてください。

運転中に携帯電話を使用したり、装置の調節などをしないでください。周囲の状況などへの注意が不十分になり、大変危険です。ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転中に使用することは法律で禁止されています。

お子さまを乗せるときは

お子さまを車の中に残したままにしないでください。車内が高温になって熱射病や脱水症状になり、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

また、お子さまが車内の装置を操作し、ドアガラスなどに挟まれたり、ライター・発炎筒などでやけどしたり、運転装置を動かして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

お車にお子さまを乗せる場合は、お子さまの安全を確保するための注意事項やチャイルドシートの取り付け方などをまとめた、「チャイルドシートの取り付け」（→P. 132）をお読みください。

保証および点検について

保証および点検整備については、別冊「メンテナンスノート」に記載していますので、併せてお読みください。

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施してください。
(法律で義務付けられています)

ランドクルーザープラド取扱書の構成について

この車には、説明内容ごとに分類された数冊の取扱書が添付されています。
走行前にそれぞれの取扱書をよくお読みになり、お車を正しくご使用ください。

取扱書の種類	主な記載内容
ランドクルーザープラド取扱書 （本書）	エンジン始動やドアの解錠・施錠のしかたなど、車両についての基本的な情報をはじめ、シートの操作や室内装備品（グローブボックスなど）の使用方法などを記載しています。
オフロード走行取扱書 （別冊）	トランスファースイッチやマルチテレインセレクト（装着車のみ）など、オフロード走行用の機能の説明に特化した内容となっています。また、オフロード走行を行う際の注意事項や、知っておくと便利な情報についても記載しています。
ナビゲーションシステム取扱書 （別冊：装着車のみ）	メーカーオプションのナビゲーションシステムの使用方法を説明しています。

本書の中の表示について

警告・注意・知識について

⚠警告

ここに記載されていることをお守りいただかないと、生命の危険または、重大な傷害につながるおそれがあります。お客様自身と周囲の人々への危険を避けたり減少させたりするため必ずお読みください。

⚠注意

ここに記載されていることをお守りいただかないと、お車や装備品の故障や破損につながるおそれがあります。

知識

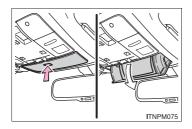
機能の説明や操作方法の説明以外で知っておいていただきたいこと、知っておくと便利なことを説明しています。

イラスト内の表示について

セーフティシンボル

“してはいけません”“このようにしないでください”“このようなことを起こさないでください”という意味を表しています。

操作を示す矢印

スイッチなどの操作（押す、まわすなど）を示しています。

操作後の作動（フタが開くなど）を示しています。

運転する前に

1

キー

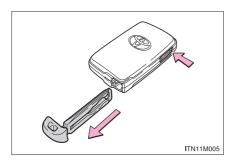
お客様へ次のキーをお渡しします。

1 電子キー

- スマートエントリー＆スタートシステムの作動（→P. 31）
- ワイヤレス機能の作動（→P. 43）

2 メカニカルキー

3 キーナンバープレート

メカニカルキーを使うには

メカニカルキーを取り出すには、解除ボタンを押してキーを取り出す

使用後はもとにもどし、電子キーと一緒に携帯してください。電子キーの電池が切れたときや、スマートエントリー＆スタートシステムが正常に作動しないとき、メカニカルキーが必要になります。（→P. 393）

知識

■キーナンバープレート

車の中以外の安全な場所（財布の中など）に保管してください。万一、メカニカルキーを紛失した場合、トヨタ販売店でキーナンバーから新しいキーが作製できます。（→P. 392）

■航空機に乗るときは

航空機に電子キーを持ち込む場合は、航空機内で電子キーのスイッチを押さないでください。また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にスイッチが押されないように保管してください。スイッチが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。

注意

■キーの故障を防ぐために

電子キーは精密機器です。次のことをお守りください。

- 落としたり、強い衝撃を与えたり、曲げたりしない
- 温度の高いところに長時間放置しない
- ぬらしたり超音波洗浄器などで洗ったりしない
- 電子キーに金属製または磁気を帯びた製品を取り付けたり、近付けたりしない
- 分解しない
- 電子キー表面にシールなどを貼らない
- テレビ・オーディオ・電磁調理器などの磁気を帯びた製品や、低周波治療器などの電気医療機器の近くに置かない

■電子キーについて

電子キーは電波法の認証に適合しています。必ず次のことをお守りください。

- 電池交換時以外は、不用意に分解しないでください。分解・改造したものを使用することは法律で禁止されています。
- 必ず日本国内でご使用ください。

⚠ 注意

■キーを携帯するときは

電源を入れた状態の電化製品とは 10cm 以上離して携帯してください。10cm 以内だと電化製品の電波と干渉し、正常に機能しない場合があります。

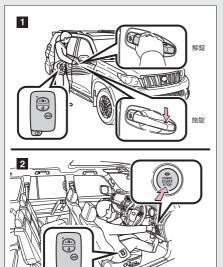
■スマートエントリー＆スタートシステムの故障などで販売店に車両を持っていくときは

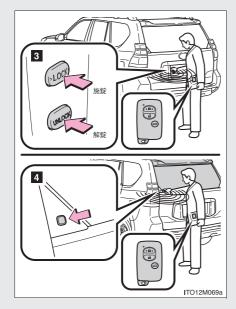
車両に付属しているすべての電子キーをお持ちください。

■キーを紛失したときは

電子キーを紛失した状態で放置すると、盗難の危険性が極めて高くなります。車両に付属している残りの電子キーをすべてお持ちの上、ただちにトヨタ販売店にご相談ください。

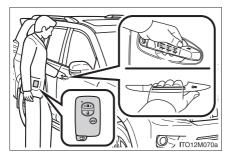
スマートエントリー&スタートシステム

電子キーをポケットなどに携帯するだけで次の操作が行えます。
(必ず運転者が携帯してください)

1 ドアを解錠・施錠する
(→P. 32)

2 エンジンを始動する
(→P. 154)

3 ドアを解錠・施錠する
(→P. 33)

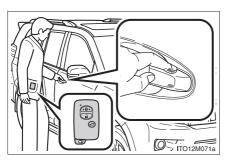
4 バックドアガラスを解錠する
(→P. 33)

フロント席ドアハンドルでの解錠・施錠

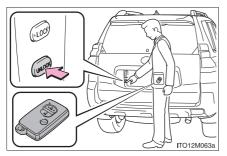
ITO12M070a

ハンドルを握って解錠する

ハンドル裏面のセンサー部に確実にふれてください。

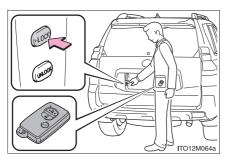
施錠操作後、約 3 秒間は解錠できません。

ITO12M071a

ドアハンドル上側、または下側のロックセンサー部（ハンドルのくぼみ部）にふれ、施錠する

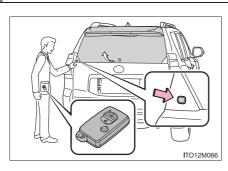
バックドアスイッチでの解錠・施錠

ITO12M063a

“ UNLOCK ”スイッチを押して解錠する

施錠操作後、約 3 秒間は解錠できません。

ITO12M064a

“ LOCK ” スイッチを押して施錠する

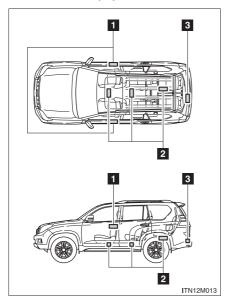
バックドアガラスの解錠

ITO12M066

スイッチを押してバックドアガラスのロックを解除する

バックドアガラスが少し開きます。

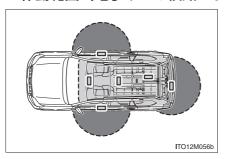
バックドアが開いているときは、バックドアガラスを解錠することはできません。(→P. 54)

アンテナの位置と作動範囲

■ アンテナの位置

1 車外アンテナ

2 車内アンテナ

3 ラゲージルーム外アンテナ

■ 作動範囲（電子キーの検知エリア）

（濃いグレーの円）: ドアの施錠・解錠時／バックドアガラスの解錠時

フロント席ドアハンドル・“UNLOCK”／“ＬＯＣＫ”スイッチ・バックドアガラスオープンスイッチから周囲約 70 cm 以内で電子キーを携帯している場合に作動します。（電子キーを検知しているドアハンドル／スイッチのみ作動します）

（薄いグレーの円）: エンジン始動時またはモード切りかえ時

車内で電子キーを携帯している場合に作動します。

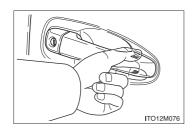
知識

■作動の合図（バックドアガラスの解錠時を除く）

ブザーと非常点滅灯の点滅で知らせます。（施錠は 1 回、解錠は 2 回）

■オートアラームについて

スマートエントリー&スタートシステムで施錠すると、オートアラームが設定されます。（→P. 110）

■ドアハンドル上側のロックセンサーで施錠できないときは

ドアハンドル上側のロックセンサー部にふれても施錠できないときは、上下のロックセンサー部に同時にふれてください。

■節電機能

長期駐車時に電子キーの電池と車両のバッテリーあがりを防止するため、節電機能が働きます。

● 次の状況では、スマートエントリー&スタートシステムによる解錠に時間がかかる場合があります。
  - ・車の外約 2m 以内に電子キーを 10 分以上放置した
  - ・5 日間以上スマートエントリー&スタートシステムを使用しなかった

● 14 日間以上スマートエントリー&スタートシステムを使用しなかった場合、運転席以外での解錠ができなくなります。この場合は、運転席のドアハンドルを握る、もしくはワイヤレス機能、メカニカルキーで解錠してください。

■機能が正常に働かないおそれのある状況

スマートエントリー＆スタートシステムは微弱な電波を使用しています。次のような場合は電子キーと車両間の通信をさまたげ、スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコン、エンジンイモビライザーシステムが正常に作動しない場合があります。（対処方法：→P. 393）

●電子キーの電池が消耗しているとき

●近くにテレビ塔や発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき

●無線機や携帯電話・コードレス式電話などの無線通信機器が電子キーの近くにあるとき

●電子キーが次のような金属製のものに接していたり、覆われたりしているとき

- アルミ箔などの金属の貼られたカード
- アルミ箔を使用したタバコの箱
- 金属製の財布やかばん
- 小銭
- カイロ
- CD や DVD などのメディア

●近くで他の電波式ワイヤレスリモコンを使用しているとき

●電子キーを次のような製品と同時に携帯しているとき

- 他の車の電子キーや電波式ワイヤレスリモコン
- パソコンや携帯情報端末（PDA など）
- デジタルオーディオプレーヤー
- ポータブルゲーム機器

●バックドアガラスに金属を含むフィルムなどが貼ってあるとき

■電池の消耗について

- 電池の標準的な寿命は 1 ～ 2 年です。
- 電池残量が少なくなると、エンジンを停止した際に車内から警告音が鳴ります。（→P. 373）
- 電子キーは常に電波を受信しているため、使用していないあいだでも電池が消耗します。次のような状態になったときは、電池が消耗している可能性があります。新しい電池に交換してください。
  - ・スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコンが作動しない
  - ・作動範囲が狭くなった
  - ・電子キーの LED が点灯しない
- 電池の著しい消耗を防ぐため、次のような磁気を発生する電化製品の約 1 m 以内に電子キーを置かないでください。
  - ・テレビ
  - ・パソコン
  - ・携帯電話やコードレス電話機、および充電器
  - ・電気スタンド
  - ・電磁調理器

■システムを正しく作動させるために

必ず電子キーを携帯した上で、スマートエントリー＆スタートシステムを作動させてください。

■電子キーの検知に関する留意事項

●車外から操作する場合は、電子キーを車に近付けすぎないようにしてください。作動時の電子キーの位置や持ち方によっては、電子キーが正しく検知されず、システムが正しく作動しないことがあります。（誤って警報が鳴ったり、キー閉じ込み防止機能が働かない場合があります）

●電子キーが作動範囲内にあっても、次のような場合は正しく作動しないことがあります。

・ドアの施錠・解錠時に電子キーがドアガラスやドアハンドルに近付きすぎる、または地面の近くや高い場所にある場合
・バックドアの施錠・解錠時に電子キーが地面の近くや高い場所にある、またはリヤバンパー中央部に近付きすぎた場合
・バックドアガラスの解錠時に電子キーが地面の近くや高い場所にある、またはリヤバンパー中央部に近付きすぎた場合
・電子キーがインストルメントパネルやフロア上、トノカバー（装着車のみ）の上、ドアポケット、またはグローブボックス内などに置かれている場合

●インストルメントパネル上面・ドアポケット付近に電子キーを置いたまま車外に出ると、電波の状況によっては車外アンテナに検知されて車外からのドアロックが可能になる場合があり、電子キーが車内に閉じ込められるおそれがあるため注意してください。

■スマートエントリー＆スタートシステム特有の留意事項

●電子キーが作動範囲内にあれば、電子キーを携帯している人以外でも施錠・解錠できます。ただし、電子キーを検知しているドア以外では解錠できません。

●電子キーが作動範囲内にある場合に、洗車や大雨などでドアハンドルに大量の水がかかると、ドアが施錠・解錠することがあります。解錠された場合でも、ドアの開閉操作がなければ約 30 秒後に自動的に施錠されます。

●電子キーが車室内または車に近い場所にある場合にワイヤレスリモコンなどで施錠を行うと、スマートエントリー＆スタートシステムによる解錠ができなくなることがあります。スマートエントリー＆スタートシステムで解錠できない場合は、ワイヤレスリモコンを使って解錠してください。

■施錠時の留意事項

●手袋を着用してロックセンサーにふれた場合、施錠が遅れたり、施錠されなかったりすることがあります。その場合、手袋をはずしてロックセンサーにふれてください。

●ロック操作は、連続で 2 回まで有効で、3 回目以降はロック動作しません。（この設定を変更することができます。：→P. 413）

●キーを携帯して洗車等で水をドアハンドルにかけた場合、施錠／解錠動作をくり返すことがあります。その場合はキーを車両から 2m 以上離れた場所に保管して、洗車等をしてください。（キーの盗難に注意してください）

●車室内にキーがあるときに、洗車機で洗車するなどして水をドアハンドルにかけた場合、「車室内にキーがあります」という警報がマルチインフォメーションディスプレイに表示され、車外のブザーが吹鳴することがあります。その場合は全ドアを施錠すれば警報は表示されなくなります。

●ロックセンサーの表面に氷や雪、泥が付着した場合、センサーが反応しない場合があります。反応しない場合は表面に付着した氷や雪、泥を取り除いて再度操作するか、ドアハンドル下部のロックセンサーを使って操作してください。

●ドアハンドルを操作するときに、爪がドアにあたる場合があります。ドアを傷付けたり、爪を割ったりしないよう注意してください。

■解錠時の留意事項

●急なドアハンドル操作や、車外アンテナの作動範囲内へ急に入ってドアハンドルを操作したときは、解錠できない場合があります。解錠されなかった場合は、ドアハンドルを一度もとの位置にもどし、再度解錠操作をして、解錠されたことを確認してからドアハンドルを引いてください。

●手袋を着用してドアハンドルを握った場合は、解錠が遅れたり、解錠されなかったりすることがあります。

●作動範囲内に他の電子キーがあるときは、ドアハンドルを握ってから解錠するまでの時間が少し長くなる場合があります。

■解錠操作のセキュリティ機能

解錠操作後、約 30 秒以内にドアを開けなかったときは、盗難防止のため自動的に施錠されます。

■警告音と警告表示について

誤操作などによる予期せぬ事故や盗難を防ぐため、車内や車外で警告音が鳴ったり、マルチインフォメーションディスプレイに警告が表示されることがあります。マルチインフォメーションディスプレイに警告が表示されたときは、ディスプレイの表示をもとに適切に対処してください。(→P. 360)

警告音のみが鳴る場合の状況と対処方法は次のようになります。

警告音	状況	対処方法
車外から“ピー”と 10 秒間鳴る	いずれかのドアが開いているときにスマートエントリー&スタートシステムで施錠しようとした※	全ドアを閉めたあと、再度施錠してください。
	すべてのドアが施錠、かつ車室内に電子キーがある状態でバックドアガラスを閉めた	バックドアガラスオープンスイッチを押してバックドアガラスを開き、車室内から電子キーを取り出してください。
車内から“ポーン、ポーン”と鳴り続ける	運転席ドアが開いている状態で“エンジン スタート ストップ”スイッチをアクセサリーモードにした（アクセサリーモードのとき運転席ドアを開いた）	“エンジン スタート ストップ”スイッチをOFFにしたあと、運転席ドアを閉めてください。
	運転席ドアが開いている状態で“エンジン スタート ストップ”スイッチを OFF にした	運転席ドアを閉めてください。

※ バックドアガラスのみが開いているときは警報されないため、バックドアガラスの閉め忘れにご注意ください。

■**長期間運転しないときは**

●盗難防止のため、電子キーを車両から 2 m 以上離しておいてください。

●あらかじめスマートエントリー＆スタートシステムを非作動にすることができます。（→P. 413）

■**バッテリー脱着時の留意事項**

●バッテリー脱着直後は、スマートエントリー＆スタートシステムによるドアの解錠ができない場合があります。解錠できなかった場合は、ワイヤレスリモコン、またはメカニカルキーで解錠・施錠を実施してください。

●バッテリー脱着後、最初のエンジン始動は失敗することがあります。2 回目以降のエンジン始動は正常に動作しますので、問題ではありません。

●車両は常に“ エンジン スタート ストップ ”スイッチの状態を記憶しています。バッテリー脱着時、車両はバッテリーをはずす前の状態に復帰します。バッテリーを脱着する際は、“ エンジン スタート ストップ ”スイッチを OFF にしてから行ってください。バッテリー脱着前の“ エンジン スタート ストップ ”スイッチの状態が不明の場合、バッテリー接続時は特に注意してください。

■**スマートエントリー＆スタートシステムが正常に働かないときは**

●ドアの施錠・解錠：→P. 393

●モードの切りかえ・エンジンの始動：→P. 393

■**電池が切れたときは**

→P. 336

■**カスタマイズ機能**

スマートエントリー＆スタートシステムを非作動にするなどの変更ができます。（カスタマイズ一覧：→P. 413）

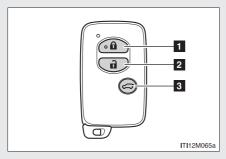
警告

■電波がおよぼす影響についての警告

- 植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器を装着されている方は、車内アンテナ・車外アンテナ（→P. 34）から約 22 cm 以内に近付かないようにしてください。電波により植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器の作動に影響を与えるおそれがあります。
- 植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器以外の医療用電気機器を使用される場合は、電波による影響について医療用電気機器製造業者などに事前に確認してください。電波により医療用電気機器の動作に影響を与えるおそれがあります。

スマートエントリー＆スタートシステムを非作動にすることもできます。
詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

ワイヤレスリモコン

ドアを施錠・解錠できます。

1 全ドアを施錠する

2 全ドアを解錠する

3 バックドアガラスを解錠する（約 1 秒押し続ける）

ワイヤレスリモコンの操作でドアガラス・ムーンルーフ（装着車のみ）を開閉できるように、設定を変更できます。
詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

知識

■作動の合図

ドア：ブザーと非常点滅灯の点滅で知らせます。（施錠は 1 回、解錠は 2 回）

バックドアガラス：ブザーで知らせます。

■半ドア警告ブザー

ドアが完全に閉まっていない状態でドアを施錠しようとすると、ブザーが鳴ります。ドアを完全に閉めてから、もう一度施錠してください。

■ブザーの音量調整

作動の合図のときに鳴るブザーや半ドア警告ブザーの音量を調整できます。（カスタマイズ一覧：→P. 413）

■オートアラームについて

ワイヤレスリモコンで施錠するとオートアラームが設定されます。（→P. 110）

■機能が正常に働かないおそれのある状況

→P. 36

■**電池の消耗について**

→P. 37

■**解錠操作のセキュリティ機能**

→P. 40

■**ワイヤレスリモコンが正常に働かないときは**

ドアの施錠・解錠：→P. 393

■**電池が切れたときは**

→P. 336

■**カスタマイズ機能**

ワイヤレスリモコンを非作動にするなどの変更ができます。
（カスタマイズ一覧：→P. 413）

ドア（フロントドア・リヤドア）

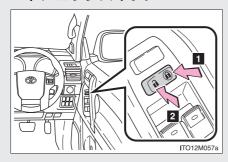
スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレス機能、ドアロックスイッチを使って施錠・解錠できます。

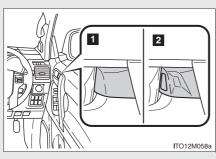
■ スマートエントリー＆スタートシステム

→P. 31

■ ワイヤレス機能

→P. 43

■ ドアロックスイッチ

1 全ドアを施錠する
2 全ドアを解錠する

■ ロックレバー

1 ドアを施錠する
2 ドアを解錠する

運転席ドアは、ロックレバーが施錠側になっていても、車内のドアハンドルを引くと開けられます。

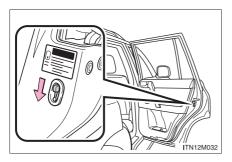
キーを使わずに外側からフロント席ドアを施錠するときは

手順 1 ロックレバーを施錠側にする

手順 2 ドアハンドルを引いたままドアを閉める

“エンジン スタート ストップ”スイッチがアクセサリーモード、またはイグニッション ON モードのときや、車内に電子キーが放置されているときは施錠されません。

キーが正しく検知されずに施錠される場合があります。

チャイルドプロテクター

施錠側にすると、リヤ席ドアが車内から開かなくなります

お子さまが車内からリヤ席ドアを開けられないようにできます。両側のリヤ席ドアを施錠側にしてください。

オートドアロック・アンロック機能

次の機能を設定・解除することができます。

設定変更のしかたについては、P. 413 を参照してください。

機能	作動内容
シフト操作連動ドアロック	エンジン回転中にシフトレバーを P から動かすと全ドアが施錠されます。
シフト操作連動アンロック	シフトレバーを P に入れると全ドアが解錠されます。
車速感応オートドアロック	車速が約 20km/h 以上になると全ドアが施錠されます。
運転席ドア開連動アンロック	" エンジン スタート ストップ "スイッチを OFF にしてから約 10 秒以内に運転席ドアを開けると全ドアが解錠されます。

知識

■衝撃感知ドアロック解除システム

車が前後左右から強い衝撃を受けると、すべてのドアが解錠されます。衝撃の度合いや事故の状況によっては作動しないことがあります。

■メカニカルキーでの施錠・解錠

メカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠ができます。(→P. 393)

■チャイルドプロテクター使用時のドアの開け方

ドアを解錠して車外のドアハンドルを引くと開きます。万一、車内から開ける場合は、ドアガラスを下げて手を出し、車外のドアハンドルを引いてください。

■カスタマイズ機能

キー操作によって解錠されるドアの設定などを変更できます。
(カスタマイズ一覧：→P. 413)

⚠警告

■事故を防ぐために

運転中は次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、不意にドアが開き、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ●シートベルトを必ず使用する
- ●すべてのドアを施錠する
- ●すべてのドアを確実に閉める
- ●走行中はドア内側のドアハンドルを引かない
  ドアが開き車外に放り出されたりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。特に、運転席はロックレバーが施錠側になっていてもドアが開くため、注意してください。
- ●お子さまをリヤ席に乗せるときは、チャイルドプロテクターを使用して車内からドアが開かないようにする

■ドアを開閉するときは

傾斜地・ドアと壁などのあいだが狭い場所・強風など、周囲の状況を確認し、予期せぬ動きにも対処できるよう、ドアハンドルを確実に保持してドアを開閉してください。

バックドア

バックドアは次の方法で施錠・解錠および開けることができます。

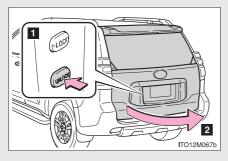
■ バックドアの施錠・解錠

▶ スマートエントリー&スタートシステム
→P. 31

▶ ワイヤレスリモコン
→P. 43

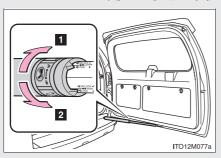
▶ ドアロックスイッチ
→P. 45

■ バックドアを開けるには

ITO12M067b

1 “UNLOCK”スイッチを押して、ロックを解除する

2 バックドアハンドルを引いて手前に引く

■ バックドアを開けた状態で固定するには

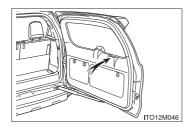
ITO12M077a

1 ロックを解除する

2 ロックする

バックドアが全開のときにのみ、バックドアステーをロックすることができます。

バックドアを閉める前に、必ずロックを解除してください。

知識

■バックドアグリップ

バックドアを操作するときに使用します。

バックドアを閉めるときは、バックドアグリップを握ったまま操作しないでください。(必ず外から押して閉めてください)

警告

■**走行中の警告**

●走行中はバックドアを閉じてください。
開けたまま走行すると、バックドアが車外のものにあたったり荷物が投げ出されたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
また、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。走行する前に必ずバックドアが閉まっていることを確認してください。

●走行前にバックドアが完全に閉まっていることを確認してください。
バックドアが完全に閉まっていないと、走行中にバックドアが突然開き、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●ラゲージルームには絶対に人を乗せないでください。
急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■**お子さまを乗せているときは**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ラゲージルームでお子さまを遊ばせないでください。
誤って閉じ込められた場合、熱射病などを引き起こすおそれがあります。

●お子さまにはバックドアの開閉操作をさせないでください。
不意にバックドアが作動したり、閉めるときに手・頭・首などを挟んだりするおそれがあります。

警告

■**バックドアの操作にあたって**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

- バックドアを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。
- 人がいるときは、安全を確認し動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- 強風時の開閉には十分注意してください。
  バックドアが風にあおられ、勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあります。

ITO12M047a

- バックドアステーをロックしていない状態で使用すると、バックドアが急に閉じて重大な傷害を受けるおそれがあります。特に傾斜地では、平坦な場所よりもバックドアの開閉がしにくく、急にバックドアが開いたり閉じたりするおそれがあります。バックドアを開けて作業するときは、必ずバックドアステーをロックした状態で行ってください。

ITO12M048a

- バックドアを閉めるときは、指などを挟まないよう十分注意してください。
- バックドアは必ず外から軽く押して閉めてください。バックドアグリップで直接バックドアを閉めると、手や腕を挟むおそれがあります。
- バックドアの開閉時は、バックドアステーにふれないでください。
  手を挟んだり、バックドアステーが破損したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- バックドアにトヨタ純正品以外のアクセサリー用品を取り付けないでください。バックドアの重量が重くなると、開閉操作のさまたげとなるおそれがあります。

警告

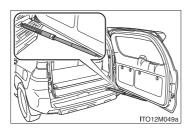
■バックドアを開けて駐停車するときは

車両後方に停止表示板、または停止表示灯を置いてください。バックドアが開いていると、非常点滅灯などが見えなくなるため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

■バックドアステーについて

バックドアには、バックドアの動きを制限するためのステーが取り付けられています。バックドアステーの損傷や作動不良を防ぐため、次のことをお守りください。

ITO12M049a

- バックドアにトヨタ純正品以外のアクセサリー用品を付けない
- ステーの上に乗ったり、ものを載せたりしない。また、無理な力をかけない

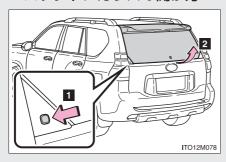
バックドアガラス

バックドアは閉じたまま、バックドアガラスのみを開くことができます。

■ バックドアガラスの解錠

▶ スマートエントリー&スタートシステム
→P. 33

▶ ワイヤレス機能
→P. 43

■ バックドアガラスの開け方

1 スイッチを押すとバックドアガラスが少し開く

2 ツマミを引き上げてバックドアガラスを持ち上げる

閉めるときは、バックドアガラスをゆっくり降ろしてバックドアに押し付け、確実にロックします。

知識

■バックドアガラスについて

●次の場合、バックドアガラスオープンスイッチを押してもバックドアガラスは開きません。

・バックドアが開いているとき
・バックドアが施錠されているとき（この場合、電子キーを携帯していればスマートエントリー&スタートシステムで開くことが可能です）

●バックドアガラスはゆっくりと開いてください。

■リヤワイパー・リヤウォッシャーの作動中は

バックドアガラスが開くと、リヤワイパー・リヤウォッシャーが停止します。バックドアガラスを閉めると、作動が再開します。

■バックドアガラスを閉めたあとは

バックドアガラスが確実にロックされていることを確認してください。確実にロックされていないと、リヤワイパー・リヤウォッシャーが正常に作動しなくなります。

■キー閉じ込み防止機能について

●すべてのドアが施錠されている場合、車室内に電子キーを置いたままバックドアガラスを閉めると、警告音が鳴ります。この場合、バックドアガラスオープンスイッチで開けられます。

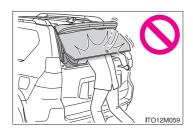
●すべてのドアが施錠されている状態で、予備のキーを車室内に入れたときも、キー閉じ込み防止機能が働き、バックドアガラスを開けることができます。盗難防止のため、車から離れるときは必ずすべての電子キーを携帯してください。

●すべてのドアが施錠されている状態で、車室内にキーを置いていても、電子キーが置かれた場所や、周囲の電波状況によっては、車室内の電子キーを検知できないことがあります。この場合は、キー閉じ込み防止機能が働かず、バックドアガラスを閉めたときに施錠されてしまいます。バックドアガラスを閉めるときには、必ず電子キーの所在を確認してください。

警告

■バックドアガラスの操作にあたって

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

- バックドアガラスを開ける前に、バックドアガラスに貼り付いた雪や氷などの重量物を取り除いてください。開いたあとに重みでバックドアガラスが落下するおそれがあります。
- バックドアガラスを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。
- 人がいるときは、安全を確認し動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- 強風時の開閉には十分注意してください。
  バックドアガラスが風にあおられ、勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあります。
- ダンパーステーを持ってバックドアガラスを閉めたり、ぶら下がったりしないでください。
  手を挟んだり、ダンパーステーが破損したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- バックドアガラスにトヨタ純正品以外のアクセサリー用品を取り付けないでください。
  バックドアガラスの重量が重くなると、開いたあとに落ちるおそれがあります。

- 半開状態で使用すると、バックドアガラスが落ちて重大な傷害を受けるおそれがあります。
  特に傾斜地では、平坦な場所よりもバックドアガラスの開閉がしにくく、急にバックドアガラスが開いたり閉じたりするおそれがあります。必ずバックドアガラスが全開で静止していることを確認して、使用してください。

⚠警告

●バックドアガラスを閉めるときは、指などを挟まないよう十分注意してください。

●バックドアガラスは必ず外から軽く押して閉めてください。

●お子さまにはバックドアガラスの開閉操作をさせないでください。
不意にバックドアガラスが作動したり、閉めるときに手・頭・首などを挟んだりするおそれがあります。

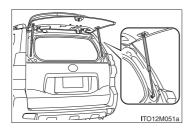
■走行中の警告

●走行中はバックドアガラスを閉じてください。
開けたまま走行すると、バックドアガラスが車外のものにあたったり荷物が投げ出されたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
また、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。走行する前に必ずバックドアガラスが閉まっていることを確認してください。

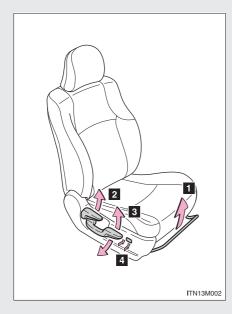
●走行前にバックドアガラスが確実にロックされていることを確認してください。
バックドアガラスが完全に閉まっていないと、走行中にバックドアガラスが突然開き、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

■ダンパーステーについて

バックドアガラスにはバックドアガラスを支えるためのダンパーステーが取り付けられています。ダンパーステーの損傷や作動不良を防ぐため次のことをお守りください。

- ●ビニール片・ステッカー・粘着材などの異物をステーのロッド部（棒部）に付着させない
- ●ロッド部を軍手などでふれない
- ●バックドアガラスにトヨタ純正品以外のアクセサリー用品を付けない
- ●ステーに手をかけたり、横方向に力をかけたりしない

フロントシート

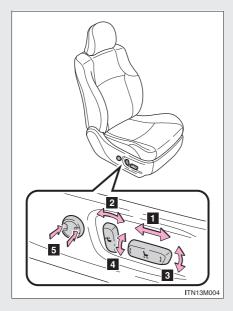
■ マニュアルシート

1 前後位置調整

2 リクライニング調整

3 シート全体の上下調整※

4 腰部硬さ調整※
（ランバーサポート）

※運転席のみ

■ パワーシート

1 前後位置調整

2 リクライニング調整

3 クッション前端の上下調整※

4 シート全体の上下調整※

5 腰部硬さ調整※（ランバーサポート）

※運転席のみ

警告

■ リクライニング調整について

- 背もたれは必要以上に倒さないでください。
  必要以上に倒しすぎると、事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けたり、肩部ベルトが首にかかるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- マニュアルシート装着車は、シート調整後はシートがきちんと固定されていることを確認してください。

セカンドシート

■ 5人乗り車

ITN13M111

リクライニング調整

■ 7人乗り車

ITO13M165

1 リクライニング調整

2 前後位置調整

サードシートへの乗り降り（7人乗り車）

■ 乗車するときは

サードシートへ乗り降りするときは、次の手順で助手席のセカンドシートを移動します。

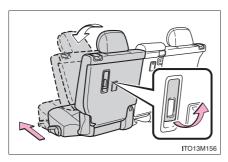
ITO13M155

リクライニングレバーをいっぱいまで引き上げる

背もたれが前に倒れて、シートを前方に移動することができます。

サードシートに乗り込んだあとは、シートを後方に動かし、背もたれを起こします。

■ 降りるときは

ITO13M156

背もたれの背面にあるレバーをいっぱいまで引き上げる

背もたれが前に倒れて、シートを前方に移動することができます。

車から降りたあとは、シートを後方に動かし、背もたれを起こします。

シートアレンジ操作を行う前に

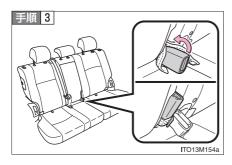
ラゲージルームを拡大（5人乗り車のみ）、またはセカンドシートを前倒し（7人乗り車のみ）する前に、次の手順で準備を行ってください。

手順 1 車を安全な場所に駐車する

しっかりとパーキングブレーキをかけ、シフトレバー（→P. 159）をPにします。

手順 2 フロントシートの位置・背もたれの角度を調整する（→P. 59）

フロントシートの位置によっては、背もたれが後方に倒れていると、セカンドシートの操作時にあたる場合があります。

ITO13M154a

手順 3 中央席シートベルトのバックルをバンドで固定する（5人乗り車のみ）

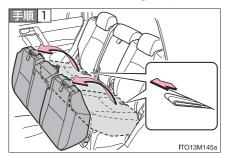
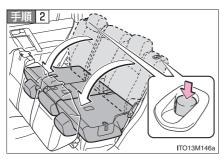
手順 4 ヘッドレストを下げる（→P. 81）

手順 5 セカンドシートのアームレストを引き出している場合は、格納する（→P. 291）

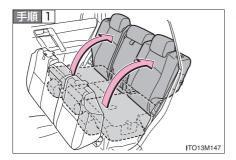
手順 6 トノカバーを取り付けてある場合は、取りはずす
（トノカバー装着車のみ：→P. 296）

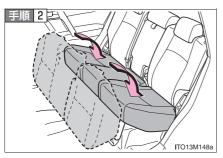
ラゲージルームの拡大（5人乗り車のみ）

セカンドシートのクッションを引き起こして、ラゲージルームを拡大することができます。

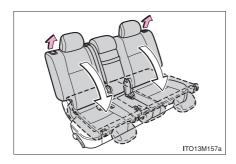
■ ラゲージルームを拡大するときは

ロック解除ストラップを引いてシートクッションを引き起こす

背もたれを手で支えながらロック解除ボタンを押してロックを解除し、背もたれを前方に倒す

ロックが確実に解除されるまで、ボタンを下に押し込んでください。

■ もとにもどすときは

背もたれを起こして固定する

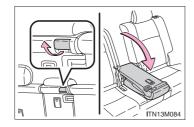
背もたれが確実にロックされたことを確認してください。

シートクッションを降ろし、クッション先端部を押さえ付けてロックする

セカンドシートの前倒し（7人乗り車のみ）

ITO13M157a

前倒しレバーをいっぱいまで引き上げたまま、背もたれを前方に倒す

知識

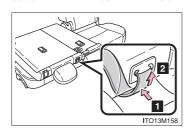
■中央席の前倒しについて

ITN13M084

中央席の前倒しレバーをいっぱいまで引き上げると、中央席のみを前倒しすることができます。長い荷物を積む場合に便利です。

もとにもどすときは、ロックされる位置まで中央席を引き起こします。

■前倒ししたあと、背もたれが引き起こせない場合は（7人乗り車の運転席側シート）

ITO13M158

1 背もたれの先端を押し込んで、中央席のシートベルトをゆるめる

2 シートベルトを少し巻き取らせてシートベルトのロックを解除する

警告

■**セカンドシートを操作するときは**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●走行中にセカンドシートを操作しない

●平坦な場所でパーキングブレーキを確実にかけ、シフトレバーをＰにする

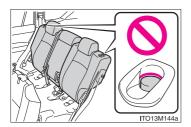
●倒した背もたれの上やラゲージルームに人を乗せて走行しない

●お子さまがラゲージルームに入らないよう注意する

■**リクライニング調整について**

背もたれを必要以上に倒さないでください。
事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けたり、肩部ベルトが首にかかるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■**シートをもとにもどしたあとは**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●シートを前後に軽くゆさぶり、確実に固定する
５人乗り車ではシートが確実に固定されていない場合、ボタンのまわりに赤色が見えます。赤色が見えていないことを確認してください。

●シートベルトを挟み込まないようにする

注意

■**シートを操作するときは**

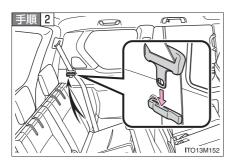
- 可動部や結合部に手や足などを挟まないように注意してください。
- シートに人が乗っている状態でシートアレンジ操作をしないでください。

サードシート（7人乗り車のみ）

リクライニング調整
（サードパワーシート装着車のみ）

サードシートを格納する前に

手順 1 車を安全な場所に駐車する

シフトレバーをPにし（→P. 159）、しっかりとパーキングブレーキをかけます。（→P. 166）

サードシートのシートベルトを格納する

シートベルトをシートベルトハンガーに挟み、ハンガーの穴部にプレートを挿し込みます。

手順 3 セカンドシートの位置・背もたれの角度を調整する（→P. 61）

セカンドシートの位置によっては、背もたれが後方に倒れていると、サードシートの格納時にあたる場合があります。

ラゲージルームをフルフラットにする場合は、「セカンドシートの前倒し」（→P. 65）の手順で、セカンドシートを前倒しの状態にします。

サードシートの格納（サードマニュアルシート装着車）

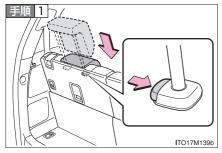
サードシートを手動でフロアに格納し、ラゲージルームをフラットにすることができます。

■ 格納するには（バックドア側から操作するとき）

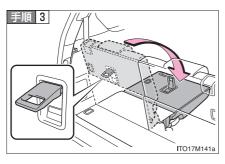
ITO17M139b

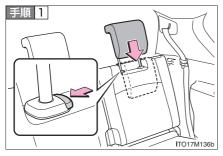
ヘッドレストを下げる

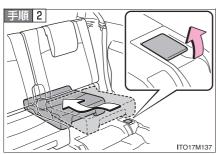
解除ボタンを押しながら、ヘッドレストを押し下げます。

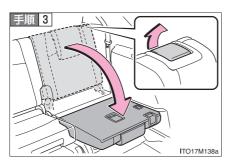
ITO17M140a

背もたれ背面のレバーを引く

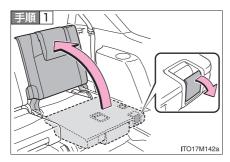
シートクッションと背もたれのロックが同時に解除され、シートクッションが自動でフロアに格納されます。

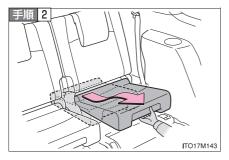
ITO17M141a

シートクッションが格納されたのを確認し、背もたれ背面のレバーを引きながら背もたれを前に倒す

■ 格納するには（車室内から操作するとき）

ヘッドレストを下げる

解除ボタンを押しながら、ヘッドレストを押し下げます。

シート下部にあるレバーを引く

ロックが解除され、シートクッションが自動でフロアに格納されます。

シートクッションが格納されたのを確認し、ヘッドレストの横にあるレバーを引きながら、背もたれを前に倒す

■ もとにもどすには

背もたれを起こす

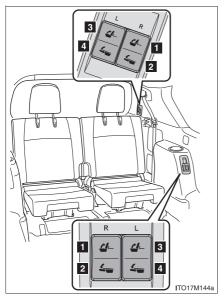
車室内からヘッドレストの横にあるレバーを引いてロックを解除したあと、固定される位置まで背もたれを起こします。

グリップを手前に引いて、シートクッションを引き出す

手順 3 シートベルトをもとにもどす

格納したときと逆の手順で、シートベルトをもとにもどします。

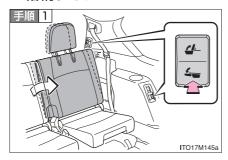
サードシートの格納（サードパワーシート装着車）

スイッチ操作でサードシートをフロアに格納し、ラゲージルームをフラットにすることができます。

■ スイッチの位置

1 復帰スイッチ（運転席側用）
2 格納スイッチ（運転席側用）
3 復帰スイッチ（助手席側用）
4 格納スイッチ（助手席側用）

シート横またはバックドア横の、どちら側のスイッチでも同様に操作することができます。

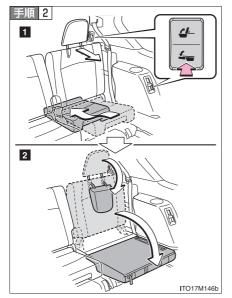
■ 格納するには

手順 1

 を押し続ける※

ブザーが 2 回鳴ったあと、背もたれが前方に動きます。作動中は、スイッチから手を離さないでください。

ブザーが 2 回鳴り、背もたれが垂直付近で自動停止します。自動停止後、スイッチから手を離します。

※リクライニングスイッチにより、背もたれを最前方にしてあるときは、手順 2 から作動を開始します。

手順 2

 を押し続ける

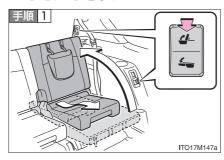
次のように作動します。作動中は、スイッチから手を離さないでください。

1 ブザーが 2 回鳴ったあと、背もたれの前倒し作動が開始し、シートクッションが自動でフロアに格納されます。

2 背もたれの前倒し作動に合わせて、ヘッドレストが自動で前に倒れ、背もたれが完全に前に倒れます。

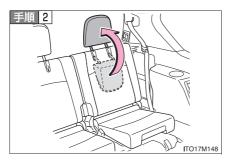
格納作動が完了すると、ブザーが 2 回鳴り、自動停止します。自動停止後、スイッチから手を離します。

■ もとにもどすには

手順 1

を押し続ける

ブザーが 2 回鳴ったあと、背もたれとシートクッションが作動開始します。作動中は、スイッチから手を離さないでください。

復帰作動が完了すると、ブザーが 2 回鳴り、自動停止します。自動停止後、スイッチから手を離します。

手順 2

ヘッドレストをもとにもどす

ヘッドレストを引き起こします。

手順 3 シートベルトをもとにもどす

格納したときと逆の手順で、シートベルトをもとにもどします。

知識

■ サードシート格納時の作動条件（サードパワーシート装着車）

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチが OFF、またはイグニッション ON モードで、シフトレバーの位置が P にあるとき

■ サードシートの格納作動中は（サードパワーシート装着車）

作動開始後は、自動停止するまでスイッチから手を離さないでください。
スイッチから手を離すと作動が中断し、ブザー（連続音）が鳴ります。
再度スイッチを押すと、ブザーは止まります。

■警告ブザーが鳴り続けて止まらない場合は（サードパワーシート装着車）

システムに異常が発生すると、“ エンジン スタート ストップ ” スイッチがイグニッション ON モードのあいだ、警告ブザーが鳴り続ける場合があります。
その際は、次の操作を行ってください。

手順 1 を押し続けてシートを復帰する

手順 2 を押し続けてシートを格納する

各操作時は、シートが自動停止してブザーが 2 回鳴るまで、スイッチから手を離さないでください。

以上の処置で警告ブザーが止まらないときは、続けて次の操作を行ってください。

手順 3 を押し続けてシートを復帰する

手順 4 を押し続けた状態のまま約 10 秒以内に を 5 回押す

ブザーが 3 回鳴ったあと、連続で鳴り続けます。

手順 5 再度 手順 1 ～ 手順 2 の操作を行う

以上の処置を行っても異常が解消しない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

⚠警告

■サードシートを操作するときは

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●走行中にサードシートを操作しない

●平坦な場所でパーキングブレーキを確実にかけ、シフトレバーをＰにする

●倒した背もたれの上やラゲージルームに人を乗せて走行しない

●お子さまがラゲージルームに入らないよう注意する

■リクライニング調整について（サードパワーシート装着車）

背もたれを必要以上に倒さないでください。
事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けたり、肩部ベルトが首にかかるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■サードシートを格納するときは

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあり危険です。

●操作前に必ず、シート周辺に人や荷物などがないことを確認する

●操作はゆっくり行う（サードマニュアルシート装着車）

●シート可動部分には絶対に手や足などを入れない

●お子さまにシートの操作をさせない

●シートクッションだけを格納した状態で使用しない
（サードマニュアルシート装着車）

警告

■シートをもとにもどしたあとは

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●シートを前後に軽くゆさぶり、確実に固定する（サードマニュアルシート装着車）

●シートベルトを挟み込まないようにする

●シートベルトハンガーから、シートベルトをもとどおりに取りはずしてあるか確認する

●ヘッドレストをもとどおりに起こす（サードパワーシート装着車）

注意

■シートを操作するときは

●可動部や結合部に手や足などを挟まないように注意してください。

●シートに人が乗っている状態でシートアレンジ操作をしないでください。

ドライビングポジションメモリー＊

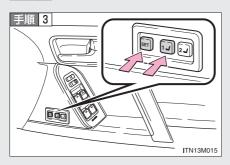
お好みのドライビングポジション（運転席・ハンドルの位置）を登録して、ワンタッチで呼び出すことができます。また、ドアの解錠と連動させることもできます。（メモリーコール機能）
ドライビングポジションは 2 パターンまで登録できます。

■ ポジションの登録

手順 1 “ エンジン スタート ストップ ”スイッチをイグニッション ON モードにする

手順 2 運転席・ハンドルをお好みの位置に調整する

手順 3

ITN13M015

“ SET ” ボタンを押しながら、または“ SET ” ボタンを押したあと 3 秒以内に、1 ～ 2 のうち登録したいボタンをブザーが鳴るまで押す

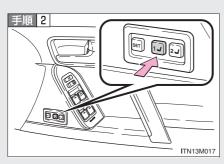
すでに同じボタンに登録されている場合は、上書きされます。

■ ポジションの呼び出し

シフトレバーが P の位置にあることを確認します。

手順 1 “ エンジン スタート ストップ ”スイッチをイグニッション ON モードにする

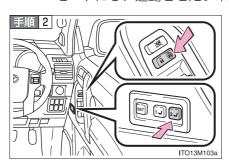
手順 2

ITN13M017

1 ～ 2 のうち呼び出したいポジションのボタンをブザーが鳴るまで押す

＊ : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

ドアの解錠と連動させるには（メモリーコール機能）

登録させたいキーのみ携帯し、シフトレバーを P にして運転席ドアを閉めてください。
車内にキーが 2 つ以上あると、正確に登録できません。

手順 1 “ エンジン スタート ストップ ” スイッチをイグニッション ON モードにし、連動させたいポジションを呼び出す

呼び出したポジションのボタンを押しながら、ドアロックスイッチの施錠側または解錠側をブザーが鳴るまで押す

スマートエントリー＆スタートシステム、またはワイヤレスリモコンでドアを解錠して運転席ドアを開けると、ドライビングポジションが呼び出されます。

知識

■ **ドアの解錠との連動を解除するには**

解除させたいキーのみ携帯してください。
車内にキーが 2 つ以上あると、正確に解除できません。

手順 1 “エンジン スタート ストップ”スイッチをイグニッションONモードにする

手順 2 “ SET ” ボタンを押しながら、ドアロックスイッチの施錠側、または解錠側をブザーが鳴るまで押す

■ **乗車前に呼び出すには**

運転席ドアを開け、180 秒以内、または運転席ドアを閉め 60 秒以内に呼び出したいポジションのボタンを押すと、シートの位置が調整されます。ハンドルの位置は、“エンジン スタート ストップ”スイッチを押すと調整されます。

■ **ポジションの呼び出し作動を途中で止めるには**

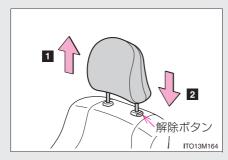
次のいずれかの操作をします。

- “ SET ” ボタンを押す
- 1 または 2 のボタンを押す
- シート調整スイッチを操作する（シートのみ作動停止）

警告

■ **シート調整時の警告**

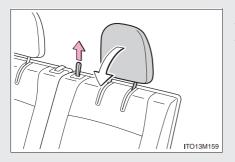
シート調整時は、シートがセカンドシート乗員にあたったり、運転者の体がハンドルに圧迫されたりしないよう注意してください。

ヘッドレスト

■ サードパワーシートを除く

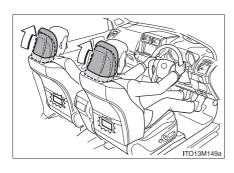
1 上がる

2 下がる

下げるときは、解除ボタンを押しながら操作します。

■ サードパワーシート*

ストラップを引くと、ヘッドレストが前に倒れます。

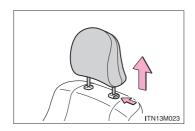
もとにもどすときは、ヘッドレストを引き上げます。

アクティブヘッドレスト（フロント席）

後方から衝突された際、乗員の腰がシートバックを押すことで、内蔵された機構が作動し、ヘッドレストが斜め上方に移動します。

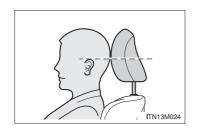
＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

知識

■ヘッドレストを取りはずすときは（サードパワーシートを除く）

ITN13M023

解除ボタンを押しながら取りはずします。

■ヘッドレストの高さについて※1

ITN13M024

必ずヘッドレストの中心が両耳のいちばん上のあたりになるよう調整してください。

※1 5人乗り車のセカンドシートおよび、7人乗り車のセカンドシート中央席・サードシートを除く

■セカンドシート※2・サードマニュアルシートのヘッドレストの使用について

ITO14F026

使用するときは、常に格納位置（ヘッドレストが最も下がった位置）から“カチッ”と音がするまで上げた位置にしてください。また、ヘッドレストを押し下げ、確実に固定されていることを確認してください。

※2 7人乗り車の左右席を除く

■サードパワーシートのヘッドレストの使用について

シートを使用するときは、必ずヘッドレストを起こした状態にしてください。

■アクティブヘッドレストについて

背もたれに弱い衝撃を受けてもヘッドレストが動く場合がありますが、故障ではありません。

警告

■ヘッドレストについて

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ヘッドレストは、それぞれのシート専用のものを使用する
- ヘッドレストを正しい位置に調整する
- ヘッドレストを調整したあとは、固定されていることを確認する
- ヘッドレストをはずしたまま走行しない
- サードシートに乗車するときは、必ずヘッドレストを起こした状態にする（サードパワーシート装着車）

シートベルト

走行前にすべての乗員は必ずシートベルトを正しく着用してください。

■ 正しく着用するには

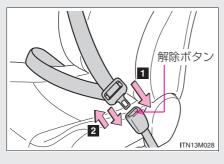
● 肩部ベルトを肩に十分かける

首にかかったり、肩からはずれないようにしてください。

● 腰部ベルトを必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させる

● 背もたれを調整し、上体を起こし、深く腰かけて座る

● ねじれがないようにする

■ 着け方・はずし方

1 ベルトを固定するには、“カチッ”と音がするまでプレートをバックルに挿し込む

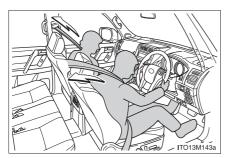
2 ベルトを解除するには、解除ボタンを押す

■ シートベルトの高さ調節（フロント席・セカンドシート外側席）

1 解除ボタンを押しながら、アジャスターを下げる

2 アジャスターを上げる

“カチッ”と音がして固定されるところまで動かしてください。

シートベルトプリテンショナー（フロント席）

前方・側方から強い衝突を受けたとき、シートベルトを引き込むことで適切な乗員拘束効果を確保します。

前方・側方からの衝撃が弱いときや、うしろからの衝撃のときは作動しない場合があります。

プリクラッシュシートベルト（フロント席）*

プリクラッシュセンサーにより衝突物が検知され、衝突が避けられないと判断したとき、衝突の前にフロントシートベルトを巻き取り、プリテンショナーの効果を高めます。

急ブレーキをかけたときや、車がコントロールを失ったときも同様に作動します。(→P. 232)

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

知識

■緊急時シートベルト固定機構

急停止や衝撃があったときベルトがロックされます。急に体を前に倒したり、シートベルトをすばやく引き出してもロックする場合があります。一度ベルトを巻きもどし、ゆっくり動かせば、ベルトを引き出すことができます。

■妊娠中の女性の場合

ITN13M034

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。(→P. 84)

妊娠中の方も、通常の着用のしかたと同じように、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにお腹のふくらみの下に着用してください。また、肩部ベルトは確実に肩を通し、お腹のふくらみを避けて胸部にかかるように着用してください。

ベルトを正しく着用していないと、衝突したときなどに、母体だけでなく胎児までが重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■疾患のある方の場合

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。

■お子さまのシートベルトの使い方

この車のシートベルトは、シートベルトを装着するのに十分な、大人の体格を持った人用に設計されています。

- シートベルトが正しい位置で着用できない小さなお子さまの場合は、お子さまの体に合ったチャイルドシートを使用してください。(→P. 123)
- シートベルトが正しい位置で着用できるお子さまの場合は、シートベルトの着用のしかたに従ってください。(→P. 84)

■シートベルトプリテンショナーについて

シートベルトプリテンショナーは一度しか作動しません。玉突き衝突などで連続して衝撃を受けた場合でも、一度作動したあとは、その後の衝突では作動しません。

⚠警告

急ブレーキや事故の際のけがを避けるため、次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■シートベルトの着用について

- 全員がシートベルトを着用する
- シートベルトを正しく着用する
- シートベルトは一組につき一人で使用する
  お子さまでも一組のベルトを複数の人で使用しない
- お子さまはセカンドシートまたはサードシート（7 人乗り車のみ）に座らせてシートベルトを着用させる
- 背もたれは必要以上に倒さない
  上体を起こし、シートに深く座る
- 肩部ベルトを腕の下に通して着用しない
- 腰部ベルトはできるだけ低い位置に密着させ着用する
- サードシート（7人乗り車のみ）のシートベルトを使用するときは、シートベルトがシートベルトハンガー (→P. 68) にかかっていないことを確認する

■お子さまを乗せるときは

お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一ベルトが首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。誤ってそのようになってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。

警告

■ **シートベルトの損傷・故障について**

- ●ベルトやプレート・バックルなどは、シートやドアに挟むなどして損傷しないようにしてください。
- ●シートベルトが損傷したときは、シートベルトを修理するまでシートは使用しないでください。
- ●プレートがバックルに確実に挿し込まれているか、シートベルトがねじれていないかを確認してください。うまく挿し込めない場合はただちにトヨタ販売店に連絡してください。
- ●もし重大な事故にあったときは、明らかな損傷が見られない場合でも、シート・シートベルトを交換してください。
- ●プリテンショナー付シートベルトの取り付けや取りはずし・分解・廃棄などは、トヨタ販売店以外でしないでください。
  不適切に扱うと、正常に作動しなくなり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ **プリテンショナー付シートベルトについて**

シートベルトプリテンショナーが作動すると、SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯が点灯します。その場合は、シートベルトを再使用することができないため、必ずトヨタ販売店で交換してください。

ハンドル

ハンドル位置を運転しやすいように調整できます。

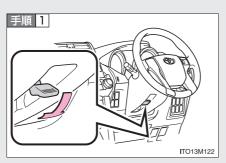
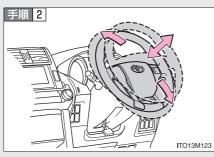
■ 手動での調整（マニュアルチルト＆テレスコピックステアリング装着車）

手順 1

ITO13M122

ハンドルを持ち、レバーを下げる

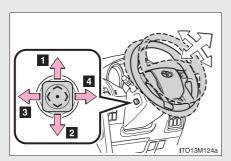
手順 2

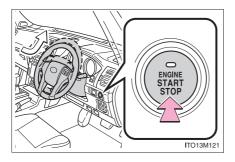
ITO13M123

ハンドルを上下･前後に動かし、適切な位置にする

位置が決定したら、レバーを上げてハンドルを固定してください。

■ 電動での調整（電動チルト＆テレスコピックステアリング装着車）

スイッチを操作すると、ハンドルが次のように動きます。

ITO13M124a

1 上方へ
2 下方へ
3 前方へ
4 手前へ

オートアウェイ＆オートリターン機能*

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチを OFF にすると、乗り降りがしやすいようにハンドルが動きます。

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチをアクセサリーモードまたはイグニッション ON モードにすると、もとの位置にもどります。

知識

■ハンドル位置調整の作動条件（電動チルト＆テレスコピックステアリング装着車）

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチがアクセサリーモード、またはイグニッション ON モードのとき

■ハンドル位置の自動調整 (ドライビングポジションメモリー装着車)

お好みのハンドル位置をドライビングポジションメモリーに登録すると、自動で調整されます。(→P. 78)

警告

■走行中の警告

走行中はハンドル位置の調整をしないでください。
運転を誤り、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

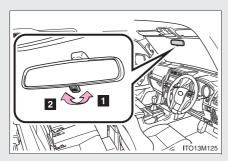
**■ハンドル位置を調整したあとは
（マニュアルチルト＆テレスコピックステアリング装着車）**

ハンドルが確実に固定されていることを確認してください。
固定が不十分だとハンドルの位置が突然かわり、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

＊ : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

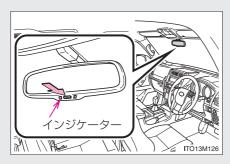
インナーミラー

■ マニュアル防眩ミラー

後続車のライトがまぶしいときは、レバーを操作して反射光を減少（防眩）できます。

1 通常使用時

2 防眩時

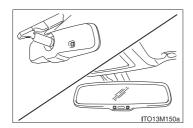
■ 自動防眩ミラー

自動（AUTO）モードにしておくと、センサーが後続車のライトを感知し、自動で反射光を減少させます。

自動モードの ON・OFF を切りかえる

自動モードのときはインジケーターが点灯します。

“エンジン スタート ストップ”スイッチをイグニッション ON モードにしたときは、ミラーは常に自動モードになっています。

知識

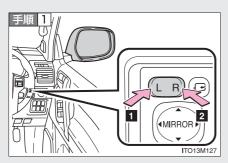
■センサーの誤作動防止（自動防眩ミラー装着車）

センサーの誤操作を防ぐため、センサーにふれたり、センサーを覆ったりしないでください。

警告

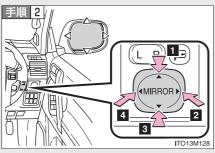
■運転中の警告

運転中はミラーの調整をしないでください。
運転を誤って、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

ドアミラー

スイッチで鏡面の角度調整をします。

調整するミラーを選ぶには、スイッチを押す

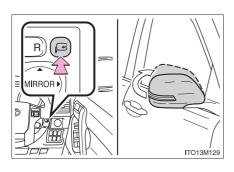
1 左

2 右

ミラーの鏡面を調整するには、スイッチを押す

1 上

2 右

3 下

4 左

ドアミラーを格納するときは

ボタンを押してドアミラーを格納する

もう一度押すと、もとの位置にもどります。

知識

■作動条件

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチがアクセサリーモード、またはイグニッション ON モードのとき

■ミラーが曇ったときは（ミラーヒーター装着車）

ミラーヒーターを作動させて、曇りを取ることができます。（→P. 257）

警告

■走行しているときは

走行中は次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、運転を誤って重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ミラーの調整をしない
- ミラーを格納したまま走らない
  走行前に必ず、運転席側および助手席側のミラーをもとの位置にもどして、正しく調整する

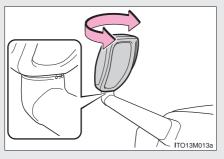
■ミラーが動いているときは

手をふれないでください。
手を挟んでけがをしたり、ミラーの故障などの原因になるおそれがあります。

■ミラーヒーターが作動しているときは（ミラーヒーター装着車）

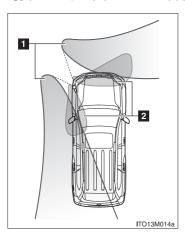
鏡面が熱くなるのでふれないでください。

補助確認装置＊

発進時またはごく低速時に、車両前面と助手席側車両側面を確認するときに役立ちます。

ミラーが動いてしまったときは、突起とマークの位置を合わせて、ミラーの位置をもどします。

知識

■ミラーに映るおよその範囲

身長・シートの位置により、確認できる範囲は異なります。

1 地面が視認できる範囲

2 地上約 1m の高さまで視認できる範囲

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

⚠ 注意

■補助確認装置について

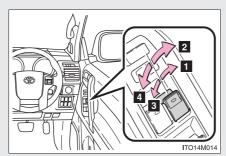
●補助確認装置の鏡面部に汚れが付着しているときは、やわらかい布などを使用して汚れをふき取ってください。

●車両直前・直左部や後方の確認は、直接確認するかインナーミラー・ドアミラーなども併用し十分注意して行ってください。

パワーウインドウ

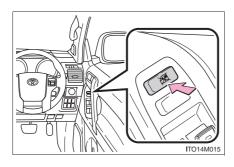
スイッチでドアガラスを開閉できます。

スイッチを操作すると、ドアガラスを下記のように動かします。

ITO14M014

1 閉める
2 自動全閉※
3 開ける
4 自動全開※

※途中で停止するときは、スイッチを反対側へ操作します。

ウインドウロックスイッチ

ITO14M015

スイッチを押すと、運転席以外のドアガラスが作動不可になります。

お子さまが誤ってドアガラスを開閉することを防止できます。

知識

■作動条件

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチがイグニッション ON モードのとき

■“ エンジン スタート ストップ ” スイッチ OFF 後の作動

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチをアクセサリーモードまたは OFF にしたあとでも、約 43 秒間ドアガラスを開閉できます。ただし、そのあいだに運転席ドアを開閉すると作動しなくなります。

■挟み込み防止機能

ドアガラスを閉めているときに、窓枠とドアガラスのあいだに異物が挟まると、作動が停止し、少し開きます。

■パワーウインドウを閉めることができないときは

挟み込み防止機能が異常に作動してしまい、ドアガラスを閉めることができないときは、閉めることができないドアのパワーウインドウスイッチで、下記の操作を行ってください。

- 車を停止し、“ エンジン スタート ストップ ” スイッチをイグニッション ON モードの状態で、パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続けることでドアガラスを閉めることができます。
- 上記の操作を行ってもドアガラスが閉まらない場合、挟み込み防止機能の初期化を次の手順で実施してください。

手順 1 パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続け、ドアガラスを閉めたあと、さらにスイッチを 6 秒間引き続ける

手順 2 パワーウインドウスイッチを「自動全開」の位置で押し続け、ドアガラスを全開にしたあと、さらにスイッチを 2 秒間押し続ける

手順 3 再度、パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続け、ドアガラスを閉めたあと、さらにスイッチを 2 秒間引き続ける

ドアガラス作動途中でスイッチから手をはなすと、最初からやり直しとなります。以上の操作を行っても反転して閉じ切らない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■カスタマイズ機能

ドアキー連動開閉機能などを設定することができます。
(カスタマイズ一覧：→P. 413)

警告

■ドアガラスを開閉するときは

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

ITO14M005a

- ドアガラスを開閉するときは、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込んだりしないようにしてください。特にお子さまへは手などを出さないように声かけをしてください。
- お子さまには、ドアガラスの操作をさせないでください。
ドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

■挟み込み防止機能

- 挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだりしないでください。重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 挟み込み防止機能は、ドアガラスが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。また、挟み込み防止機能は、スイッチを引き続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

注意

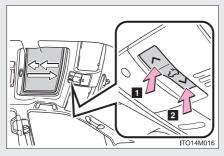
■ドアガラスを開閉するときは

次のことをお守りください。

- 運転席スイッチと他のドアスイッチを同時に逆方向に動かさない
- ドアガラスの全開・全閉後に同じ方向にスイッチを押し続けない

ムーンルーフ*

頭上のスイッチでムーンルーフを開閉・チルトアップ／ダウンすることができます。

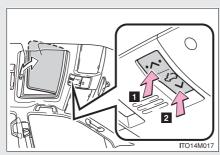
■ 開閉

1 ムーンルーフを開く※

全開の手前の位置で止まります。（風切音の低減機能）

全開にしたいときは、スイッチをもう一度押してください。

2 ムーンルーフを閉める※

※途中で停止するときは、ムーンルーフスイッチを軽く押します。

■ チルトアップ／ダウン

1 チルトアップ※

2 チルトダウン※

※途中で停止するときは、ムーンルーフスイッチを軽く押します。

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

知識

■作動条件

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチがイグニッション ON モードのとき

■“ エンジン スタート ストップ ” スイッチ OFF 後の作動

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチをアクセサリーモードまたは OFF にしたあとでも、約 43 秒間は操作できます。ただし、そのあいだに運転席ドアを開閉すると作動しなくなります。

■挟み込み防止機能

ムーンルーフを閉めるとき、またはチルトダウンするときに、ムーンルーフが異物の挟み込みを感知すると、作動が停止し少し開きます。

■サンシェード

手動で開閉できます。また、ムーンルーフが開くと連動して開きます。

■閉め忘れ警告ブザー

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチが OFF で、ムーンルーフが開いていると、運転席ドアを開けたときにブザーが鳴り、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

■カスタマイズ機能

ドアキー連動開閉機能などの設定を変更できます。
（カスタマイズ一覧：→P. 413）

■ムーンルーフが正常に閉まらないときは

下記の操作を行ってください。

●閉まるときに反転し、閉じ切らない場合

手順 1 車を停止する

手順 2 の“∨”側を押し続ける※1

ムーンルーフが閉じ、再び開き、10 秒間停止します。※2
その後再び閉じ、チルトアップし、1 秒間停止します。
チルトダウン後、いったん開いてから閉じます。

手順 3 ムーンルーフが完全に閉まったことを確認し、スイッチから手を離す

●チルトダウン時に反転し、閉じ切らない場合

手順 1 車を停止する

手順 2 の“∧”側を押し続け※1 ムーンルーフをチルトアップ位置にする

手順 3 から一度手を離し、再度“∧”側を押し続ける※1

ムーンルーフがチルトアップの状態で 10 秒間停止し、※2 微調節後 1 秒間停止します。チルトダウン後、いったん開いてから閉じます。

手順 4 ムーンルーフが完全に閉まったことを確認し、スイッチから手を離す

※1 途中でスイッチから手を離すと、最初からやり直しとなります。

※2 10 秒間停止したあとにスイッチから手を離すと、それ以降オート作動できなくなります。その場合は、の“∨”または、の“∧”側を押し続けてください。ムーンルーフがチルトアップし、1 秒間停止します。その後、チルトダウンし、いったん開いてから閉じます。ムーンルーフが完全に閉まったことを確認したら、スイッチから手を離してください。

以上の操作を行っても反転して閉じ切らない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

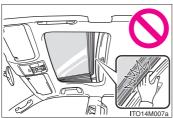
⚠警告

■**ムーンルーフを開けているときは**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ●走行中はルーフから手や顔を出さない
- ●開口部に腰かけない

■**ムーンルーフを開閉するときは**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、骨折など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ●ムーンルーフを開閉や、チルトダウンするときは、乗員の手・腕・頭・首を挟んだり巻き込んだりしないように注意してください。
- ●お子さまには、ムーンルーフの操作をさせないでください。
ムーンルーフに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

警告

■**挟み込み防止機能**

- 挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだりしないでください。重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 挟み込み防止機能は、ムーンルーフが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。また、挟み込み防止機能は、スイッチを押し続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

給油口の開け方

次の手順で給油口を開けてください。

■ 給油する前に

ドアとドアガラスを閉め、“ エンジン スタート ストップ ” スイッチを OFF にしてください。

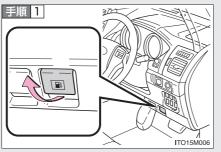
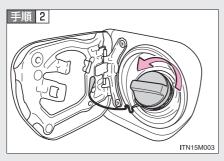
■ 給油口の開け方

手順 1

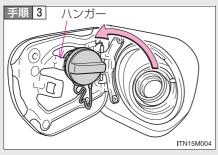
ITO15M006

オープナーを上げて、給油口を開ける

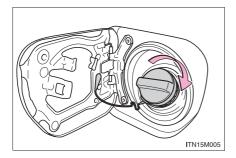
手順 2

ITN15M003

キャップをゆっくりまわして開ける

手順 3

ITN15M004

キャップをハンガーにかける

給油口のキャップを閉めるときは

ITN15M005

キャップを“カチッ”と音がするまでまわして閉める

手を離すと、キャップが逆方向に少しもどります。

知識

■燃料の種類

無鉛レギュラーガソリン

■燃料タンク容量（参考値）

87 L

警告

■**給油について**

給油前には次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ボデーなどの金属部分にふれて体の静電気を除去する
除去しないと放電による火花で燃料に引火するおそれがあります。

●キャップをゆるめたときに、“シュー”という音がする場合は、その音が止まってからゆっくり開ける
キャップを開けるときは、キャップのツマミ部分を持ち、ゆっくりと開けます。ゆっくりと開けないと気温が高いときなどに、給油口から燃料が噴き返すおそれがあります。

●給油口に、静電気を除去していない人を近付けない

●気化した燃料を吸わないようにする
燃料の成分には、有害物質を含んでいるものもあります。

●喫煙しない
引火して火災を引き起こすおそれがあります。

●車内にもどったり、静電気を除去していない人や帯電しているものにふれない
再び帯電する可能性があります。

■**給油時の注意**

●給油するときは給油口にノズルを確実に挿入してください。
ノズルを浮かして継ぎ足し給油を行うと、オートストップが作動せず、燃料がこぼれる場合があります。

●正常に給油できない場合は、スタンドの係員を呼んで指示に従ってください。

■**キャップ交換時の警告**

トヨタ純正品以外のキャップを使用しないでください。
純正品を使わないと火災などを引き起こし、その結果重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ **注意**

■**給油するときは**

指定以外のガソリンや他の燃料（粗悪ガソリン・軽油・灯油・アルコール系燃料）を使用したり、燃料をこぼしたりしないでください。
次のような状態になるおそれがあります。

●エンジンの始動性が悪くなる

●ノッキングが発生する

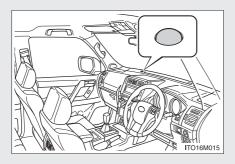
●エンジン出力が低下する

●排気制御システムが正常に機能しない

●燃料系部品が損傷する

●塗装が損傷する

エンジンイモビライザーシステム

キーに信号発信機が内蔵してあり、あらかじめ登録されたキー以外ではエンジンを始動できません。

“エンジン スタート ストップ”スイッチを OFF にすると、システムの作動を知らせるためにインジケーターが点滅します。

知識

■システムが正常に作動しないとき

●キーが金属製のものに接したり、覆われているとき

●キーが他の車両のセキュリティシステム用キー（信号発信機内蔵キー）と重なっているときや接近しているとき

■機能が正常に働かないおそれのある状況

→P. 36

注意

■エンジンイモビライザーシステムを正常に作動させるために

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

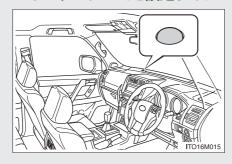
オートアラーム

侵入を検知した場合、音と光で警報します。

■ オートアラームが作動するとき

- 施錠されたドアまたはバックドアガラスが、スマートエントリー＆スタートシステム・ワイヤレスリモコン・メカニカルキーを使わずに解錠されたり、開けられたとき
- オートアラームがセットされているときにボンネットが開けられたとき

G-BOOK mX Pro をご利用のお客様へは、オートアラームが作動した場合、メールや電話でお知らせすることができます。
詳しくは、別冊「ナビゲーションシステム取扱書／ G-BOOK オンラインサービス／ G-Security」を参照してください。

■ オートアラームを設定するには

全ドア・ボンネット・バックドアガラスを閉め、すべてのドアを施錠※します。
30 秒以上経過すると自動的に設定されます。

オートアラームが設定されるとインジケーターは点灯から点滅にかわります。

※ メカニカルキーで施錠した場合、オートアラームはセットされません。

■ オートアラームの設定を解除・作動を停止するには

次のいずれかを行ってください。

- ドアを解錠する
- “ エンジン スタート ストップ ” スイッチをアクセサリーモード、またはイグニッション ON モードにする（数秒後に解除・停止します）

知識

■ドアを施錠する前の確認

オートアラームの思わぬ作動、および盗難を防ぐため、次のことを必ず確認してください。

- ●車内に人が乗っていないか
- ●ドアガラスとムーンルーフ*が閉じているか
- ●車内に貴重品などを放置していないか

■オートアラームの作動について

次のような場合、オートアラームが作動することがあります。オートアラームの設定を解除・作動を停止する操作を行ってください。

- ●車内に残った人が、ドアやボンネットを開けたとき
- ●施錠後、バッテリーあがりなどでバッテリーの充電や交換をしたとき

■カスタマイズ機能

メカニカルキーを使って解錠したとき、オートアラームが作動するように設定を変更できます。(カスタマイズ一覧：→P. 413)

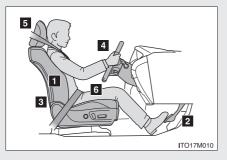
⚠注意

■オートアラームを正常に作動させるために

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

正しい運転姿勢

次の条件に合った正しい姿勢で運転してください。

1 まっすぐ座り、背もたれから背を離さない（→ P. 59）

2 シートをペダルが十分に踏み込めるようなシート位置にする（→ P. 59）

3 各装置が操作しやすい背もたれの角度にする

4 SRS エアバッグが自分の胸の方へ向くようなハンドルの位置にする（→ P. 89）

5 ヘッドレストの中央が耳のいちばん上のあたりになるようにする（→ P. 81）

6 シートベルトが正しく着用できる（→ P. 84）

警告

■**走行中は**

●走行中は運転席の調整をしないでください。
運転を誤るおそれがあります。

●背もたれと背のあいだにクッションなどを入れないでください。
正しい運転姿勢がとれないばかりか、衝突したとき、シートベルトやヘッドレストなどの効果が十分に発揮されずに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

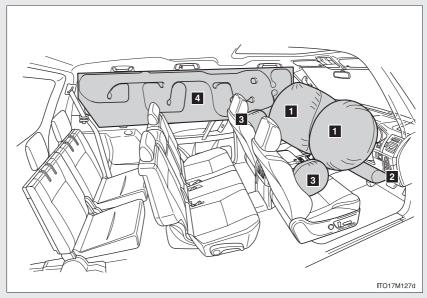
●フロントシートの下にものを置かないでください。
ものが挟まるとシートが固定されず、思わぬ事故の原因になって、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。また、調整機構の故障の原因になります。

■**シートを調整するときは**

●同乗者がシートにあたってけがをしないように注意してください。

●シートの下や動いている部分に手を近付けないでください。
指や手を挟み、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

SRS エアバッグ

SRS エアバッグは乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたときにふくらみ、シートベルトが体を拘束する働きと併せて乗員への衝撃を緩和させます。

▶ フロント SRS エアバッグ

1 運転席 SRS エアバッグ／助手席 SRS エアバッグ
（運転者と助手席乗員の頭や胸などへの衝撃を緩和）

2 SRS ニーエアバッグ
（運転者の衝撃緩和を補助）

▶ SRS サイドエアバッグ＆ SRS カーテンシールドエアバッグ

3 SRS サイドエアバッグ
（フロント席乗員の胸などへの衝撃を緩和）

4 SRS カーテンシールドエアバッグ
（フロントシート・セカンドシート外側席、サードシート※乗員の主に頭部への衝撃を緩和）

※ 7 人乗り車のみ

知識

■SRS エアバッグが展開すると

●SRS エアバッグとの接触により、打撲やすり傷などを受けることがあります。

●作動音と共に白いガスが発生します。

●フロントシート・フロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレールの一部分などだけでなく、エアバッグモジュールの各部品（ハンドルのハブ・エアバッグカバー・インフレーター）も数分間熱くなることがあります。エアバッグそのものも熱くなります。

●フロントウインドウガラスが破損することがあります。

●G-BOOK mX Pro をご利用のお客様は、SRS エアバッグが作動すると※自動的に緊急通報がヘルプネットセンターに送信されます。オペレーターからの呼びかけに応答がない場合は、緊急車両を手配します。詳しくは別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。

※ SRS エアバッグが作動しなかった場合でも、緊急通報が送信されることがあります。

■SRS エアバッグが作動するとき（フロント SRS エアバッグ）

●フロント SRS エアバッグは、衝撃の強さが設定値（移動も変形もしない固定された壁に、約 20 ～ 30 km/h の速度で正面衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。
ただし、駐車している車や標識のような、衝撃によって移動や変形するものに衝突した場合や、もぐり込むような衝突（例えば、車両前部がもぐり込む、下に入り込む、トラックの下敷きになる、など）の場合は、展開車速は設定値より高くなります。

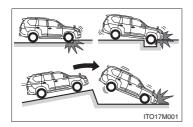
●衝撃の強さが設定値に近い場合での前方からの衝突の場合には、フロント SRS エアバッグとシートベルトプリテンショナーが同時に作動しない場合があります。

■SRS エアバッグが作動するとき
（SRS サイドエアバッグ＆ SRS カーテンシールドエアバッグ）

SRS サイドエアバッグと SRS カーテンシールドエアバッグは、衝撃の強さが設定値（約 1.5t の車両が、約 20 ～ 30km/h の速度で客室へ直角に衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。

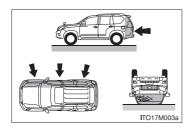
■衝突以外で作動するとき（フロント SRS エアバッグ）

次のような状況で、車両下部に強い衝撃を受けたときも、作動する場合があります。

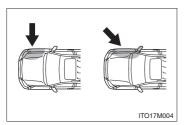
ITO17M001

- ●縁石や歩道の端など、固いものにぶつかったとき
- ●深い穴や溝に落ちたり、乗りこえたとき
- ●ジャンプして地面にぶつかったり、道路から落下したとき

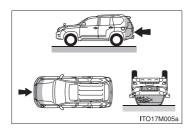
■SRS エアバッグが作動しないとき（フロント SRS エアバッグ）

フロント SRS エアバッグは、側面や後方からの衝撃・横転、または低速での前方からの衝撃で作動するようには設計されていません。ただし、それらの衝撃が前方への減速を十分に引き起こす場合には、フロント SRS エアバッグが作動することがあります。

ITO17M003a

- ●側面からの衝突
- ●後方からの衝突
- ●横転

■SRS エアバッグが作動しないとき
(SRS サイドエアバッグ＆ SRS カーテンシールドエアバッグ)

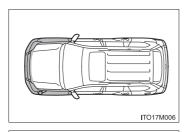
斜めから衝撃を受けた場合や、客室部分以外の側面に衝撃を受けたときには、SRS サイドエアバッグと SRS カーテンシールドエアバッグが作動しない場合があります。

●客室部分以外の側面への衝撃
●斜めからの衝撃

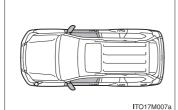
SRS サイドエアバッグと SRS カーテンシールドエアバッグは、前方や後方からの衝撃・横転、または低速での側面からの衝撃で作動するようには設計されていません。

●前方からの衝突
●後方からの衝突
●横転

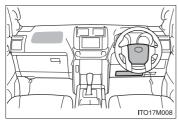
■ トヨタ販売店に連絡が必要な場合

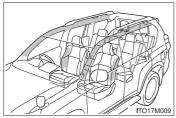
次のような場合には、できるだけ早くトヨタ販売店へご連絡ください。

●いずれかの SRS エアバッグがふくらんだとき

ITO17M006

●フロントSRSエアバッグはふくらまなかったが、事故で車両の前部を衝突したとき、または破損・変形などがあるとき

ITO17M007a

●SRS サイドエアバッグと SRS カーテンシールドエアバッグはふくらまなかったが、事故でドア部分を衝突したとき、または破損・変形などがあるとき

ITO17M008

●ハンドルのパッド部分・助手席 SRS エアバッグのカバー部・インストルメントパネル下部が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき

ITO17M009

●SRS サイドエアバッグが内蔵されているシート表面が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき

●SRS カーテンシールドエアバッグが内蔵されているフロントピラー部・リヤピラー部・ルーフサイド部が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき

警告

■SRS エアバッグについて

必ず次のことをお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ●運転者と乗員すべてがシートベルトを正しく着用してください。
  SRS エアバッグはシートベルトを補助するためのものです。
- ●助手席 SRS エアバッグは強い力でふくらむため、特に乗員がエアバッグに近付きすぎると、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。乗員が SRS エアバッグのふくらむ場所に近い場合は特に危険です。シートの背もたれを調整して、シートをできるだけ SRS エアバッグから離し、まっすぐに座ってください。
- ●お子さまがシートにしっかり座っていないと、SRS エアバッグのふくらむ衝撃で重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
  お子さまが小さくてシートベルトを使用できないときは、チャイルドシートでしっかり固定してください。
  お子さまはセカンドシートまたはサードシート（7 人乗り車のみ）に乗せ、チャイルドシートまたはシートベルトを着用させることをおすすめします。
  （→P. 132）

ITN17M028

- ●シートの縁に座ったり、ダッシュボードにもたれかかったりしない

ITN17M030

- ●お子さまを助手席SRSエアバッグの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりしない
- ●運転者および助手席乗員は、ひざの上に何も持たない

⚠ 警告

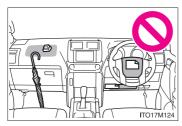
■SRS エアバッグについて

ITN17M032

●ドアやフロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレールへ寄りかからない

ITN17M034

●助手席やセカンドシート外側席・サードシート（7 人乗り車のみ）では、ドアに向かってひざをついたり、窓から顔や手を出したりしない

ITO17M124

●ダッシュボード・ハンドルのパッド部分・インストルメントパネル下部などには何も取り付けたり、置いたりしない

ITO17M149

●ドア・フロントガラス・ドアガラス・フロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレール・アシストグリップなどには何も取り付けない

警告

■SRS エアバッグについて

- コートフックにハンガーなどの硬いものをかけないでください。
  SRS カーテンシールドエアバッグが作動したときに投げ出されて重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- SRS　ニーエアバッグがふくらむ場所にビニールカバーが付いている場合は、取り除いてください。
- SRS サイドエアバッグがふくらむ場所を覆うようなシートアクセサリーを使用しないでください。エアバッグが展開する際、アクセサリーが干渉するおそれがあります。そのようなアクセサリーがエアバッグが正常に作動するのをさまたげ、システムを不能にしたり、またはエアバッグが誤って展開したりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- SRS エアバッグシステム構成部品の周辺は、強くたたくなど過度の力を加えないでください。
  SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- SRS エアバッグがふくらんだ直後は、構成部品が熱くなっているため、ふれないでください。
- SRS エアバッグがふくらんだあとに、もし呼吸が苦しく感じたら、ドアやドアガラスを開けて空気を入れるか、安全を確認して車外に出てください。皮膚の炎症を防ぐため、残留物はできるだけ早く洗い流してください。
- SRS エアバッグが収納されているパッド部およびフロントピラーガーニッシュ部・センターピラーガーニッシュ部に傷が付いていたり、ひび割れがあるときはそのまま使用せず、トヨタ販売店で交換してください。

⚠警告

■**改造・廃棄について**

トヨタ販売店への相談なしに、次の改造・廃棄をしないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらむなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- SRS エアバッグの取りはずし・取り付け・分解・修理
- ハンドル・インストルメントパネル・ダッシュボード・シート・シート表皮・フロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレール周辺の修理・取りはずし・改造
- フロントフェンダー・フロントバンパー・車両客室側面部の修理・改造
- グリルガード（ブルバー・カンガルーバーなど）・除雪装置・ウインチなどの取り付け
- サスペンションの改造
- CD プレーヤー・無線機などの電化製品の取り付け

子供専用シート

子供専用シートの固定機構を使用して、子供専用シートを固定することができます。

知っておいていただきたいこと

- 車の仕様やお子さまの年齢・体格に合わせて、適切な子供専用シートをお選びください。
- 子供専用シートの取り付け方法および取りはずし方は、それぞれの子供専用シートに付属の取り扱い説明書をお読みください。
- この車は2006年10月1日施行の保安基準に適合したISOFIX対応チャイルドシート固定専用バーを標準装備しています。

子供専用シートの適合性一覧表について

■ 質量グループについて

ECE R44 ※の基準に適合する子供専用シートはお子さまの体重により次の5種類に分類されます。

グループ 0　：10kg まで
グループ 0^+　：13kg まで
グループ Ⅰ　：9 ～ 18kg
グループ Ⅱ　：15 ～ 25kg
グループ Ⅲ　：22 ～ 36kg

この本では代表的な次の3種類の子供専用シートをシートベルトで固定する方法を紹介します。

※ ECE R44 は、子供専用シートに関する国際法規です。

■ サイズ等級、固定具について

子供専用シートに表示される分類記号と、それにともなう取り付け器具の記号になります。

▶ ベビーシート

ITO17M108

ECE R44 基準のグループ 0、0^{+}に相当

▶ チャイルドシート

ITO17M109

ECE R44 基準のグループ 0^{+}、Ⅰに相当

▶ ジュニアシート

ITO17M110

ECE R44 基準のグループⅡ、Ⅲに相当

シート位置別子供専用シート適合性一覧表（シートベルトでの取り付け）

質量グループ	着席位置（または他の場所）			
	フロントシート	セカンドシート		サードシート（7人乗り車の場合）
	助手席	左右席	中央席	
0（10kg まで）	×	U	L	L
0+（13kg まで）	×	U	L	L
Ⅰ（9 ～ 18kg）	前向き UF ※1	U	L ※2	L ※3
	うしろ向き ×			
Ⅱ（15 ～ 25kg）	UF ※1	U	L ※2	L ※4
Ⅲ（22 ～ 36kg）	UF ※1	U	L ※2	L ※4

● 上表に記入する文字の説明

U ：この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーの子供専用シートに適しています。

UF：この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーの前向き子供専用シートに適しています。

L ：子供専用シートのリストに示す特定の子供専用シートに適しています。
（リストに記載があれば「特定自動車」、「限定」、「準汎用」カテゴリーの子供専用シートにも適しています）

× ：子供専用シートを取り付けることはできません。

※1 子供専用シートを取り付ける際は背もたれの角度を最前段位置にしてください。

※2 子供専用シートを取り付ける際はヘッドレストを最下段位置にしてください。

※3 マニュアルシートに子供専用シートを取り付ける際は、ヘッドレストを最上段位置にしてください。

※4 マニュアルシートに子供専用シートを取り付ける際は、ヘッドレストをはずしてください。

子供専用シートの装着に際しては子供専用シートの取り扱い説明書もご確認ください。

子供専用シートのリスト

質量グループ	子供専用シート	カテゴリー
0（10kg まで）	トヨタ純正 NEO G-Child ISO BABY	汎用
	トヨタ純正 NEO G-Child ISO tether	汎用
0^{+}（13kg まで）	トヨタ純正 NEO G-Child ISO BABY	汎用
	トヨタ純正 NEO G-Child ISO tether	汎用
Ⅰ（9 ～ 18kg）	トヨタ純正 NEO G-Child ISO tether	汎用
Ⅱ（15 ～ 25kg）	トヨタ純正ジュニアシート	汎用
Ⅲ（22 ～ 36kg）	トヨタ純正ジュニアシート	汎用

表に記載されていない子供専用シートを使用する場合は、子供専用シート製造業者または販売業者にご相談ください。

シート位置別子供専用シート適合性一覧表（ISOFIX 対応トップテザーアンカーでの取り付け）

質量グループ	サイズ等級	固定具	車両 ISOFIX 位置 セカンドシート左右席
キャリコット	F	ISO/L1	×
	G	ISO/L2	×
0（10kg まで）	E	ISO/R1	IL
0^+（13kg まで）	E	ISO/R1	IL
	D	ISO/R2	×
	C	ISO/R3	×
Ⅰ（9 ～ 18kg）	D	ISO/R2	×
	C	ISO/R3	×
	B	ISO/F2	IUF
	B1	ISO/F2X	IUF
	A	ISO/F3	IUF
Ⅱ（15 ～ 25kg）		（1）	×
Ⅲ（22 ～ 36kg）		（1）	×

● 上表に記入する文字の説明

（1）：サイズ等級表示（A から G）のない子供専用シートの各シート位置での ISOFIX 対応子供専用シート固定機構の取り扱いについては、子供専用シート製造業者または販売業者にご相談ください。

IUF：この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーの ISOFIX 対応の前向き子供専用シートに適しています。

IL ：ISOFIX 子供専用シートのリストに示す「特定自動車」、「限定」、または「準汎用」カテゴリーの子供専用シートに適しています。

× ：ISOFIX 子供専用シートを取り付けることはできません。

子供専用シートの装着に際しては子供専用シートの取り扱い説明書もご確認ください。

ISOFIX 子供専用シートのリスト

質量グループ	サイズ等級	固定具	ISOFIX 子供専用シート	カテゴリー
0（10kg まで）	E	ISO/R1	トヨタ純正NEO G-Child ISO BABY	準汎用
0^{+}（13kg まで）	E	ISO/R1	トヨタ純正NEO G-Child ISO BABY	準汎用

表に記載されていない子供専用シートを使用する場合は、子供専用シート製造業者または販売業者にご相談ください。

知識

■ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーについて

この車に標準装備されている ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーは、ECE R44 に適合している子供専用シートの取り付け専用です。それ以外のものを使用することはできません。

■子供専用シートの選択、使用について

- お子さまに最適な子供専用シートについては、子供専用シート製造業者、または販売業者にご相談ください。
- お子さまが成長し、適切にシートベルトが着用できるようになるまでは、お子さまに合った子供専用シートを使用してください。
- 体が十分に大きく、子供専用シートが不必要なお子さまは、セカンドシート、またはサードシート（7 人乗り車のみ）に乗せて車のシートベルトを使用してください。

■シートベルトで取り付けるタイプの子供専用シートの選択について

「シート位置別子供専用シート適合性一覧表」(→P. 125)を参照し、子供専用シートを取り付け可能な位置と、対応する子供専用シートの種類(記号)をご確認の上、適したものを選択してください。

■ECE R44 適合の ISOFIX 対応子供専用シートの選択について

「シート位置別子供専用シートの適合性一覧表」(→P. 127)を確認して、適切なシートを選択してください。

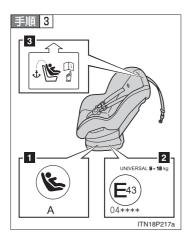
手順 1 お子さまの体重から、該当する「質量グループ」を確認する

(例 1):体重が 12kg の場合、質量グループは「0^{+}」になります。
(例 2):体重が 15kg の場合、質量グループは「Ⅰ」になります。

手順 2 サイズ等級を選択する

手順 1 で確認した「質量グループ」から該当するサイズ等級を確認します。※

(例 1):質量グループが「0^{+}」の場合、サイズ等級は「C」・「D」・「E」が該当します。
(例 2):質量グループが「Ⅰ」の場合、「A」・「B」・「B1」・「C」・「D」が該当します。

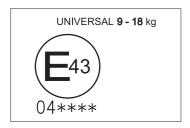
※ただし、該当のサイズ等級でも適合性一覧表の「車両 ISOFIX 位置」に「×」と記載されているものは選択できません。また、「IL」と記載されている場合は、「ISOFIX 子供専用シートのリスト」(→P. 128)で指定されている製品を使用してください。

子供専用シートに表示されているマーク／ラベルを確認して、基準に適合したシートであることを確認する

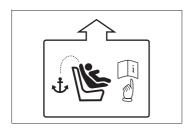
汎用（ユニバーサル）子供専用シートには、次に示すマーク・ラベル類が表示されています。※

※表示されている位置・記号などは、商品により異なります。

1 ISOFIX 対応子供専用シートであることを示す表示

サイズ等級が示されています。（表示される文字は、製品により異なります）

手順 2 で確認したサイズ等級に適合しているものを選択してください。

2 汎用（ユニバーサル）子供専用シートの認可マーク

UNIVERSAL は汎用品の認可であることをあらわし、併せて、対象となるお子さまの体重の範囲が記載されています。

3 トップテザー（→P. 132）を示すマーク

商品の取り付け装置の位置により、意匠は異なります。

■ISOFIX 対応子供専用シートの種類（サイズ等級別）

A-ISO/F3	全高前向き幼児用チャイルドシート
B-ISO/F2	低型前向き幼児用チャイルドシート
B1-ISO/F2X	低型前向き幼児用チャイルドシート （B-ISO/F2 と別形状のもの）
C-ISO/R3	大型後向き幼児用チャイルドシート
D-ISO/R2	小型後向き幼児用チャイルドシート
E-ISO/R1	後向き乳児用チャイルドシート
F-ISO/L1	左向き位置用チャイルドシート（キャリコット）
G-ISO/L2	右向き位置用チャイルドシート（キャリコット）

■助手席に子供専用シートを取り付けるとき

やむを得ず助手席に子供専用シートを取り付ける場合には、助手席シートをいちばんうしろに下げ、子供専用シートを前向きに取り付けてください。

■キャリコットについて

キャリコットは横向きに取り付けることのできるベビーシートのことです。詳しくは子供専用シート製造業者、または販売業者におたずねください。

警告

■子供専用シートを使用しない場合

● 子供専用シートを使用しないときであっても、シートに適切にしっかりと取り付けた状態にしてください。ゆるめた状態で客室内に置くことは避けてください。

● 子供専用シートの取りはずしが必要な場合は、車両からはずして保管するか、ラゲージルーム内に容易に動かないように収納してください。

チャイルドシートの取り付け

シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、チャイルドシートをお使いください。お子さまの安全のために、チャイルドシートはセカンドシート、またはサードシート（7 人乗り車のみ）に取り付けてください。
取り付け方法は、必ず商品付属の取り扱い説明書に従ってください。

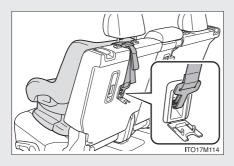
ITO17M112

シートベルトによる取り付け
（→P. 133）

ITO17M113a

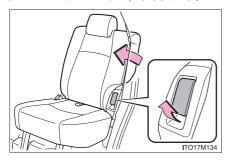
ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バー（→P. 135）

セカンドシートの外側席に装備されています。（固定専用バーが装備されていることを示すタグがシートに付いています）

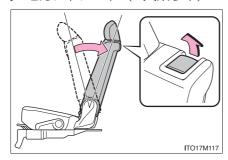
ITO17M114

トップテザーアンカー
（→P. 137）

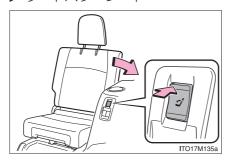
テザーベルトを固定するときに使います。
トップテザーアンカーはセカンドシートのそれぞれの座席に装備されています。

シートベルトで固定する

手順 1 背もたれの角度を調整する

▶ セカンドシート（5人乗り車）

チャイルドシートをセカンドシートに取り付けるときは、レバーを引きながら、背もたれをいっぱいまで前に起こします。（→P. 61）

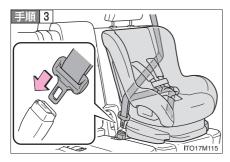
▶ セカンドシート（7人乗り車）

チャイルドシートをセカンドシートに取り付けるときは、レバーを引きながら、いったん背もたれを前に倒し、一段目の固定位置まで起こします。（→P. 61）

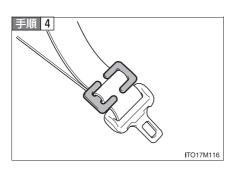
▶ サードパワーシート

チャイルドシートをサードシートに取り付けるときは、 の上側を押して、背もたれをいっぱいまでうしろに倒します。

（→P. 68）

手順 2 ヘッドレスト位置の指定の有無を確認する（→P. 125）

チャイルドシートを取り付ける際に、ヘッドレストの操作が必要なシートの場合は、表の指示に従ってヘッドレストの位置を調整してください。

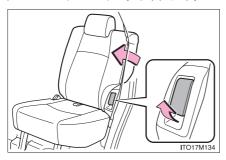
ヘッドレストの操作については P. 81 を参照してください。

チャイルドシートにシートベルトを取り付け、プレートをバックルに“カチッ”と音がするまで挿し込む。ベルトがねじれていないようにする

チャイルドシートに付属の取り扱い説明書に従い、シートベルトをチャイルドシートにしっかりと固定させてください。

チャイルドシートにシートベルトの固定装置が備っていない場合は、ロッキングクリップ（別売）を使用して固定する

ロッキングクリップの購入にあたっては、トヨタ販売店にご相談ください。（ロッキングクリップ 品番：73119-22010）

取り付け後はチャイルドシートを軽くゆさぶり、しっかりと固定されていることを確認してください。

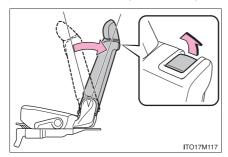
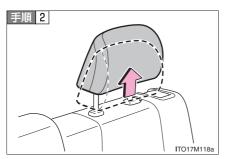
ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バー&トップテザーアンカーで固定する

手順 1 背もたれの角度を調整する

▶ セカンドシート（5人乗り車）

チャイルドシートをセカンドシートに取り付けるときは、レバーを引きながら、背もたれをいっぱいまで前に起こします。（→P. 61）

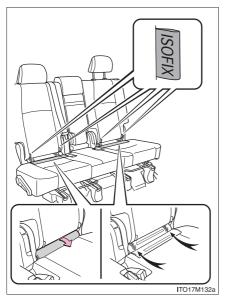
▶ セカンドシート（7人乗り車）

チャイルドシートをセカンドシートに取り付けるときは、レバーを引きながら、いったん背もたれを前に倒し、一段目の固定位置まで起こします。（→P. 61）

手順 2

ヘッドレストをいちばん上まで上げる

図は 7 人乗り車で代表しています。

手順 3 固定専用バーの位置を確認する

ITO17M132a

▶ 5人乗り車
固定専用バーはシートクッションの奥にあります。

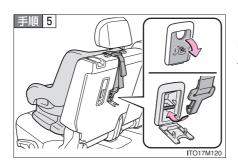
▶ 7人乗り車
固定専用バーはカバーの下側にあります。

図は 7 人乗り車で代表しています。

手順 4

ITO17M119b

チャイルドシートをシートに取り付ける

チャイルドシートの取り付け金具をチャイルドシート固定専用バーに取り付けます。
取り付け方法は、それぞれのチャイルドシートに付属の取り扱い説明書に従ってください。

フタを開けて、トップテザーアンカーにフックを固定し、テザーベルトを締める

テザーベルトをピンと張り、フックがしっかり固定されていることを確認します。

取り付けたチャイルドシートを軽くゆさぶり、固定されていることを確認する

知識

■ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バー＆トップテザーアンカーについて

この ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バー＆トップテザーアンカーには、道路運送車両の保安基準に適合する子供専用シート（ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バー＆トップテザーアンカー対応のトヨタ純正チャイルドシート）を取り付けることをおすすめします。チャイルドシートの選択にあたってはトヨタ販売店にご相談ください。

警告

■**チャイルドシートについて**

●事故や急停止の際、効果的にお子さまを保護するために、必ずお子さまの年齢や体の大きさに合ったシートベルトまたはチャイルドシートを使用してください。お子さまを腕の中に抱くのはチャイルドシートのかわりにはなりません。事故の際、お子さまがフロントガラスや乗員、室内の装備にぶつかり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●お子さまの年齢や体の大きさに合ったチャイルドシートを使用して、セカンドシートまたはサードシート（7人乗り車のみ）に取り付けてください。

●チャイルドシートに座らせている場合でも、ドア・シート・フロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレール付近にお子さまの頭や体のどの部分ももたれかけさせないようにしてください。SRS エアバッグがふくらんだ場合、大変危険であり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●チャイルドシートによっては、取り付けができない、または取り付けが困難な場合があります。必ずチャイルドシートに付属の取り扱い説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。使用方法を誤ったり、確実に固定されていないと、急ブレーキや衝突時などに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

警告

■チャイルドシートを取り付けるときは

●お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一、ベルトが首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。

●シートベルトのプレートとバックルが固定されていて、ベルトがねじれていないか確認してください。

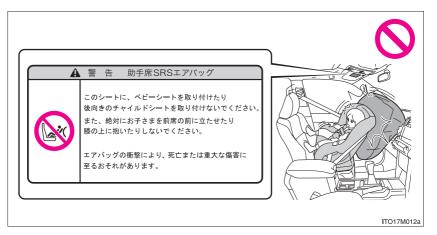
●チャイルドシートを左右に動かして、しっかり固定されているか確認してください。

●チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。

●運転席とチャイルドシートが干渉し、チャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、助手席側のセカンドシートに取り付けてください。

●助手席シートとチャイルドシートが干渉しないように、助手席シートを調整してください。

警告

■チャイルドシートを取り付けるときは

●やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。
うしろ向きに取り付けていると、事故などで助手席 SRS エアバッグがふくらんだとき、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
助手席側のサンバイザーに、同内容の警告文が表示されています。併せて参照してください。

●やむを得ず助手席に前向きにチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートをいちばんうしろに下げて取り付けてください。
助手席SRSエアバッグはかなりの速度と力でふくらむので、お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

警告

■**チャイルドシートを取り付けるときは**

●ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すと共に肩から落ちないようにしてください。お守りいただかないと、事故や急ブレーキの際に重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーを使用するときは、周辺に障害物がないか、シートベルトが挟まっていないかなどを確認してください。

注意

■**トップテザーアンカーについて**

使用しないときはフタを確実に閉めてください。開けたままにしておくとフタが破損するおそれがあります。

運転するときに　2

オフロード走行を補助する機能（フルタイム 4WD など）の説明については、別冊「オフロード走行取扱書」を参照してください。

運転にあたって

安全運転を心がけて、次の手順で走行してください。

■ エンジンをかける

→P. 154

■ 発進する

手順 1 ブレーキペダルを踏んだまま、シフトレバーを D にする（→P. 159）

手順 2 パーキングブレーキを解除する（→P. 166）

手順 3 ブレーキペダルから徐々に足を離し、アクセルペダルをゆっくり踏み発進する

■ 停車する

手順 1 シフトレバーは D のまま、ブレーキペダルを踏む

手順 2 必要に応じて、パーキングブレーキをかける

長時間停車する場合は、シフトレバーを P または N にします。（→P. 159）

■ 駐車する

手順 1 シフトレバーは D のまま、ブレーキペダルを踏む

手順 2 パーキングブレーキをかける（→P. 166）

手順 3 シフトレバーを P にする（→P. 159）

坂道の途中で駐車をする場合は、必要に応じて輪止め※を使用してください。

※輪止めはトヨタ販売店で購入することができます。

手順 4 “ エンジン スタート ストップ ” スイッチを押してエンジンを停止する

手順 5 電子キーを携帯していることを確認し、ドアを施錠する

上り坂の発進のしかた

手順 1 パーキングブレーキをしっかりかけ、シフトレバーを D にする

手順 2 アクセルペダルをゆっくり踏む

手順 3 車が動き出す感触を確認したら、パーキングブレーキを解除し発進する

知識

■ヒルスタートアシストコントロール*について

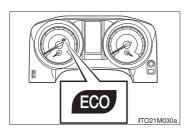
ヒルスタートアシストコントロールにより、車両の後退を緩和し、急な上り坂やすべりやすい上り坂からの発進を容易に行うことができます。(→ 別冊「オフロード走行取扱書」)

■雨の日の運転について

- 雨の日は視界が悪くなり、またガラスが曇ったり、路面がすべりやすくなったりするので、慎重に走行してください。
- 雨の降りはじめは路面がよりすべりやすいため、慎重に走行してください。
- 雨の日の高速走行などでは、タイヤと路面のあいだに水膜が発生し、ハンドルやブレーキが効かなくなるおそれがあるので、スピードは控えめにしてください。

■運転標識の取り付け

磁石式の初心運転者標識や高齢運転者標識などを樹脂バンパーやアルミボデー部に取り付けることはできません。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

■環境に配慮した運転

環境に配慮した運転をしているとき、エコドライブインジケーターランプが点灯します。必要以上にアクセルペダルを踏んだときや停車中は消灯します。

次の場合、エコドライブインジケーターランプは作動しません。

●シフトレバーが D 以外のとき

●走行モードがセカンドスタートモードのとき（→P. 161）

●車速が約 100km/h 以上のとき

警告

■発進するときは

エンジンがかかったまま停車しているときは、常にブレーキペダルを踏んでください。クリープ現象で車が動き出すのを防ぎます。

■運転するときは

●踏み間違いを避けるため、ブレーキペダルとアクセルペダルの位置を把握しない状態で運転しないでください。

・アクセルペダルをブレーキペダルと間違えて踏むと、車が急発進して思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

・後退するときは体をひねった状態となるため、ペダルの操作がしにくくなります。ペダル操作が確実にできるよう注意してください。

・車を少し移動させるときも正しい運転姿勢をとり、ブレーキペダルとアクセルペダルが確実に踏めるようにしてください。

・ブレーキペダルは右足で操作してください。左足でのブレーキ操作は緊急時の反応が遅れるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

警告

- 燃えやすいものの上を走行したり、可燃物付近に車を停めたりしないでください。
  排気管や排気ガスは高温になり、可燃物が近くにあると火災になるおそれがあり危険です。
- シフトレバーを前進側のシフトポジションに入れたまま惰性で後退したり、Rに入れたまま惰性で前進することは絶対にやめてください。
  エンジンが停止し、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが重くなったりして、思わぬ事故や故障につながるおそれがあります。
- 車内で排気ガス臭に気付いたら、ドアガラスを開け、バックドアとバックドアガラスが閉まっていることを確認してください。多量の排気ガスが眠気を招き事故の原因となる他、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。すみやかにトヨタ販売店で点検整備を受けてください。
- 車両が動いているあいだは、シフトレバーを P に入れないでください。
  トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 車両が前進しているあいだは、シフトレバーを R に入れないでください。
  トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 車両が後退しているあいだは、シフトレバーを D に入れないでください。
  トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 走行中にシフトレバーをNにすると、トランスミッションとエンジンの動力伝達が解除され、エンジンブレーキが効かなくなります。
- 通常走行時は、走行中にエンジンを停止しないでください。走行中にエンジンを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、操作力補助がなくなります。その場合はハンドルとブレーキの操作が困難になるため、安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。
  なお、通常の方法で車両を停止することができないような緊急時は、P. 404 を参照してください。

⚠ 警告

●急な下り坂では、エンジンブレーキを使用してスピードを下げてください。フットブレーキを連続して使いすぎると、ブレーキがオーバーヒートして正常に機能しなくなります。(→P. 161)

●走行中はハンドル・シート・ドアミラー・インナーミラーの調整をしないでください。
運転を誤り、思わぬ事故の原因になって重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●すべての乗員は頭や手、その他の体の一部を車から出さないようにしてください。重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●シートの上や付近に荷物を置いて走行しないでください。
急ブレーキをかけたときや、旋回しているときなどに荷物が飛び出したりして乗員にあたったり、荷物を破損したり、荷物に気をとられたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■すべりやすい路面を運転するときは

●急ブレーキ・急加速・急ハンドルはタイヤがスリップし、車両の制御ができなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●シフトアップやシフトダウンによるエンジンブレーキなど、エンジン回転数の急な変化は、車が横すべりするなどして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●水たまり走行後は、ブレーキペダルを軽く踏んでブレーキが正常に働くことを確認してください。ブレーキパッドがぬれるとブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いたりしてハンドルをとられ、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■シフトレバーを操作するときは

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。
シフトレバーがPまたはN以外にあると、車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

警告

■きしみやひっかき音が聞こえたら（ブレーキパッドウェアインジケーター）

できるだけ早くトヨタ販売店で点検を受け、ブレーキパッドを交換してください。必要なときにパッドの交換が行われないと、ローターの損傷につながる場合があります。

ブレーキパッドやディスクローターなどの部品は、役割を果たすと共に摩耗していきます。摩耗の限界をこえて走行すると故障を引き起こすばかりでなく、事故につながるおそれがあり危険です。

■停車するときは

●空ぶかしをしないでください。
シフトレバーが P または N 以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●長時間エンジンをかけたままにしないでください。
どうしても必要な場合は、開かれた場所に車を停め、排気ガスが車内に入ってこないことを確認してください。

●車が動き出すことによる事故を防ぐため、エンジン回転中は常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。

●坂道で停車するときは、前後に動き出して事故につながるのを防ぐため、常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。

●停車中に空ぶかしをしないでください。
排気管が過熱し、可燃物が近くにあると火災につながるおそれがあり危険です。

■駐車するときは

●炎天下では、メガネ・スプレー缶・炭酸飲料の缶などを車内に放置しないでください。
放置したままでいると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。

・ライターやスプレー缶からガスがもれたり、出火する
・プラスチックレンズ・プラスチック素材のメガネが、変形またはひび割れを起こす
・炭酸飲料の缶が破裂して車内を汚したり、電気部品がショートする原因になる

⚠ 警告

- ライターを車内に放置したままにしないでください。ライターをグローブボックスなどに入れておいたり、車内に落としたままにしておくと、荷物を押し込んだりシートを動かしたときにライターの操作部が誤作動し、火災につながるおそれがあり危険です。
- ウインドウガラスなどには吸盤を取り付けないでください。また、インストルメントパネルやダッシュボードの上に芳香剤などの容器を置かないでください。
  吸盤や容器がレンズの働きをして、車両火災につながるおそれがあり危険です。
- シルバー色などの金属蒸着フィルムを曲面ガラスに貼った場合は、ドアやウインドウを開けたまま放置しないでください。直射日光が曲面ガラスの内側に反射し、レンズの働きをして火災につながるおそれがあり危険です。
- 車から離れるときは、必ずパーキングブレーキをかけ、シフトレバーをＰにしてエンジンを停止し、施錠してください。
  エンジンがかかっているあいだは、車から離れないでください。
- エンジン回転中または停止直後は排気管にふれないでください。
  やけどをするおそれがあります。
- 降雪時や雪が積もった場所では、エンジンをかけたままにしないでください。
  まわりに積もった雪で排気ガスが滞留して車内に入り、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■排気ガスについて

排気ガスには無色・無臭で有害な一酸化炭素（CO）が含まれているため、排気ガスを吸い込むと重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 排気が悪い場所ではエンジンを停止してください。
  特に車庫内など囲まれた場所では排気ガスが充満し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 排気管はときどき点検してください。排気管の腐食などによる穴や亀裂、および継ぎ手部の損傷、また、排気音の異常などに気付いた場合は必ずトヨタ販売店で点検整備を受けてください。そのまま使用すると排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

警告

■仮眠するときは

必ずエンジンを停止してください。
エンジンをかけたまま仮眠すると、無意識にシフトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、事故やエンジンの異常過熱による火災が発生するおそれがあります。さらに、風通しの悪い場所に停めると、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ブレーキをかけるときは

●ブレーキがぬれているときは、普段よりも注意して走行してください。
ブレーキがぬれていると、制動距離が長くなり、ブレーキのかかりに、左右の違いが出るおそれがあります。また、パーキングブレーキがしっかりとかからないおそれもあります。

●ブレーキ倍力装置が機能しないときは、他の車に近付いたりしないでください。また、下り坂や急カーブを避けてください。
この場合ブレーキは作動しますが、通常よりも強く踏む必要があります。また制動距離も長くなります。

●万一エンジンが停止したときは、ブレーキペダルをくり返し踏まないでください。ペダルを踏むたびに、ブレーキのアシスト力の蓄えを使い切ってしまいます。

●ブレーキシステムは２つの独立したシステムで構成されており、一方の油圧システムが故障しても、もう一方は作動します。この場合、ブレーキペダルを通常より強く踏む必要があり、制動距離が長くなります。一方のブレーキシステムしか作動していない状態で走行しないでください。ただちにブレーキの修理を受けてください。

■万一脱輪したときは

いずれかのタイヤが宙に浮いているときは、むやみに空転させないでください。駆動系部品の損傷や、車両の飛び出しによる思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

■運転中は

●運転中にアクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだりしないでください。運転中、アクセルペダルを踏んでいるときにブレーキペダルを踏むと、駆動力を抑制する場合があります。

●坂道で停車するために、アクセルペダルを使ったり、アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだりしないでください。

■駐車するときは

必ずシフトレバーを P にしてください。P にしておかないと、車が動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏み込んだときに急発進するおそれがあります。

■部品の損傷を防ぐために

●パワーステアリングポンプの損傷を防ぐため、ハンドルをいっぱいにまわした状態を長く続けないでください。

●ディスクホイールなどの損傷を防ぐため、段差などを通過するときは、できるだけゆっくり走行してください。

■走行中にタイヤがパンクしたら

次のようなときはタイヤのパンクや損傷が考えられます。ハンドルをしっかり持って徐々にブレーキをかけ、スピードを落としてください。

●ハンドルがとられる

●異常な音や振動がある

●車両が異常に傾く

タイヤがパンクした場合の対処法は、P. 375 を参照してください。

注意

■冠水路走行に関する注意

大雨などで冠水した道路では、次のような重大な損傷を受けるおそれがあるため、走行しないでください。※

- エンストする
- 電装品がショートする
- 水を吸い込んでのエンジン破損

万一、冠水した道路を走行し、水中に浸かってしまったときは、必ずトヨタ販売店で次の点検をしてください。

- ブレーキの効き具合
- エンジン・オートマチックトランスミッション・トランスファー・ディファレンシャルなどのオイルやフルードの量および質の変化
- プロペラシャフト・各ベアリング・各ジョイント部などの潤滑不良

※ 必要な注意事項を守って渡河を行う場合を除く
渡河を行う際の注意事項については、別冊「オフロード走行取扱書」を参照してください。

エンジン（イグニッション）スイッチ

電子キーを携帯して次の操作を行うことで、エンジンの始動または“ エンジン スタート ストップ ”スイッチのモードを切りかえることができます。

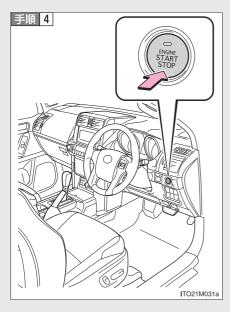
■ エンジンのかけ方

手順 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する

手順 2 シフトレバーが P の位置にあることを確認する

手順 3 ブレーキペダルをしっかり踏む

スイッチ上のインジケーターが緑色に点灯します。
緑色に点灯していないと、エンジンは始動しません。

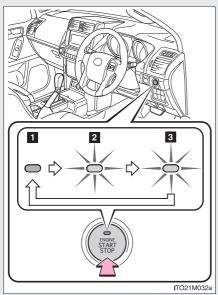
ITO21M031a

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチを押す

エンジンが始動するまで最大 30 秒間スターターが回転します。

完全にエンジンが始動するまでブレーキペダルを踏み続けてください。

“ エンジン スタート ストップ ”スイッチのどのモードからでもエンジンを始動できます。

■“エンジン スタート ストップ”スイッチのモード切りかえ

ブレーキペダルを踏まずに“エンジン スタート ストップ”スイッチを押すと、モードを切りかえることができます。(スイッチを押すごとにモードが切りかわります)

1 OFF※

非常点滅灯が使用できます。

2 アクセサリーモード

オーディオなどの電装品が使用できます。

スイッチ上のインジケーターが橙色に点灯します。

3 イグニッション ON モード

すべての電装品が使用できます。

スイッチ上のインジケーターが橙色に点灯します。

※シフトレバーが P 以外のときはアクセサリーモードになり、OFF になりません。

■ エンジン停止のしかた

手順 1 車両を停止させる

手順 2 シフトレバーを P の位置にする

手順 3 パーキングブレーキをかける(→P. 166)

手順 4 “エンジン スタート ストップ”スイッチを押す

手順 5 ブレーキペダルから足を離した状態にして“エンジン スタート ストップ”スイッチのインジケーターが消灯していることを確認する

シフトレバーが P 以外でエンジンを停止したときは

シフトレバーが P 以外でエンジンを停止させた場合、エンジンは停止しますが、“ エンジン スタート ストップ ” スイッチのモードは OFF になりません。次の手順で OFF にしてください。

手順 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する

手順 2 シフトレバーを P の位置にする

手順 3 “ エンジン スタート ストップ ” スイッチのインジケーターが橙色に点灯していることを確認し、“ エンジン スタート ストップ ” スイッチを 1 回押す

手順 4 “ エンジン スタート ストップ ” スイッチのインジケーターが消灯していることを確認する

知識

■自動電源 OFF 機能

シフトレバーが P にあるとき 1 時間以上アクセサリーモードかイグニッション ON モード（エンジン始動していない状態）にしたままにしておくと、“ エンジン スタート ストップ ” スイッチが自動で OFF になります。
ただし、自動電源 OFF 機能は、バッテリーあがりを完全に防ぐものではありません。エンジンがかかっていないときは、“ エンジン スタート ストップ ” スイッチをアクセサリーモードまたはイグニッション ON モードにしたまま長時間放置しないでください。

■“ エンジン スタート ストップ ” スイッチの操作について

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチを操作する際は、短く確実に押してください。確実に押せていない場合は、モードの切りかえやエンジン始動ができない場合があります。また、確実に操作すれば押し続ける必要はありません。

■電子キーの電池の消耗について

→P. 37

■スマートエントリー＆スタートシステムが正常に働かないおそれのある状況

→P. 36

■ご留意いただきたいこと

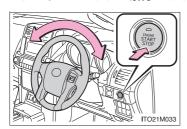
→P. 38

■エンジンが始動しないときは

エンジンイモビライザーシステムが解除されていない可能性があります。(→P. 109)

■ステアリングロックについて

“ エンジン スタート ストップ ”スイッチを OFF にしたあとにドアを開閉すると、ステアリングロック機能によりハンドルが固定されます。“ エンジン スタート ストップ ” スイッチを操作すると、ステアリングロックは自動で解除されます。

■ステアリングロックが解除できないときは

マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示され、“ エンジン スタート ストップ ” スイッチ上のインジケーターが緑色に点滅します。ハンドルを左右にまわしながら再操作してください。

■ステアリングロックモーターのオーバーヒート防止について

短時間にエンジン始動・停止をくり返すと、モーターのオーバーヒート防止のために作動制限することがあります。その場合は操作を控えてください。2 秒程度でもとの状態にもどります。

■“ エンジン スタート ストップ ” スイッチ上のインジケーターが橙色に点滅したときは

システムに異常があるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■電子キーの電池が切れたときは

→P. 336

警告

■エンジンを始動するときは

必ず運転席に座って行ってください。このとき決してアクセルペダルは踏まないでください。思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

警告

■走行中の警告

エンストなどで車両滑走状態になったときは、車両が安全な状態で停止するまでドアを開けたり、ロック操作をしたりしないでください。ステアリングロック機能が作動し、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■緊急時のエンジン停止方法

走行中にエンジンを緊急停止したい場合には、3 秒以上 “ エンジン スタート ストップ ” スイッチを押し続けてください。
ただし、緊急時以外は走行中に “ エンジン スタート ストップ ” スイッチにふれないでください。走行中にエンジンを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、操作力補助がなくなります。その場合はハンドルとブレーキの操作が困難になるため、安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。

注意

■バッテリーあがりを防止するために

- “ エンジン スタート ストップ ” スイッチのインジケーターが消灯していない場合、“ エンジン スタート ストップ ” スイッチが OFF になっていません。“ エンジン スタート ストップ ” スイッチを OFF にしてから車両を離れてください。
- シフトレバーがP以外でエンジンを停止させないでください。シフトレバーがP 以外でエンジンを停止させた場合、“ エンジン スタート ストップ ” スイッチがアクセサリーモードとなるため、そのまま放置するとバッテリーあがりの原因になります。

■エンジンを始動するとき

- エンジンが冷えた状態で空ぶかしをしないでください。
- もしエンジンが始動しにくかったり、ひんぱんにエンストする場合は、ただちにエンジンの点検を受けてください。

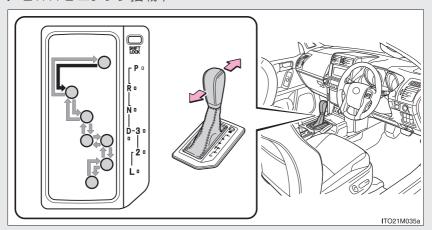
■“ エンジン スタート ストップ ” スイッチの操作について

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチ操作時に引っかかりなどの違和感があるときは、故障のおそれがあります。すみやかにトヨタ販売店にご連絡ください。

オートマチックトランスミッション

状況に応じてシフトポジションを選択してください。

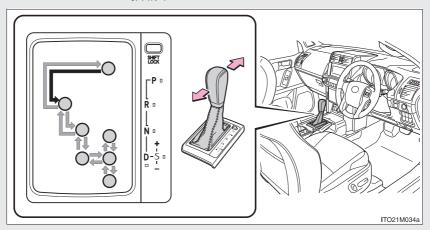
■ シフトレバーの動かし方

▶ 2TR-FE エンジン搭載車

← “エンジン スタート ストップ”スイッチがイグニッションONモードの状態で、ブレーキペダルを踏んだまま操作します。

P と D のあいだの操作は、ブレーキペダルを踏み、車を完全に止めてから行ってください。

▶ 1GR-FE エンジン搭載車

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチがイグニッションONモードの状態で、ブレーキペダルを踏んだまま操作します。

P と D のあいだの操作は、ブレーキペダルを踏み、車を完全に止めてから行ってください。

■ シフトポジションの使用目的

<table>
<tr><th rowspan="2">シフトポジション</th><th colspan="2">目的</th></tr>
<tr><th>2TR-FE エンジン搭載車</th><th>1GR-FE エンジン搭載車</th></tr>
<tr><td>P</td><td colspan="2">駐車またはエンジンの始動・停止</td></tr>
<tr><td>R</td><td colspan="2">後退</td></tr>
<tr><td>N</td><td colspan="2">動力が伝わらない状態</td></tr>
<tr><td>D</td><td colspan="2">通常走行※1</td></tr>
<tr><td>S</td><td></td><td>S モード走行※2
(→P. 162)</td></tr>
<tr><td>3</td><td>坂道走行</td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td>下り坂走行</td><td></td></tr>
<tr><td>L</td><td>急な下り坂走行</td><td></td></tr>
</table>

※1 燃費向上や騒音の低減のために、通常は D ポジションを使用してください。

※2 S モードではエンジンブレーキ力の選択が可能です。また、D ポジションにくらべエンジン回転数を高く制御するため、加速応答性が向上します。

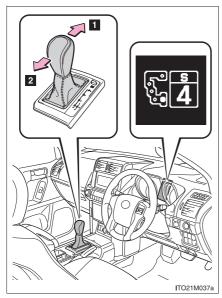
■ 走行モードの選択

雪道など、すべりやすい路面での発進・走行時に、走行モードをセカンドスタートモードに切りかえます。

切りかえ方法：→P. 179

セカンドスタートモードのときは 2nd STRT が点灯します。

S モードでのシフトレンジ切りかえ（1GR-FE エンジン搭載車）

シフトレバーが S の位置にあるとき、シフトレバーを次のように操作できます。

1 シフトレンジを上げる

2 シフトレンジを下げる

S ポジションへ操作したときの初期シフトレンジは 4 レンジに設定されます。ただし、D ポジションにて AI-SHIFT 制御中はそれに従い、初期のシフトレンジが 3 レンジまたは 2 レンジになる場合があります。(→P. 163)

■ シフトレンジ機能

- エンジンブレーキ力は、5 段階から選択が可能です。
- シフトレンジの数字の小さい方がエンジンブレーキ力は大きくなり、エンジン回転数も高くなります。

知識

■リバース警告ブザー

シフトレバーをRに入れるとブザーが鳴り、Rにあることを運転者に知らせます。

■S モード（1GR-FE エンジン搭載車）

4 レンジ以下のとき、シフトレバーを＋側へ保持すると、5 レンジに設定されます。

■シフトダウン制限警告ブザー（S モード走行時）

1GR-FE エンジン搭載車は、安全や走行性能を確保するため、シフトダウン操作には制限があり、シフトレバーを操作してもシフトダウンできない場合があります。（このときブザーが 2 回鳴ります）

■クルーズコントロールまたはレーダークルーズコントロールを使って走行しているとき（装着車のみ）

1GR-FE エンジン搭載車は、S モード走行時に 4 へシフトダウンしても、エンジンブレーキは効きません。(→P. 199, 203)

■セカンドスタートモードの自動解除

セカンドスタートモードを選択して走行後、エンジンを停止すると、自動的に通常走行モードに切りかわります。

■シフトレバーを P からシフトできないときは

→P. 391

■シフトレバーを S にしても“ S ”が点灯しないときは（1GR-FE エンジン搭載車）

システム異常のおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。この場合、シフトレバーを D にしているときと同じ制御になります。

■AI-SHIFT について

AI-SHIFT は、運転者の運転操作と走行状況により、自動的に最適なシフトレンジに切りかえます。

AI-SHIFT は、シフトレバーを D にしているときに自動的に作動します。
（1GR-FE エンジン搭載車では、シフトレバーを S にすると、機能が解除されます）

■NAVI・AI-SHIFT について*

ナビゲーションシステムの機能を利用した、高度な自動変速制御の機能です。使用方法は、別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。

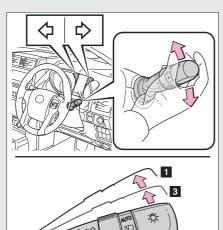
警告

■すべりやすい路面では

急なアクセル操作や、シフト操作を行わないでください。エンジンブレーキ力の急激な変化が横すべりやスピンの原因になりますので注意してください。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

方向指示レバー

レバー操作により、次のように運転者の意思を表示することができます。

1 左折

2 右折

3 左側へ車線変更
（レバーを途中で保持）

レバーを離すまで左側方向指示灯が点滅します。

4 右側へ車線変更
（レバーを途中で保持）

レバーを離すまで右側方向指示灯が点滅します。

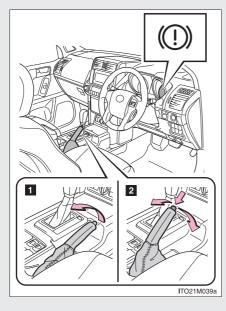
知識

■作動条件

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチがイグニッション ON モードのとき

■表示灯の点滅が異常に速くなったときは

方向指示灯の電球が切れていないか確認してください。

パーキングブレーキ

1 パーキングブレーキをかけるには、ブレーキペダルを踏みながら、パーキングブレーキレバーをいっぱいまで引く

2 パーキングブレーキを解除するには、レバーを少し引き上げ、ボタンを押しながら完全に下までもどす

知識

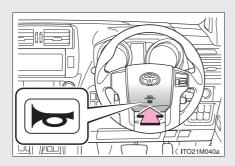
■パーキングブレーキ未解除走行時警告ブザー

→P. 364

注意

■走行前の注意

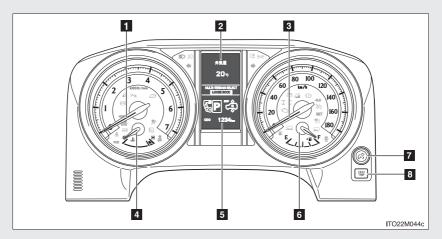
パーキングブレーキを完全に解除してください。
パーキングブレーキをかけたまま走行すると、ブレーキ部品が過熱し、ブレーキの効きが悪くなったり、早く摩耗したりするおそれがあります。

ホーン（警音器）

ハンドルの [ホーンマーク] 周辺部を押すとホーンが鳴ります。

知識

■ハンドル位置を調整したあとは
（マニュアルチルト＆テレスコピックステアリング装着車）

ハンドルが確実に固定されていることを確認してください。固定が不十分だとホーンが鳴らない場合があります。(→P. 89)

計器類

1 タコメーター

毎分のエンジン回転数を示します。

2 マルチインフォメーションディスプレイ

→P. 174

3 スピードメーター

車両の走行速度を示します。

4 水温計

エンジン冷却水の温度を示します。

5 オドメーター・トリップメーター

● オドメーター

走行した総距離を表示します。

● トリップメーター

リセットしてからの走行距離を表示します。

区間距離は、トリップＡ･トリップＢの２種類で使い分けることができます。

6 燃料計

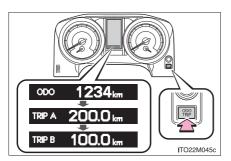
燃料残量を示します。

7 メーター照度調整ダイヤル

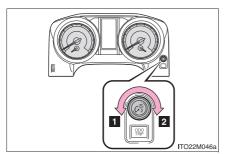
→P. 169

8 オドメーター／トリップメーター切りかえボタン

→P. 169

表示の切りかえ

ボタンを押すごとに表示が切りかわります。また、トリップメーター表示中に押し続けると、走行距離を 0 にもどします。

メーター照度調整

ダイヤルをまわしてメーター照明の明るさを調整できます。

1 暗くなる

2 明るくなる

知識

■メーター・ディスプレイの作動条件

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチがイグニッション ON モードのとき

■バッテリー端子の脱着をしたときは

バッテリー端子の脱着を行うと、次のデータはリセットされます。

- ●トリップメーター A
- ●トリップメーター B

バッテリーを脱着後は、オドメーターが表示されます。

■メーター照度の減光制御について

ライトスイッチが ON になると、メーター照明が減光されます。
ただし、メーター照度調整ダイヤルを右側いっぱいにまわした状態では、ライトスイッチが ON になってもメーター照明は減光されません。また、このときナビゲーション画面※は夜画表示には切りかわりません。

※メーカーオプションのナビゲーションシステム装着車

注意

■エンジンや構成部品への損傷を防ぐために

- ●タコメーターの針がレッドゾーン（エンジンの許容回転数をこえている範囲）に入らないようにしてください。
- ●水温計の針がHのレッドゾーンに入ったときは、オーバーヒートのおそれがあるので、ただちに安全な場所に停車してください。完全に冷えたあと、エンジンを確認してください。（→P. 400）

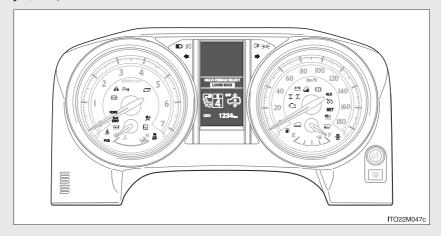
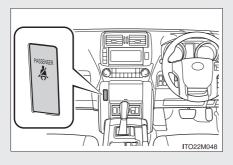
表示灯／警告灯

メーター・センターパネル内の表示灯・警告灯でお車の状況をお知らせします。

▶ メーター

ITO22M047c

▶ センターパネル

ITO22M048

■表示灯

システムの作動状況を表示します。

- 方向指示表示灯（→P. 165）

- ヘッドライト上向き表示灯（→P. 185）
- 尾灯表示灯（→P. 185）
- フロントフォグライト表示灯（→P. 189）
- リヤフォグライト表示灯*（→P. 190）
- 2nd STRT 表示灯（→P. 161）
- ※1 クルーズコントロール表示灯*（→P. 199, 203）
- 車間制御モード表示灯*（→P. 203）
- セット表示灯*（→P. 203）

- ※2 スリップ表示灯（→P. 226）（点滅）
- ※2 VSC OFF 表示灯（→P. 227）
- ※3 L4 作動表示灯
- ※3 センターデフロック作動表示灯
- ※3 リヤデフロック作動表示灯*
- ※2 エコドライブインジケーターランプ（→P. 146）
- クリアランスソナー表示灯*（→P. 214）
- ※2※3 クロールコントロール表示灯*
- ※3 マルチテレインセレクト表示灯*

- ※2※3 ダウンヒルアシストコントロールシステム表示灯*
- ※2 PCS 警告灯*（→P. 357）（点灯または速い点滅）

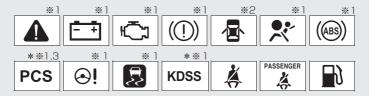
※1 レーダークルーズコントロール装着車は、定速制御モード表示灯になります。

※2 作動確認のために“エンジン スタート ストップ”スイッチをイグニッション ON モードにすると点灯し、数秒後またはエンジンをかけると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

※3 別冊「オフロード走行取扱書」を参照してください。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

■警告灯

万一のシステム異常などを警告します。(→P. 355)

※1 作動確認のために"エンジン スタート ストップ"スイッチをイグニッション ON モードにすると点灯し、数秒後またはエンジンをかけると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

※2 "エンジン スタート ストップ"スイッチがイグニッション ON モードのとき、半ドア警告灯の点灯に併せて、マルチインフォメーションディスプレイ上に、半ドア警告表示が表示されます。(→P. 363)

※3 点滅した場合はシステム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

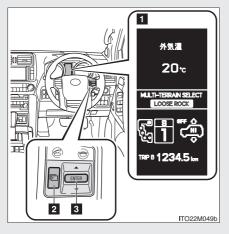
警告

■安全装置の警告灯が点灯しないときは

ABS や SRS エアバッグなどの安全装置の警告灯が、"エンジン スタート ストップ"スイッチをイグニッション ON モードにしても点灯しない場合や点灯したままの場合は、事故にあったときに正しく作動せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

マルチインフォメーションディスプレイ

マルチインフォメーションディスプレイは、外気温や走行に関するさまざまな情報を表示します。また、マルチテレインセレクト（装着車のみ）など、各種機能の設定操作にも使用します。

1 マルチインフォメーションディスプレイ

現在選択中の、機能の画面が表示されます。

2 メニュースイッチ

各機能の画面に表示を切りかえます。

3 “ENTER”スイッチ

ドライブモニターの表示項目の切りかえや、各設定画面での操作に使用します。

■ マルチインフォメーションディスプレイの機能

● シフトポジション・シフトレンジ表示

現在のシフトポジション・シフトレンジが表示されます。(→P. 159)

● ドライブモニター機能

航続可能距離や燃費など、走行に関する各種の情報を確認できます。(→P. 176)

● スイッチモード

セカンドスタートモードやクリアランスソナー＆バックソナーなど、各機能の ON・OFF を設定できます。(→P. 179)

● マルチテレインセレクト の設定*

マルチテレインセレクトのモード選択、およびマルチテレインモニターの切りかえなどの操作が可能です。(→ 別冊「オフロード走行取扱書」)

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

● メーターカスタマイズ機能

車両に関する各種の設定を変更できます。(→P. 413)

● レーダークルーズコントロール の情報表示*

レーダークルーズコントロール使用時、車間モードや警告画面などの情報が自動で表示されます。(→P. 203)

● クリアランスソナー＆バックソナー距離表示*

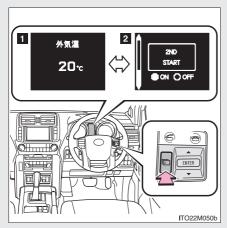
クリアランスソナー＆バックソナーの使用時、車両各部のセンサーが障害物を感知すると、自動で表示されます。(→P. 214)

● リヤハイトコントロールエアサスペンション表示*

現在の車高モードが表示されます。(→ 別冊「オフロード走行取扱書」)

● 警告メッセージ

車両についてお知らせしたい事項が発生したとき、警告の内容などが自動で表示されます。(→P. 360)

■ 各機能の画面に切りかえるには

[スイッチ] を押すたびに画面が切りかわります

1 ドライブモニター
(→P. 176)

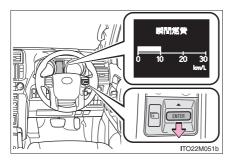
2 スイッチモードの設定
(→P. 179)

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

ドライブモニター機能

航続可能距離や燃費などの情報を確認することができます。

■ ドライブモニターの表示を切りかえるには

ITO22M051b

 を下に操作するごとに、表示が次のように切りかわります。（上に操作すると、前の項目にもどります）

フロントタイヤ方向表示→航続可能距離→給油後平均燃費→瞬間燃費→平均燃費／エコドライブインジケーターゾーン表示→平均車速→走行時間→外気温→非表示→（くり返し）

■ 表示内容について

● フロントタイヤ方向表示

現在のフロントタイヤの方向（切れ角）の目安を表示します。

タイヤの方向表示は、タイヤの角度に応じて、左右それぞれ 3 段階に切りかわります。

● 航続可能距離

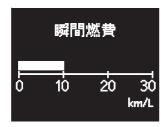
現在の燃料残量で走行できるおよその距離を表示します。

- 表示される距離は過去の平均燃費をもとに算出されるため、表示される距離を実際に走行できるとは限りません。
- 燃料給油量が少量の場合、表示が更新されないことがあります。

● 給油後平均燃費

燃料を補給してからの平均燃費を表示します。

表示される平均燃費は、参考として利用してください。

● 瞬間燃費

現在の瞬間燃費を表示します。

● 平均燃費／エコドライブインジケーターゾーン表示※

リセットしてからの平均燃費を表示します。

・ リセットするには、平均燃費の表示中に

を押し続けます。

・ 表示される平均燃費は、参考として利用してください。

※ エコドライブインジケーターゾーン表示については、P. 183 を参照してください。

● 平均車速

リセットしてからの平均車速を表示します。

リセットするには、平均車速の表示中に

を押し続けます。

●走行時間

走行時間

9:15

エンジンを始動してからの走行時間を通算で表示します。

リセットするには、走行時間の表示中にを押し続けます。

● 外気温

外気温

20℃

外気温を表示します。

－ 40 ℃～ 50 ℃のあいだで表示します。

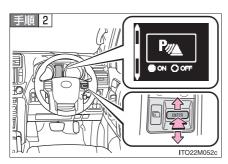
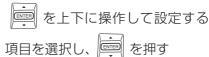
スイッチモード

セカンドスタートモードやクリアランスソナー＆バックソナー※など、各種機能の ON・OFF を設定することができます。

※装着車のみ

■ 設定変更のしかた

手順 1 を押して、スイッチモードの設定画面を表示する（→P. 175）

を上下に操作して設定する項目を選択し、を押す

スイッチを押すたびに、選択した機能の ON・OFF が切りかわります。

各機能を ON にすると、設定した機能の表示灯が点灯します。

マルチテレインセレクトを確定した場合は、設定画面に切りかわります。詳しくは、別冊「オフロード走行取扱書」を参照してください。

手順 3 を押して、もとの画面にもどす

■ 設定可能な機能

画面表示	設定内容	参照先
P ON OFF	クリアランスソナー＆ バックソナーの ON・OFF※	P. 214
2ND START ON OFF	セカンドスタートモードの ON・OFF	P. 161
MULTI-TERRAIN SELECT ENTER	マルチテレインセレクトの 使用・各種設定※	別冊「オフロード走行取扱書」

※装着車のみ

知識

■マルチインフォメーションディスプレイの作動条件

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチがイグニッション ON モードのとき

■システムチェック表示

ITO22M090b

“ エンジン スタート ストップ ”スイッチをイグニッション ON モードにしたとき、システムの作動確認のために表示されます。チェックが終わると、通常の画面表示になります。

■スイッチモードの設定画面が終了するとき

次の場合は、スイッチモードの設定画面が終了、または他の画面に切りかわります。

- [ボタン] を押したとき
- クロールコントロールの操作を行ったとき※
- レーダークルーズコントロールの操作を行ったとき※
- クリアランスソナー＆バックソナーの使用時、センサーが障害物を感知したとき※
- 警告メッセージが表示されたとき

※装着車のみ

■バッテリー端子の脱着をしたときは

バッテリー端子の脱着を行うと、次のデータはリセットされます。

●給油後平均燃費

●平均燃費

●平均車速

●走行時間

■外気温度表示について

次の場合は、正しい外気温度が表示されなかったり、温度表示の更新が遅くなったりすることがありますが、故障ではありません。

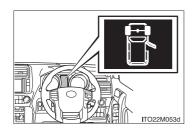
●停車しているときや、低速走行（約 20km/h 以下）のとき

●外気温度が急激に変化したとき（車庫・トンネルの出入り口付近など）

■外気温度表示で“--”または“E”が表示されたときは

システム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

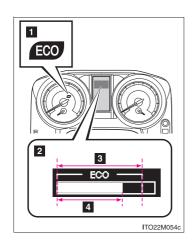
■半ドア警告表示について

ITO22M053d

“エンジン スタート ストップ”スイッチがイグニッション ON モードのとき、半ドア警告灯（→P. 358）の点灯に合わせて表示されます。

どのドア（またはバックドアガラス）が開いているか、画面の表示※で把握することができます

※ バックドアガラスが開いている場合は、画面表示が異なります。（→P. 363）

■エコドライブインジケーターについて

●環境に配慮したアクセル操作をしているかどうかを確認できます。
バー表示がエコ運転の範囲内にあり、エコドライブインジケーターランプが点灯しているとき、環境に配慮したエコ運転中であることを示しています。

1 エコドライブインジケーターランプ
(→P. 146)

2 エコドライブインジケーターゾーン表示

3 エコ運転の範囲

4 現状のアクセル開度

アクセル操作に連動してバー表示が変化します。
バー表示がエコ運転の範囲をこえると、エコドライブインジケーターゾーン表示の右側部分が点滅し、エコドライブインジケーターランプが消灯します。

●エコドライブインジケーターは、次の条件のときに作動します。

・シフトポジションが D で走行中
・セカンドスタートモード（→P. 161）を使用していないとき
・車速が約 100km/h 以下のとき

●エコドライブインジケーターランプの作動／非作動を設定できます。
(→P. 413)

⚠警告

■スイッチモードについて

走行中に操作する場合は、周囲の安全に十分注意してください。

■低温時の画面表示について（1GR-FE エンジン搭載車）

画面の温度が極めて低いときは、画面表示の切りかえが遅れる場合がありますので、車室内を暖めてからご使用ください。
S モードでの走行時、シフト操作をしてもすぐにシフトレンジの表示が切りかわらないことで、運転者がシフトダウンしなかったと誤解し、再度シフトダウンすることによって急激に過度のエンジンブレーキがかかり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

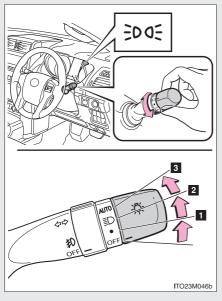
⚠注意

■低温時の画面表示について

画面の温度が極めて低いときは、画面表示の切りかえが遅れる場合がありますので、車内を暖めてください。

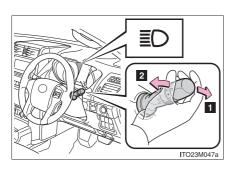
ライトスイッチ

自動または手動でヘッドライトなどを点灯できます。

レバーの端をまわすと、次のようにライトが点灯します。

1 車幅灯・尾灯・番号灯を点灯

2 上記ライトとヘッドライトを点灯

3 ヘッドライト、車幅灯などを自動点灯・消灯
（“エンジン スタート ストップ”スイッチがイグニッション ON モードのとき）

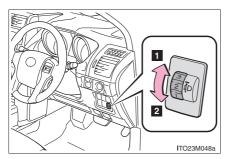
ハイビームにする

1 ライト点灯時ハイビームに切りかえ

レバーをもとの位置へもどすとロービームにもどります。

2 レバーを引いているあいだ、ハイビームを点灯

ライトが消灯していても、ハイビームが点灯します。
レバーを離すと、ロービームにもどる、または消灯します。

手動光軸調整ダイヤル

乗車人数や荷物の量などによる車の姿勢の変化に合わせて、ヘッドライトの光軸を調整することができます。

1 上向きに調整

2 下向きに調整

■ 目盛り設定の目安

▶ 5人乗り車

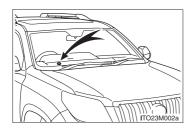
乗員と荷物の条件		ダイヤル位置
乗員	荷物	
運転者	なし	0
運転者と助手席乗員	なし	0
全乗員	なし	1
全乗員	ラゲージルーム満載時	3.5
運転者	ラゲージルーム満載時	3.5

▶ 7人乗り車

乗員と荷物の条件		ダイヤル位置	
乗員	荷物	GRJ151W を除く車両	GRJ151W
運転者	なし	0	0
運転者と助手席乗員	なし	0	0
運転者と助手席乗員、および、サードシートに2名乗車	なし	1	0
全乗員	なし	2	0
全乗員	ラゲージルーム満載時	3.5	0.5
運転者	ラゲージルーム満載時	3.5	0.5

知識

■ライトセンサー

ITO23M002a

センサーの上にものを置いたり、センサーをふさぐようなものをウインドウガラスに貼らないでください。周囲からの光がさえぎられると、自動点灯・消灯機能が正常に働かなくなります。

■ライト消し忘れ防止機能

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチをアクセサリーモード、または OFF にして運転席ドアを開けると、ヘッドライトや尾灯などが消灯します。

再びライトを点灯する場合は、“ エンジン スタート ストップ ” スイッチをイグニッション ON モードにするか、一度ライトスイッチを OFF にもどし、再度 ● または ≣D の位置にします。

■カスタマイズ機能

ライトセンサーの感度の設定などを変更できます。
(カスタマイズ一覧：→P. 413)

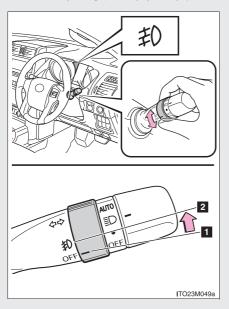
⚠ 注意

■バッテリーあがりを防止するために

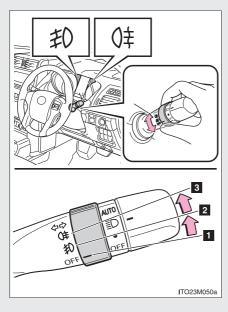
エンジンを停止した状態でライトを長時間点灯しないでください。

フォグライトスイッチ

雨や霧などの悪天候下で視界を確保します。

▶ フロントフォグライトスイッチ

1 消灯する

2 点灯する

▶ フロント&リヤフォグライトスイッチ

1 消灯する

2 フロントフォグライトを点灯する

3 フロント&リヤフォグライトを点灯する

手を離すと （フォグライト記号） の位置までもどります。
再度操作すると、リヤフォグライトのみ消灯します。

知識

■点灯条件

フロントフォグライト：
　ヘッドライトまたは車幅灯が点灯しているときに使用できます。

リヤフォグライト：
　フロントフォグライトが点灯しているときのみ使用できます。

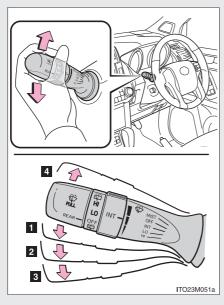
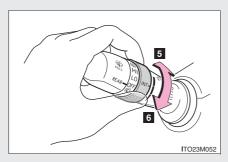
■リヤフォグライトについて

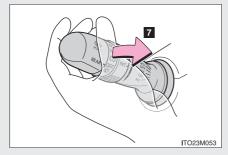
- リヤフォグライトが点灯しているときは、メーター内の表示灯が橙色に点灯します。
- 雨や霧などで視界が悪いときに後続車に自分の車の存在を知らせるために使用します。
  視界が悪いとき以外に使用すると後続車の迷惑になる場合があります。
  必要なとき以外は使用しないでください。

ワイパー&ウォッシャー（フロント）

間欠作動調整式ワイパー：
“ INT ” を選択しているとき、間欠作動の頻度を調整することができます。

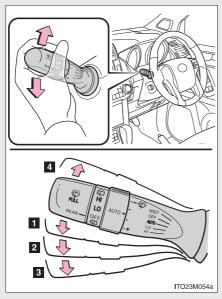
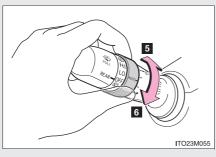
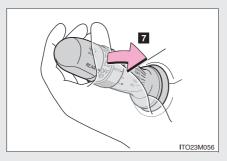
雨滴感知式ワイパー：
“ AUTO ” を選択しているとき、雨滴量と車速に応じてワイパーが作動します。

▶ 間欠作動調整式ワイパー
次のようにレバーを操作して、ワイパーの作動を選択します。
ワイパーの間欠時間も調整できます。

1 間欠作動（INT）
2 低速作動（LO）
3 高速作動（HI）
4 一時作動（MIST）

5 間欠ワイパーの作動頻度（減）

6 間欠ワイパーの作動頻度（増）

7 ウォッシャー液を出す

ワイパーが連動して作動します。

▶ 雨滴感知式ワイパー

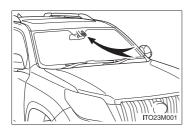
次のようにレバーを操作してワイパーの作動を選択します。
“ AUTO ” が選択されているときは、次のようにツマミをまわして雨滴センサーの感度も調整できます。

1 雨滴感知オート作動（AUTO）
2 低速作動（LO）
3 高速作動（HI）
4 一時作動（MIST）

5 雨滴センサーの感度調整（低）
6 雨滴センサーの感度調整（高）

7 ウォッシャー液を出す

ワイパーが連動して作動します。(数回作動したあと、液だれ防止としてさらに 1 回作動します)

知識

■作動条件

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチがイグニッション ON モードのとき

■雨滴感知センサー(雨滴感知式ワイパー装着車)

- 雨滴感知センサーが雨滴量を判定します。光学センサーを使用しているため、フロントガラスに朝日や夕日が断続的にあたるときや、虫などで汚れたときに正しく作動しないことがあります。

- “ エンジン スタート ストップ ” スイッチがイグニッション ON モードのときにワイパースイッチを AUTO モードにすると、作動確認のためワイパーが 1 回作動します。
- ワイパースイッチが AUTO モードのときに雨滴感知センサーの感度調整を高側へ調整すると、作動確認のためにワイパーが 1 回作動します。
- 雨滴感知センサーの温度が90℃以上または－15℃以下のときは、AUTO作動しないことがあります。その場合は、AUTO モード以外でワイパーを使用してください。

■車速による作動への影響（雨滴感知式ワイパー装着車）

AUTO 選択時以外でも、車速によってウォッシャー連動時のワイパー作動（液だれ防止作動が働くまでの時間）がかわります。

LO 選択時は停車時のみ間欠作動へ切りかわります。
（雨滴センサーの感度調整が最高に調整されているときは、低速作動を続けます）

■ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

警告

■AUTO モード時のワイパー作動に関する警告（雨滴感知式ワイパー装着車）

AUTO モードでは、センサーにふれたり、フロントガラスに振動があるなどの要因で不意にワイパーが働くおそれがあります。ワイパーで指などを挟まないように注意してください。

注意

■フロントガラスが乾いているときは

ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷付けるおそれがあります。

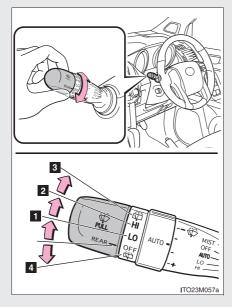
■ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャースイッチを操作し続けないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

■ノズルがつまったときは

ピンなどで取り除かないでください。
ノズルが損傷するおそれがあります。

ワイパー&ウォッシャー(リヤ)

次のようにレバーをまわして、ワイパーの作動を選択します。

1 間欠作動(LO)

2 通常作動(HI)

3 ウォッシャー液を出す

ワイパーが連動して作動します。

4 ウォッシャー液を出す

ワイパーが連動して作動します。

知識

■作動条件

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチがイグニッション ON モードで、バックドアガラス(→P. 54)が閉まっているとき

■ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

注意

■窓ガラスが乾いているときは

ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷付けるおそれがあります。

■ウォッシャー液が出ないときは

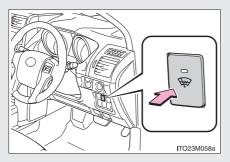
ウォッシャースイッチを操作し続けないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

■ノズルがつまったときは

ピンなどで取り除かないでください。
ノズルが損傷するおそれがあります。

フロントワイパーデアイサー＊

フロントウインドウガラスとワイパーブレードの凍結を防ぐために使用してください。

ITO23M058a

ON ／ OFF を切りかえる

フロントワイパーデアイサーは、約15 分で自動的にOFF になります。

知識

■作動条件

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチがイグニッション ON モードのとき

警告

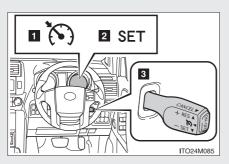
■作動中の警告

フロントウインドウガラス下部、およびフロントピラー横の表面が熱くなっており、やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

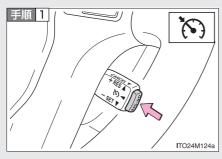
＊ : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

クルーズコントロール＊

アクセルペダルを踏まなくても一定の速度で走行できます。

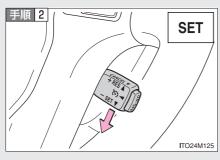
ITO24M085

1 クルーズコントロール表示灯
2 セット表示灯
3 クルーズコントロールスイッチ

■ 速度を設定する

ITO24M124a

ON-OFF スイッチを押して、システムを ON にする

クルーズコントロール表示灯が点灯します。

OFF にするには、再度スイッチを押します。

ITO24M125

希望の速度まで加速／減速し、レバーを下げて設定する

セット表示灯が点灯します。

＊ : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

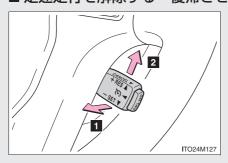
■ 設定速度をかえる

1 速度を上げる

2 速度を落とす

希望の速度になるまでレバーを保持します。

レバーを上または下に軽く操作して手を離せば、設定速度を微調整できます。

■ 定速走行を解除する・復帰させる

1 解除するには、レバーを手前に引く

ブレーキペダルを踏んだときも解除されます。

2 定速走行にもどすには、レバーを上げる

知識

■設定条件について

●次のシフトポジション（シフトレンジ）のとき設定できます。
- 2TR-FE エンジン搭載車：D または 3
- 1GR-FE エンジン搭載車：D または S モードの 4・5 レンジ

●速度は約 40 ～約 100 km/h の範囲で設定できます。

■アクセル操作

通常走行と同様にアクセル操作で加速できます。加速後、設定車速にもどります。

■定速走行の自動解除

次のとき、自動的に定速走行が解除されます。

●設定速度より実際の速度が約 16 km/h 以上低下した

●速度が約 40 km/h 以下になった

●VSC が作動した

●センターデフロックへの切りかえ操作後に、切りかえ作動が約 5 秒以上続いた

■定速走行中にクルーズコントロール表示灯が点滅したときは

ON-OFF スイッチでシステムを一度 OFF にし、再度設定してください。
設定できないとき、またはすぐに解除されるときは、システム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

警告

■誤操作を防ぐために

クルーズコントロールを使用しないときは、ON-OFF スイッチでシステムをOFF にしてください。

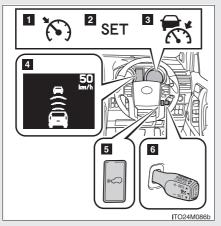
■クルーズコントロールを使用してはいけない状況

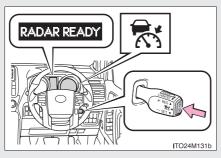
次の状況では、クルーズコントロールを使用しないでください。
車のコントロールを失い、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ●交通量の多い道
- ●急カーブのある道
- ●曲がりくねった道
- ●雨天時や、凍結路・積雪路などのすべりやすい路面
- ●急な下り坂
  急な下り坂では設定車速以上になることがあります。
- ●車両けん引時

レーダークルーズコントロール*

アクセルペダルを踏まなくても、車間制御モードで先行車の速度変化に合わせた追従走行を行ったり、定速制御モードにより一定の速度で走行できます。

先行車との車間距離が確保しやすい高速道路や自動車専用道路などで使用してください。

1 定速制御モード表示灯
2 セット表示灯
3 車間制御モード表示灯
4 マルチインフォメーションディスプレイ
5 車間距離切りかえスイッチ
6 レーダークルーズコントロールスイッチ

■ 制御モードを選択する

車間制御モードを選択する

ON-OFF スイッチを押して、システムを ON にする

OFF にするには再度 ON-OFF スイッチを押します。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

ITO24M132

定速制御モードを選択する

1 ON-OFFスイッチを押してシステムを ON にする

OFF にするには再度 ON-OFF スイッチを押します。

“エンジン スタート ストップ” スイッチがイグニッション ON モードになるたびに、車間制御モードに再設定されます。

2 定速制御モードに切りかえ（約 1 秒間レバーを前方に押し続ける）

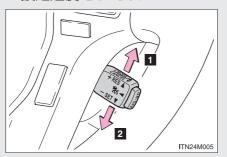
定速制御モードに切りかえると、定速制御モード表示灯が点灯します。

■ 選択したモード（車間制御・定速制御）で走行する

ITO24M133

希望の速度まで加速／減速し、レバーを下げて速度を設定する

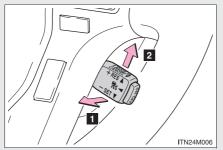
セット表示灯が点灯します。

■ 設定速度をかえるには

1 速度を上げる

2 速度を落とす

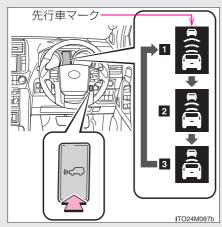
表示が希望の車速になるまでレバーを保持します。

レバーを軽く操作して手を離せば、設定速度を微調整できます。

■ 制御を解除する・復帰させるには

1 解除するには、レバーを手前に引く

ブレーキペダルを踏んだときも解除されます。

2 もとの制御状態にもどすには、レバーを上げる

■ 車間距離を変更するには（車間制御モード）

スイッチを押すごとに次のように車間距離を切りかえます

1 長い

2 中間

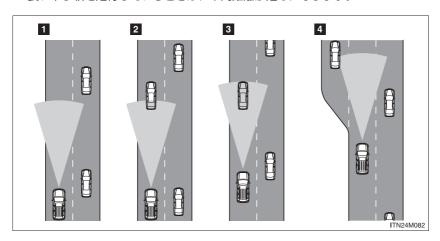
3 短い

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチがイグニッション ON モードになるたびに 1 に設定されます。

先行車がいる場合、先行車マークも表示されます。

車間制御モードでの走行

このモードではレーダーセンサーにより、車両前方約 100 m 以内の先行車を検知して、先行車の有無・先行車との車間距離を判定します。

長い下り坂を走行しているときは、車間距離が短めになります。

1 定速走行：
先行車がいないとき

運転者が設定した速度で定速走行します。また、車間距離切りかえスイッチを操作して、希望の車間距離に設定することもできます。

2 減速走行：
設定した速度より遅い先行車が現れたとき

自車線に先行車を検知すると自動で減速し、より大きな減速が必要な場合はブレーキがかかります。十分に減速できない状態で先行車に接近した場合は、接近警報を鳴らします。

3 追従走行：
設定した速度より遅い先行車に追従するとき

先行車の速度変化に合わせて、運転者の設定した車間距離になるよう追従します。

4 加速走行：
設定した速度より遅い先行車がいなくなったとき

先行車が車線変更したときは設定速度までゆっくり加速し、定速走行にもどります。

接近警報

追従走行中の他車の割り込みなど、十分な減速ができない状態で先行車に接近したときは、表示の点滅とブザーで運転者に注意をうながします。その場合は、ブレーキペダルを踏むなど適切な車間距離を確保してください。

知識

■設定条件について

●シフトレバーが D のとき設定できます。(推奨)
シフトレバーが S の 4・5 レンジのときでも設定できます。

●速度は約 50 km/h から約 100 km/h の範囲で設定できます。

■モードの切りかえについて

車間制御モードを使用してから定速制御モードに切りかえることはできません。また、定速制御モードから車間制御モードへもどすこともできません。システムを OFF にしてから再度操作してください。

■アクセル操作

通常走行と同様にアクセル操作で加速できます。ただし、車間制御モード時は先行車と距離を保持するため設定車速以下になることもあります。

■車間制御走行の自動解除

次のとき、自動的に車間制御走行が解除されます。

●速度が約 40 km/h 以下になった

●VSC が作動した

●センサーが何かでふさがれて適切に働かない

●ワイパーが高速で作動した

●走行モードをセカンドスタートモードにセットした

●センターデフロックへの切りかえ操作後に、切りかえ作動が約 5 秒以上続いた

その他の理由で車間制御走行が自動解除されるときは、システムが故障している可能性があります。トヨタ販売店にご相談ください。

■定速制御走行の自動解除

次のとき、自動的に定速制御が解除されます。

●設定速度より実際の速度が約 16 km/h 以上低下した

●速度が約 40 km/h 以下になった

●VSC が作動した

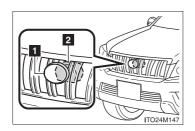
●センターデフロックへの切りかえ操作後に、切りかえ作動が約 5 秒以上続いた

■車間距離選択の目安

次の目安を参考に車間距離を選択してください。(→P. 205)
(時速 80 km/h で走行している場合)
なお、速度に応じて車間距離は増減します。

車間距離選択	車間距離
長い	約 50 m
中間	約 40 m
短い	約 30 m

■レーダーセンサーとグリルカバーについて

車間制御を正しく作動させるために、センサーとグリルカバーは常にきれいにしておいてください。(ビニールやつらら・雪など、汚れ検知機能で検知できないものもあります)
汚れを検知したときは、レーダークルーズコントロールは解除されます。

1 グリルカバー

2 レーダーセンサー

■レーダークルーズコントロールの表示灯・警告メッセージ・警告ブザー

走行操作に関して注意が必要な場合や、システムに異常が発生したときには、表示灯や警告メッセージ・警告表示・警告ブザーで注意をうながします。
(→P. 355, 360)

■接近警報について

車間距離が短くても、次のような場合は警報されないことがあります。

●先行車と自車の車速が同じか先行車の方が速いとき

●先行車が極端な低速走行をしているとき

●速度を設定した直後

●アクセルペダルが踏まれたとき

警告

■**安全にお使いいただくために**

安全運転を行う責任は運転者にあります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。
レーダークルーズコントロールは運転者の操作の一部を支援し、操作負担を軽減するためのシステムで、支援の範囲には限りがあります。
システムが正常に機能していても、運転者が認識している先行車の状況とシステムが検知している状況が異なる場合があります。従って注意義務・危険性の判断・安全の確保は運転者が行う必要があります。なお、誤った使い方をしたり、操作慣れなどで注意を怠ったりすると、思わぬ危険を招くことがあります。

■**システムの支援内容に関する注意点**

システムの支援には限界があるため、次の点に注意してください。
システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●運転者が見る過程での支援内容
レーダークルーズコントロールは、自車と設定された先行車との車間距離を検知するのみであり、わき見やぼんやり運転を許容するシステムでも、視界不良を補助するシステムでもありません。
運転者自らが周囲の状況に注意を払う必要があります。

●運転者が判断する過程での支援内容
レーダークルーズコントロールは、自車と設定された先行車との車間距離が適正かどうかを判断しており、それ以外の判断はしません。このため、危険性があるかどうかなど運転者は自ら安全の判断をする必要があります。

●運転者が操作する過程での支援内容
レーダークルーズコントロールは、先行車への追突を防止する機能はありません。このため、危険性があれば運転者自らが安全を確保する必要があります。

■**誤操作を防ぐために**

レーダークルーズコントロールを使わないときは、ON-OFF スイッチでシステムを OFF にしてください。

⚠警告

■レーダークルーズコントロールを使用してはいけない状況

次の状況では、レーダークルーズコントロールを使用しないでください。
適切な制御が行われず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ●交通量の多い道
- ●急カーブのある道
- ●曲がりくねった道
- ●雨天時や、凍結路・積雪路などのすべりやすい路面
- ●急な下り坂や急で勾配の変化が激しい坂
- ●高速道路の出入り口
- ●レーダーセンサーが正しく働かないような悪天候時（霧・雪・砂嵐・激しい雨など）
- ●警報がひんぱんに鳴るとき
- ●車両けん引時

■センサーが正しく検知しないおそれのある先行車

次のような場合は、必要に応じてブレーキで減速してください。
センサーが正しく車両を検知できず、接近警報（→P. 207）も作動しないため、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ●先行車が急に割り込んできたとき
- ●先行車が低速で走行中のとき
- ●停車中の車がいるとき
- ●先行車の後部が小さすぎるとき（荷物を積んでいないトレーラーなど）
- ●同じ車線を二輪車が走行中のとき

⚠ 警告

■**車間制御が正しく働かないおそれのある状況**

次の状況では、必要に応じてブレーキで減速してください。
レーダーセンサーが正常に車両を検知せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 周囲の車より水や雪がまき散らされ、レーダーセンサーの作動のさまたげになる場合
- 自車の車両姿勢が上向きになる場合（重い荷物を積んだときなど）
- カーブ路や車線幅が狭い道路などを走行する場合
- ハンドル操作が不安定な場合や、車線内の自車の位置が一定でない場合
- 先行車が急ブレーキをかけた場合

警告

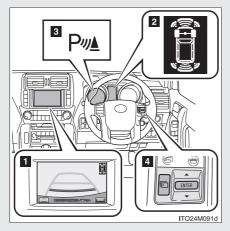
■**レーダーセンサーの取り扱い**

レーダークルーズコントロールが効果を発揮できるように次のことをお守りください。お守りいただかないと、センサーが正しく作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- センサーとグリルカバーは常にきれいにしておく
  お手入れをする際は、センサーやグリルカバーを傷付けないよう、やわらかい布を使ってください。
- センサー周辺への強い衝撃を避ける
  センサーの位置がずれると、システムに異常が起こるおそれがあります。センサー、または周辺に強い衝撃を受けた際は、必ずトヨタ販売店にて点検を受け、調整してください。
- センサーを分解しない
- センサーやグリルカバー周辺にアクセサリーを付けたり、ステッカーを貼ったりしない
- センサーやグリルを改造したり塗装したりしない
- 純正品以外の部品に交換しない
- センサーは電波法の基準に適合しています。センサーに貼り付けられているラベルはその証明ですのではがさないでください。また、センサーを分解・改造すると罰せられることがあります。

クリアランスソナー＆バックソナー＊

クリアランスソナー＆バックソナーは、車両と障害物とのおおよその距離を超音波センサーによって感知して、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイの距離表示とブザー音で運転者にお知らせします。

メーカーオプションのナビゲーションシステム装着車は、モニター画面でも距離を表示します。

1 モニター画面※1
2 マルチインフォメーションディスプレイ
3 クリアランスソナー表示灯
4 メニュースイッチ・“ENTER”スイッチ（→P. 174）

※1 メーカーオプションのナビゲーションシステム装着車のみ

■ 使用するときは

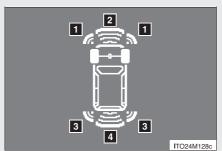
切りかえ方法：→P. 179

クリアランスソナーをONにすると [P表示灯] が点灯し、ブザー※2が鳴ります。

※2 “エンジン スタート ストップ”スイッチをイグニッション ON モードにした直後は、ブザーが鳴らない場合があります。

＊：車両型式で異なる装備やオプション装備

■ マルチインフォメーションディスプレイの表示

ITO24M128c

1 フロントコーナーセンサー作動表示

2 フロントセンサー作動表示

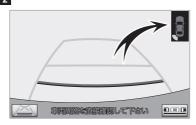
3 リヤコーナーセンサー作動表示

4 バックセンサー作動表示

■ モニター画面の表示
（メーカーオプションのナビゲーションシステム装着車）

障害物を感知すると自動的に表示されます。

1

2

ITO24C094

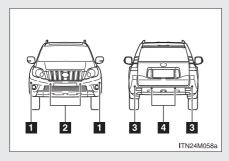
1 バックガイドモニター・ワイドビューフロント＆サイドモニター非表示時

表示されないように設定することができます。（→P. 221）

2 バックガイドモニター・ワイドビューフロント＆サイドモニター・マルチテレインモニター※表示時

画面上に簡略表示されます。
（左の画面はバックガイドモニターの場合です）

※装着車のみ

■ センサーの位置・種類

1 フロントコーナーセンサー

2 フロントセンサー

3 リヤコーナーセンサー

4 バックセンサー

距離表示の見方

クリアランスソナー＆バックソナーが作動したとき、障害物と車両とのおおよその距離をマルチインフォメーションディスプレイ・モニター画面※の表示でお知らせします。

■ コーナーセンサー

障害物までのおおよその距離	マルチインフォメーションディスプレイ	モニター画面※	
			割り込み表示
フロント：約 60 ～ 47.5 cm リヤ：約 55 ～ 37.5 cm	（点灯）	（点灯）	（点滅）
フロント：約 47.5 ～ 35 cm リヤ：約 37.5 ～ 25 cm	（点灯）	（点灯）	（速い点滅）
フロント：約 35 cm 以下 リヤ：約 25 cm 以下	（点滅）	（点灯）	（点灯）

※メーカーオプションのナビゲーションシステム装着車のみ

■ フロントセンサー・バックセンサー

障害物までのおおよその距離	マルチインフォメーションディスプレイ	モニター画面※（割り込み表示）
フロントセンサー：約 100 ～ 50cm バックセンサー：約 150 ～ 65cm	（点灯）	（遅い点滅）
フロントセンサー：約 50 ～ 37.5cm バックセンサー：約 65 ～ 50cm	（点灯）	（点滅）
フロントセンサー：約 37.5 ～ 30cm バックセンサー：約 50 ～ 40cm	（点灯）	（速い点滅）
フロントセンサー：約 30cm 以下 バックセンサー：約 40cm 以下	（点滅）	（点灯）

※メーカーオプションのナビゲーションシステム装着車のみ

音声案内とブザー音

障害物を感知すると、ブザーが鳴ります。

メーカーオプションのナビゲーションシステム装着車は、ブザー音と同時に音声案内を行います。

■ フロント側またはリヤ側のみで障害物を感知しているとき

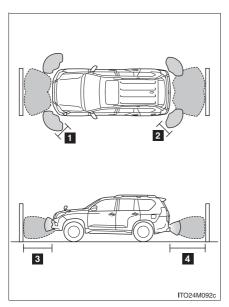
- 障害物との距離が近付くと、ブザーの断続時間が短くなります。障害物との距離が次のとき、ブザーは断続音「ピピピ」から連続音「ピー」になります。
  - ・ フロントセンサーが感知した障害物との距離が約 30cm 以下
  - ・ フロントコーナーセンサーが感知した障害物との距離が約 35cm 以下
  - ・ バックセンサーが感知した障害物との距離が約 40cm 以下
  - ・ リヤコーナーセンサーが感知した障害物との距離が約 25cm 以下
- 複数のセンサーが同時に障害物を感知しているときは、もっとも近い障害物との距離に合わせたブザー音が鳴ります。

■ 障害物を車両の前後で同時に感知したとき

- フロント側、またはリヤ側で障害物を感知してブザーが連続で鳴っているとき、反対の側（フロントまたはリヤ）で新たに障害物を感知すると、ブザー音は「ピピピピピピピ　ピー」をくり返します。
- フロント側、またはリヤ側で障害物を感知してブザーが連続で鳴っているとき、反対の側（フロントまたはリヤ）でもブザーが連続で鳴る範囲内に障害物を感知すると、ブザー音は「ピピピ　ピー」をくり返します。

ブザーの音量と鳴るタイミングを変更することができます。

- メーカーオプションのナビゲーションシステム装着車：→P. 221
- メーカーオプションのナビゲーションシステム非装着車：→P. 413

障害物を感知できる範囲

1 約 60cm

2 約 55cm

3 約 100cm

4 約 150cm

感知できる範囲は左図のとおりです。ただし、障害物がセンサーに近付きすぎると感知できません。

障害物の形状・条件によっては、感知できる距離が短くなることや、感知できないことがあります。

音声案内・モニター画面表示・ブザーの設定（メーカーオプションのナビゲーションシステム装着車のみ）

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチがイグニッション ON モードのとき、クリアランスソナーの設定をすることができます。

手順 1 画面外の **設定・編集** を押す

手順 2 画面内の **運転支援** にタッチする

手順 3 画面内の **クリアランスソナー設定** にタッチする

■ ブザー音量設定

設定したい音量にタッチする

ブザー音量を調整することができます。

■ 画面表示の ON・OFF（ソナー表示）

画面内の **ソナー表示なし** にタッチする

- タッチするごとに、「表示される」と「表示されない」が切りかわります。
- 「表示されない」にすると、タッチスイッチの作動表示灯が点灯します。

障害物が感知されたとき、自動的にクリアランスソナー画面が表示されるかどうか設定することができます。

■ 画面表示・ブザータイミング

画面内の **切替え** にタッチする

- フロントセンサー：
  タッチするごとに、感知範囲が「遠」（緑色、約 100cm 以内）と「近」（黄色、約 50cm 以内）に切りかわります。
- バックセンサー：
  タッチするごとに、感知範囲が「遠」（緑色、約 150cm 以内）と「近」（黄色、約 65cm 以内）に切りかわります。

フロントセンサー・バックセンサーの割り込み表示が表示される感知範囲と、ブザーが出力される感知範囲を調整することができます。

知識

■作動条件

●フロントコーナーセンサー：

・“ エンジン スタート ストップ ”スイッチがイグニッション ON モードのとき
・シフトレバーが P 以外にあるとき
・車両の速度が約 10km/h 以下のとき

●フロントセンサー：

・“ エンジン スタート ストップ ”スイッチがイグニッション ON モードのとき
・シフトレバーが P・R 以外にあるとき
・車両の速度が約 10km/h 以下のとき

●リヤコーナーセンサー・バックセンサー：

・“ エンジン スタート ストップ ”スイッチがイグニッション ON モードのとき
・シフトレバーが R にあるとき

■クリアランスソナー&バックソナーに異常があるときは

マルチインフォメーションディスプレイに異常を知らせる表示が出ます。(→P. 360)

警告

■クリアランスソナー&バックソナーをお使いになる前に

必ず次のことをお守りください。
お守りいただかないと、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●車両の速度が約 10km/h をこえないようにしてください。

●センサーの感知範囲、作動速度には限界があります。車を前進・後退するときは、必ず車両周辺（特に車両側面など）の安全を確認し、ブレーキで車速を十分に制御し、ゆっくり運転してください。

●センサーが感知する範囲にはアクセサリー用品などを取り付けないでください。

警告

■**センサーについて**

次のとき、クリアランスソナー＆バックソナーが正常に作動しないことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。注意して運転してください。

- センサーに氷・雪・泥などが付着したとき（取り除けば、正常に復帰します）
- センサー部が凍結したとき（解ければ、正常に復帰します）
  特に低温時には凍結などにより異常表示が出たり、障害物があっても感知しないことがあります。
- センサーを手などで覆ったとき
- 炎天下や寒冷時
- 凸凹道・坂道・砂利道・草むら走行時など
- 他車のホーン・オートバイのエンジン音・大型車のエアブレーキ音・他車のクリアランスソナーなどの超音波を発生するものが近付いたとき
- どしゃぶりの雨や水しぶきがかかったとき
- 車両姿勢が大きく傾いたとき
- 市販のフェンダーポール、無線機アンテナを車に付けたとき
- 背の高い縁石や直角の縁石に向かって進んだとき
- 標識などのものによっては感知距離が短くなります。
- バンパー真下付近は感知しません。
  センサーより低いものや細い杭などは、一度感知しても接近すると突然感知しなくなることがあります。
- センサーに障害物が近付きすぎたとき
- バンパーやセンサー部付近にものをぶつけたときや、たたくなどの強い衝撃を与えたとき
- トヨタ純正品以外のサスペンションを取り付けたとき

障害物の形状・条件によっては感知できる範囲が短くなることや、感知できないことがあります。

⚠警告

■正確に感知できないことがある障害物

次のようなものは感知しないことがあります。注意して運転してください。

- ●針金・フェンス・ロープなどの細いもの
- ●綿・雪などの音波を吸収しやすいもの
- ●鋭角的な形のもの
- ●背の低いもの
- ●背が高く上部が張り出しているもの

特に人は衣類の種類によっても検知できない場合がありますので、常に目視で確認してください。

⚠注意

■洗車時の注意

高圧洗車機を使用して洗車するときは、センサー部に直接水をあてないでください。強い水圧により衝撃が加わり、正常に作動しなくなるおそれがあります。

運転を補助する装置

走行の安全性や運転性能を高めるため、走行状況に応じて次の装置が自動で作動します。ただし、これらの装置は補助的なものなので、過信せずに運転には十分に注意してください。

■ ABS（アンチロックブレーキシステム）

急ブレーキ時やすべりやすい路面でのブレーキ時にタイヤのロックを防ぎ、スリップを抑制します。

■ マルチテレイン ABS（アンチロックブレーキシステム）※1

→ 別冊「オフロード走行取扱書」

■ ブレーキアシスト

急ブレーキ時などに、より大きなブレーキ力を発生させます。

■ VSC（ビークルスタビリティコントロール）

急なハンドル操作や、すべりやすい路面で旋回するときに横すべりを抑え、車両の姿勢維持に寄与します。

■ TRC（トラクションコントロール）※2

すべりやすい路面での発進時や加速時にタイヤの空転を抑え、駆動力を確保します。

■ アクティブ TRC（トラクションコントロール）※3

→ 別冊「オフロード走行取扱書」

■ ヒルスタートアシストコントロール*

→ 別冊「オフロード走行取扱書」

■ KDSS（キネティックダイナミックサスペンションシステム）*

→ 別冊「オフロード走行取扱書」

※1 マルチテレインセレクト装着車のみ

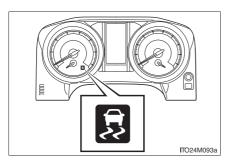
※2 1GR-FE エンジン搭載車は、トランスファースイッチが H4 のとき

※3 1GR-FE エンジン搭載車で、トランスファースイッチが L4 のとき
ただし、マルチテレインセレクト装着車は、マルチテレインセレクトが ON のときのみ作動します。

*：車両型式で異なる装備やオプション装備

■ PCS（プリクラッシュセーフティシステム）*

→P. 232

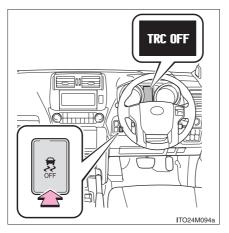
TRC・VSC が作動しているとき

車両が横すべりしそうになったとき、前後輪が空転したときは、VSC・TRC の作動を表示するために、スリップ表示灯が点滅します。

VSC の作動時、ブザー（断続音）が鳴ります。

*：車両型式で異なる装備やオプション装備

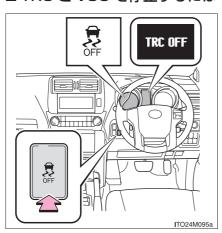
TRC や VSC を停止するには

ぬかるみや新雪などから脱出するときに、TRC や VSC が作動していると、アクセルペダルを踏み込んでもエンジンの出力が上がらず、脱出が困難な場合があります。このようなときに VSC OFF スイッチを押すことにより、脱出しやすくなります。

■ TRC を停止するには

TRC を停止するには VSC OFF スイッチを押す

マルチインフォメーションディスプレイに「TRC OFF」と表示されます。

もう一度スイッチを押すと、システム作動可能状態にもどります。

■ TRC と VSC を停止するには

TRC と VSC を停止するには、停車時に VSC OFF スイッチを押し 3 秒以上保持する

VSC OFF 表示灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに「TRC OFF」と表示されます。

もう一度スイッチを押すと、システム作動可能状態にもどります。

知識

■TRC や VSC の自動復帰について

TRC や VSC を作動停止にしたあと、エンジンを停止すると自動的に TRC と VSC は作動可能状態にもどります。

■TRC OFF の作動制限

TRC のみ作動を停止している場合は、車速が高くなると TRC は作動を再開します。ただし、TRC と VSC の作動を停止している場合は、車速による作動再開はありません。

■TRC が長時間作動すると（1GR-FE エンジン搭載車）

ブレーキシステムが異常過熱するおそれがあるため、ブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに「TRC OFF」と表示され、機能が自動的に作動停止します。（通常走行は可能です）
しばらくして、マルチインフォメーションディスプレイの表示が消えれば TRC が作動可能になります。

■スリップ表示灯が点灯しているときは

VSC・TRC のいずれかのシステムに異常があります。
トヨタ販売店で点検を受けてください。

■ABS・ブレーキアシスト・VSC・TRC の作動音と振動

●エンジン始動時や発進直後、ブレーキをくり返し踏んだときに、エンジンルームから作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

●上記のシステムが作動すると、次のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。

・車体やハンドルに振動を感じる
・車両停止後もモーター音が聞こえる
・ABS の作動時に、ブレーキペダルが小刻みに動く
・ABS の作動終了後、ブレーキペダルが少し奥に入る

警告

■ABS の効果を発揮できないとき

●タイヤのグリップ性能の限界をこえたとき(雪に覆われた路面を過剰に摩耗したタイヤで走行するときなど)

●雨でぬれた路面やすべりやすい路面での高速走行時に、ハイドロプレーニング現象が発生したとき

■ABS が作動することで、制動距離が通常よりも長くなるとき

ABS は制動距離を短くする装置ではありません。次の状況では、常に速度を控えめにして前車と安全な車間距離をとってください。

●泥・砂利の道路や積雪路を走行しているとき

●タイヤチェーンを装着しているとき

●道路のつなぎ目など、段差をこえたとき

●凹凸のある路面や石だたみなどの悪路を走行しているとき

警告

■TRC の効果を発揮できないとき

すべりやすい路面では、TRC が作動していても、車両の方向安定性や駆動力が得られないことがあります。車両の方向安定性や駆動力を失うような状況では、特に慎重に運転してください。

■TRC や VSC を OFF にするときは

TRC や VSC は駆動力や車両の方向安定性を確保しようとするシステムです。そのため、必要なとき以外は TRC・VSC を作動停止状態にしないでください。TRC や VSC を作動停止状態にしたときは、路面状況に応じた速度で、特に慎重な運転を心がけてください。

■スリップ表示灯が点滅し、作動警告ブザーが鳴っているときは

VSC が作動中であることを知らせています。常に安全運転を心がけてください。無謀な運転は思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。表示灯が点滅し、ブザーが鳴ったら特に慎重に運転してください。

警告

■**タイヤを交換するときは**

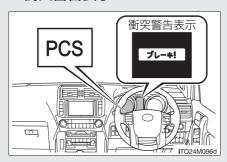
4 輪とも指定されたサイズで、同じメーカー・ブランド・トレッドパターン（溝模様）のタイヤを使用し、推奨された空気圧にしてください。(→P. 410)
異なったタイヤを装着すると、ABS・VSC が正常に作動しません。
タイヤ、またはホイールを交換するときは、トヨタ販売店に相談してください。

■**タイヤとサスペンションの取り扱い**

問題があるタイヤを使用したり、サスペンションを改造したりすると、運転を補助するシステムに悪影響をおよぼし、システムの故障につながるおそれがあります。

PCS（プリクラッシュセーフティシステム）＊

レーダーセンサーにより、前方の車両や障害物との衝突が予測されたときに、警報により運転者に対して回避操作をうながし、衝突の防止に役立ちます。前方の障害物と衝突の可能性が高い、または前方の障害物と衝突が避けられないと検知したとき、自動的にシートベルトやブレーキなどに働きかけ、乗員のけがや車両損傷の低減に寄与します。

■ 衝突警告表示

衝突の可能性が高いと検知したとき、“ピピピ…”とブザー音が鳴り、PCS 警告灯が点滅、マルチインフォメーションディスプレイに衝突警告表示を出し、回避操作をうながします。

■ プリクラッシュシートベルト

プリクラッシュセンサーにより衝突物が検知され、衝突が避けられないと判断したとき、衝突前にシートベルトを巻き取ります。
また、急ブレーキをかけたときや、車がコントロールを失ったときも同様に作動します。（→P. 85）
ただし、VSC システムが作動していないときに、横すべりした場合は作動しません。

■ プリクラッシュブレーキアシスト

衝突の可能性が高いときには、ブレーキペダルが踏まれる強さに反応してブレーキ力を増強します。

＊：車両型式で異なる装備やオプション装備

■ プリクラッシュブレーキ

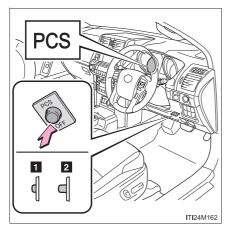
前方の車両や障害物との衝突の可能性が高いときに警告灯・警告表示・ブザー音で警報を行い、さらに衝突が避けられないと判断したときは、ブレーキが自動でかかり、衝突速度を低減します。スイッチ操作で、プリクラッシュブレーキの ON ／ OFF 切りかえができます。

■ サスペンションコントロール*

衝突の可能性が高いと判断したとき、サスペンションの減衰力を制御して、急ブレーキ時に車両前部が沈み込むことの抑制に貢献します。

*：車両型式で異なる装備やオプション装備

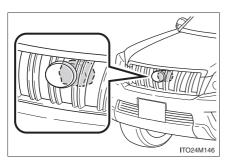
プリクラッシュブレーキの切りかえ

ITI24M162

1 プリクラッシュブレーキ OFF

2 プリクラッシュブレーキ ON

OFFにするとPCS警告灯が点灯します。

レーダーセンサー

ITO24M146

走行中に進路上またはその付近に車や障害物があるかどうかを検知し、その位置や速度・進路から衝突するおそれがあるかどうか判断します。

知識

■システムの作動条件（プリクラッシュシートベルトを除く）

●プリクラッシュブレーキアシストの作動条件

・車速が約 30 km/h 以上
・自車から見た前方の車両や障害物の接近速度が約 30 ～ 40 km/h 以上
・ブレーキペダルが踏まれているとき

●プリクラッシュブレーキの作動条件

・プリクラッシュブレーキ OFF スイッチが押されていないとき
・自車速度が約 15 km/h 以上
・自車から見た前方の車両や障害物との接近速度が約 15 km/h 以上

●サスペンションコントロール*の作動条件

・自車速度が約 5km/h 以上
・自車から見た前方の車両や障害物との接近速度が約 30 ～ 40km/h 以上

■プリクラッシュシートベルトの作動条件

プリクラッシュシートベルトは、次のどちらかの条件で作動します。

●作動条件 1

・フロント席の乗員がシートベルトを着けている
・車速が約 30km/h 以上
・急ブレーキ時や車両がコントロール不能となったとき

●作動条件 2

・フロント席の乗員がシートベルトを着けている
・車速が約 5km/h 以上
・自車から見た前方の車両や障害物の接近速度が約 30 ～約 40 km/h 以上

*：車両型式で異なる装備やオプション装備

■衝突の可能性がなくてもシステムが作動するとき

衝突の可能性がなくても、次の場合、システムが作動することがあります。

- ●カーブ入り口の道路脇に障害物があったとき
- ●カーブで対向車とすれ違ったとき
- ●狭い鉄橋を走行したとき
- ●路面に金属物があったとき
- ●凹凸のある路面を走行したとき
- ●右折時に対向車とすれ違ったとき
- ●前を走っている車に急に近付いたとき
- ●ETC ゲートを高速で通過したとき
- ●立体交差・標識・看板などが進行方向に見えたとき
- ●車両姿勢が極端に変化しているとき
- ●レーダーの軸がずれているとき
- ●上り坂走行中に看板などの上方金属物が前方に見えたとき
- ●陸橋を通過するとき

また、このとき、シートベルトがすばやく引きもどされたり、ブレーキをかけたときに通常よりブレーキが強くかかったりすることがあります。シートベルトが巻き取られた状態でロックした場合は車を安全な場所に停止してシートベルトをはずし、再度装着してください。

■センサーが検知しない場合

パイロンなどのプラスチック類は検知できません。人や動物・二輪車・木・雪の吹きだまりなどは検知しない場合があります。

■システムの作動しない環境

プリクラッシュセーフティシステムは、想定されていない状況では有効に作動しない場合があります。

●きついカーブや起伏がある場所

●交差点などで、自車の進行方向に急な飛び出しがある状況

●自車の進行方向に車の急な割り込みがある状況

●雨・霧・雪・砂嵐等の悪天候の状況

●VSC システムが作動していないときに、車が横すべりしている状態

●車両姿勢が極端に変化しているとき

●レーダーの軸がずれているとき

■システムの自動解除

システムの異常が検知された場合やセンサーが障害物を検知できない状況（センサーの汚れなど）ではシステムの動作が自動的に解除されます。このような場合には衝突の可能性があってもシステムは有効に作動しません。

■システムに異常があるときは

警告灯や警告表示が点灯または点滅します。(→P. 355, 360)

警告

■**安全にお使いいただくために**

安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
プリクラッシュセーフティシステムは運転者が衝突の危険を見逃してしまった場合に、警報やブレーキ制御により運転者を支援するものです。本システムだけで衝突を回避したり、安全に停止するというものではないため、システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。また、状況によっては有効に機能しないことがあります。

■**レーダーセンサーの取り扱い**

プリクラッシュセーフティシステムが効果を発揮できるように次のことをお守りください。

●センサーとグリルは常にきれいにしておく
お手入れをする際は、センサーやグリルを傷付けないよう、やわらかい布を使ってください。

●センサー周辺への強い衝撃を避ける
センサーの位置がずれると、システムに誤作動または異常が起こるおそれがあります。センサー、またはその周辺に強い衝撃を受けた際は、必ずトヨタ販売店にて点検を受け、調整してください。

●センサーを分解しない

●センサーは電波法の基準に適合しています。センサーに貼り付けられているラベルはその証明ですのではがさないでください。また、センサーを分解・改造すると罰せられることがあります。

●センサーやグリルカバー周辺にアクセサリーを付けたり、ステッカーを貼ったりしない

●センサーやグリルを改造したり塗装したりしない

警告

■システムの支援内容に関する注意点

プリクラッシュセーフティシステムは、警報やブレーキ制御により衝突回避支援を行うために、運転者が「見る」・「判断する」・「操作する」過程で、支援を行います。システムの支援には限界があるため、次の点に注意してください。

- 運転者が見る過程での支援内容
  プリクラッシュセーフティシステムは、前方の障害物を可能な範囲で検知するのみであり、わき見やぼんやり運転を許容するシステムでも、視界不良時の運転を補助するシステムでもありません。運転者自らが周囲の状況に注意を払う必要があります。
- 運転者が判断する過程での支援内容
  プリクラッシュセーフティシステムは、検知しうる前方の障害物の情報のみから衝突の危険性を判断するものです。安全の確保の判断は運転者自らが行う必要があります。
- 運転者が操作する過程での支援内容
  被害軽減制動制御は、衝突が避けられないと判断した段階で作動するもので、単独で衝突を回避したり、安全に停止させるものではありません。このため、危険性があれば運転者自らが安全を確保する必要があります。

荷物を積むときの注意

安全で快適なドライブをするために、荷物を積むときは次のことをお守りください。

- できるだけ荷物はラゲージルームに積む
- 荷物が安全な位置に置かれているか確認する
- 走行中のバランスを維持するために重さが偏らないように積む
- 燃費が悪化しないようにするために、不要な荷物は積まないようにする

⚠ 警告

■積んではいけないもの

次のようなものを積むと引火するおそれがあり危険です。

- 燃料が入った容器
- スプレー缶

■荷物を積むときは

次の警告をお守りください。お守りいただかないと、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- できるだけ荷物はラゲージルームに積んでください。
- 次の場所には荷物を積まないでください。
  お守りいただかないと、ブレーキペダル・アクセルペダルを正しく操作できなかったり、荷物が視界をさえぎったり、荷物が乗員に衝突したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
  - ・運転席足元
  - ・助手席やリヤ席（荷物を積み重ねる場合）
  - ・トノカバー（装着車のみ）
  - ・インストルメントパネル
  - ・ダッシュボード

警告

● 室内に積んだ荷物はすべてしっかりと安定させてください。
安定していないと、急ブレーキや事故の際に投げ出され、乗員を傷付けるおそれがあります。

● シート背もたれより高いものをラゲージルームに積まないでください。
急ブレーキや事故の際に、投げ出され、乗員を傷付けるおそれがあります。

● 後席のシート背もたれを折りたたんで、寸法が長い荷物を積むときは、できるだけ前席シート背もたれの真うしろには積まないでください。

● ラゲージルームに人を乗せないでください。乗員用には設計されていません。
乗員は、適切にシートベルトを着用させ、座席に座らせてください。
お守りいただかないと、急ブレーキや衝突の際に、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

● ルーフレールには直接荷物を置かないでください。荷くずれを起こしたりして思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。（ルーフレール装着車）

■ **荷物の重量・荷重のかけ方について**

● 荷物を積み過ぎないでください。

● 荷重を不均等にかけないようにしてください。
これはタイヤに負担をかけるだけでなく、ハンドル操作性やブレーキ制御の低下により思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

寒冷時の運転

寒冷時に備えて、準備や点検など正しく処置していただいた上で適切に運転してください。

■ 冬の前の準備

- 次のものはそれぞれ外気温に適したものをお使いください。
  - ・エンジンオイル
  - ・冷却水
  - ・ウォッシャー液
- バッテリーの液量・比重を点検してください。
- 冬用タイヤ（4 輪）やタイヤチェーン（後部タイヤ用）を用意してください。
  - ・タイヤは 4 輪とも同一サイズで同一銘柄のものを、タイヤチェーンはタイヤサイズに合ったものを用意してください。（タイヤについて：→P. 307）
  - ・タイヤチェーンは、必ずランドクルーザープラド指定のトヨタ純正品を使用してください。（→P. 245）

■ 運転する前に

状況に応じて次のことを行ってください。

- ドアやワイパーが凍結したときは無理に開けたり動かしたりせず、ぬるま湯をかけるなどして氷を解かし、すぐに水分を十分にふき取ってください。
- フロントウインドウガラス前の外気取り入れ口に雪が積もっているときは、エアコンのファンを正常に作動させるために、雪を取り除いてください。
- 足まわりに氷が付いているときは、氷を取り除いてください。
- フェンダー部分やブレーキ装置に雪や氷が付いているときは、取り除いてください。

■ 運転するときは

ゆっくりスタートし、速度を控えて走行してください。

■ 駐車するときは

パーキングブレーキをかけると、ブレーキ装置が凍結して解除できなくなるおそれがあります。パーキングブレーキはかけずに、シフトレバーを P に入れて駐車し、輪止め※をしてください。

※輪止めは、トヨタ販売店で購入することができます。

知識

■寒冷地用ワイパーブレードについて

●降雪期に使用する寒冷地用ワイパーブレードは、雪が付着するのを防ぐために金属部分をゴムで覆ってあります。トヨタ販売店で各車指定のブレードをお求めください。

●高速走行時は、通常のワイパーブレードよりガラスがふき取りにくくなることがあります。その場合には速度を落としてください。

■タイヤチェーンについて

取り付け・取りはずし・取り扱い方法については、次の指示に従ってください。

●安全に作業できる場所で行う

●後２輪に取り付ける

●タイヤチェーンに付属の取り扱い説明書に従う

●取り付け後 0.5 ～ 1.0 km 走行したら締め直しを行う

■リヤハイトコントロールエアサスペンション※装着車は

寒冷時は、リヤハイトコントロールエアサスペンションの作動に制限がかかる場合があります。

※リヤハイトコントロールエアサスペンションについては、別冊「オフロード走行取扱書」を参照してください。

警告

■**冬用タイヤ装着時の警告**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 指定サイズのタイヤを使用する
  - ・KDSS 非装着車：265/65R17 112S
  - ・KDSS 装着車：265/60R18 110H
- 空気圧を推奨値に調整する
- 装着する冬用タイヤの最高許容速度や制限速度をこえる速度で走行しない
- 冬用タイヤを装着する際は、必ず 4 輪とも装着する

■**タイヤチェーン装着時の警告**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、安全に車を運転することができずに、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 装着したチェーンに定められた制限速度、もしくは 30 km/h のどちらか低い方をこえる速度で走行しない
- 路面の凹凸や穴を避ける
- 急ハンドル・急ブレーキを避ける
- カーブの入り口手前で十分減速して車のコントロールを失うのを防ぐ

■**駐車時の警告**

パーキングブレーキをかけずに駐車するときは、必ず輪止めをしてください。
輪止めをしないと、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

■タイヤチェーンの使用について

●必ずランドクルーザープラド指定のトヨタ純正品を使用してください。
トヨタ純正品以外のタイヤチェーンを使用すると、車体にあたり、走行のさまたげとなるおそれがあります。
詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

●アルミホイールにタイヤチェーンを取り付けると、ホイールに傷が付くことがあります。

■フロントウインドウガラスに付いた氷を除去するときは

たたいて割らないでください。
ウインドウガラスの内側（車内側）が割れるおそれがあります。

室内装備の使い方 3

オートエアコン

設定温度に合わせて吹き出し口と風量を自動で調整します。

オートエアコンを使うには

を押す

吹き出し口と風量が自動で調整されます。

手順 2 運転席側の設定温度をかえるときは
を、助手席側の設定温度をかえるときは
をまわす

設定温度を上げるときは右に、下げるときは左にまわします。

を押す、または
を操作すると
の作動表示灯が点灯し、運転席側と助手席側の温度を独立して調整することができます。（独立モード）

運転席側と助手席側の設定温度を同じにする（連動モードにもどす）ときは、 DUAL を押して作動表示灯が消灯した状態にします。

お好みの設定で使うとき

■ 基本設定

手順 1 風量をかえるには、 の“∧”(増)側か“∨”(減)側 を押す

エアコン(冷房･除湿機能)が作動していないときは、

を押します。

送風を止めるときは

を押します。

手順 2 運転席側の設定温度をかえるときは

を、助手席側の設定温度をかえるときは

をまわす

設定温度を上げるときは右に、下げるときは左にまわします。

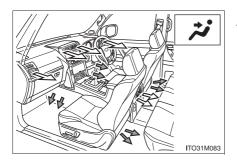
を押す、または

を操作すると

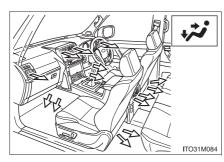
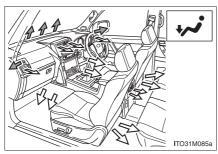
の作動表示灯が点灯し、運転席側と助手席側の温度を独立して調整することができます。(独立モード)

運転席側と助手席側の設定温度を同じにする（連動モードにもどす）ときは、を押して作動表示灯が消灯した状態にします。

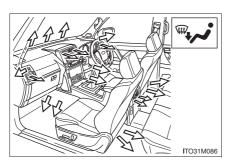
手順 3 吹き出し口を切りかえるには、を押す

押すたびに吹き出し口が切りかわります。選択した吹き出し口に従って次のように送風されます。

上半身に送風

⇦ ：AUTO モードのとき※1

※1 状況により送風されない場合もあります。

上半身と足元に送風

足元に送風

⇦ ：AUTO モードのとき※2

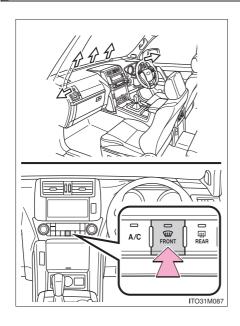
※2 状況により AUTO モード以外でも送風される場合があります。

足元に送風・ガラスの曇りを取る

■外気導入・内気循環を切りかえるには

[内気循環ボタン] を押す

ボタンを押すたびに外気導入・内気循環が切りかわります。
内気循環を選択しているときは、表示灯が点灯します。

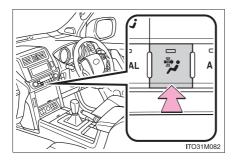
フロントガラスの曇りを取るには

ITO31M087

[FRONT] を押す

エアコンが作動します。

曇りが取れたら再度 [FRONT] を押すと、前のモードにもどります。

花粉除去機能を使うには

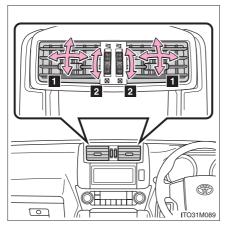
ITO31M082

 を押す

内気循環に切りかわり、上半身に送風して花粉を除去します。通常約 3 分後に を押す前のモードにもどります。

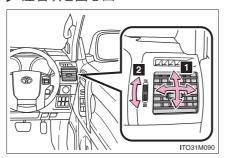
途中で動作を止めるときは、再度 を押すと前のモードにもどります。

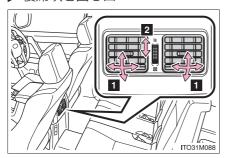
風向きの調整と吹き出し口の開閉

▶ 中央吹き出し口

ITO31M089

1 風向きの調整

2 吹き出し口の開閉

▶ 左右吹き出し口

1 風向きの調整
2 吹き出し口の開閉

▶ 後席吹き出し口

1 風向きの調整
2 吹き出し口の開閉

知識

■オート設定の作動について

風量は温度設定と外気の状態により自動で調整されます。
次のような制御をする場合があります。

- AUTO を押した直後、温風や冷風の準備ができるまでしばらく送風が停止する
- 暖房時、冷風を上半身に向けて送る

■内外気切りかえについて

設定温度や室内温度などにより、自動的に内気循環または外気導入へ切りかわる場合があります。

■内気循環について

内気循環を使うとガラスが曇る場合があります。

■ FRONT でフロントガラスの曇りを取るとき

外気温が低いときは、自動的に外気導入に切りかわります。

■吹き出し口を にしたとき

頭寒足熱を目的とした吹き出しのため、設定温度によっては、足元に送られる風が上半身に送られる風より暖められて送風されます。

■花粉除去モードについて

●外気温が低いときは、フロントガラスの曇りを防止するために次のような制御をする場合があります。

・内気循環に切りかわらない
・エアコンの電源が自動的に入る
・1 分後作動が停止する

●雨天時は窓が曇るため、 FRONT を押してください。

●湿度が非常に高いときに使うとガラスが曇る場合があります。

●花粉除去モードが OFF のときも花粉はフィルターで取り除かれています。

■外気温度が 0 ℃以下のとき

A/C を押してもエアコンが作動しない場合があります。

■ A/C の作動表示灯が点滅しているときは

A/C をいったん OFF にして、再度 ON にしてください。作動表示灯が点灯すれば使用できます。点滅したままの場合は、システムの異常が考えられますので、 A/C を OFF にして、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■温度調整を独立モードから連動モードにもどしたときは

運転席側と助手席側とで設定温度が異なる場合は、運転席側の設定温度になります。

■エアコンの臭いについて

- ●エアコン使用中に、車室内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。
- ●エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、駐車時は外気導入にしておくことをおすすめします。
- ●エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、オート設定での使用時にはエアコン始動直後、しばらく送風が停止する場合があります。

■カスタマイズ機能

オートでの使用時の作動内容を変更できます。
(カスタマイズ一覧：→P. 413)

警告

■フロントガラスの曇りを防止するために

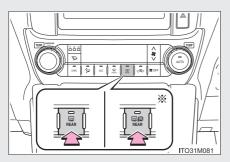
湿度が非常に高いときにエアコンを低い設定温度で作動させているときは、を押さないでください。外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り、視界をさまたげる場合があります。

注意

■バッテリーあがりを防ぐために

エンジン停止中は、エアコンを必要以上に使用しないでください。

リヤウインドウデフォッガー（曇り取り）

リヤウインドウの曇りを取るときや、ドアミラー※から雨滴や霜を取るときにご使用ください。

ON ／ OFF を切りかえる

リヤウインドウデフォッガーは、約15分で自動的にOFFになります。（外気温などの状況によっては、作動時間が長くなります）

※ ミラーヒーター装着車

知識

■作動条件

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチがイグニッション ON モードのとき

■ミラーヒーターについて（ミラーヒーター装着車）

リヤウインドウデフォッガーを ON にすると、ミラーヒーターも同時に作動します。

警告

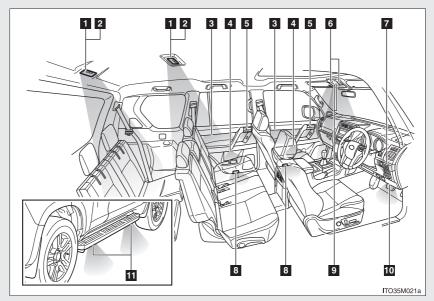
■ミラーヒーター作動中の警告（ミラーヒーター装着車）

ドアミラーの表面が非常に熱くなります。やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

注意

■バッテリーあがりを防ぐために

連続して長時間使用すると、バッテリーあがりの原因になります。

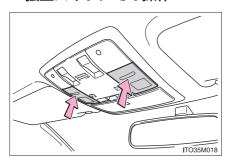
室内灯一覧

1 ルームライト*（→P. 260）
2 読書灯*（→P. 260）
3 オーナメント照明*※
4 ドアポケット照明*※
5 インサイドドアハンドル照明*※
6 フロントパーソナルライト（→P. 259）
7 “ エンジン スタート ストップ ”スイッチ照明
8 ドアカーテシ照明
9 シフト照明*（“ エンジン スタート ストップ ” スイッチがアクセサリーモードまたはイグニッション ON モード）
10 足元照明*※
11 ステップ照明*

※ラウンジ照明調光スイッチ（→P. 261）で、明るさを調整できます。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

フロントパーソナルライト

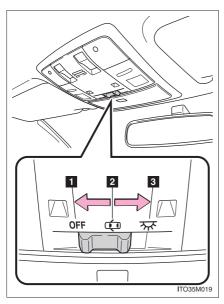
■ 独立スイッチでの操作

ITO35M018

ライトを点灯・消灯する

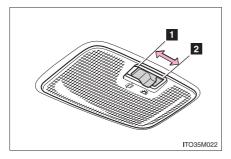
■ 連動スイッチでの操作

フロントパーソナルライトの連動スイッチを操作すると、ルームライト※1 または読書灯※2 も連動して作動します。

※1 ルームライトのスイッチがドアポジションのときに連動します。(→P. 260)
※2 読書灯のスイッチが OFF のときに連動します。(→P. 260)

ITO35M019

1 ライトを消灯する
2 ドアポジション（ドア連動）を ON にする
ドアを開けると点灯し、ドアを閉めると消灯します。
3 ライトを点灯する

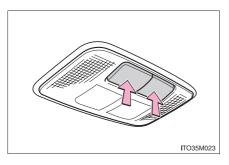
ルームライト*

ITO35M022

1 ドアポジション（ドア連動）をONにする

フロントパーソナルライトの連動スイッチに連動して作動します。
(→P. 259)

2 ライトを点灯する

読書灯*

ITO35M023

押すたびにスイッチのON／OFFが切りかわります。

- ON　:ライトを点灯する
- OFF :フロントパーソナルライトの連動スイッチに連動して作動する(→P. 259)

連動スイッチによって点灯しているときは、読書灯のスイッチで消灯することはできません。

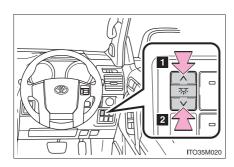
*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

ラウンジ照明調光スイッチ*

次の照明の明るさを調整することができます。

- オーナメント照明
- ドアポケット照明
- インサイドドアハンドル照明
- 足元照明

1 明るくする
2 暗くする

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

知識

■イルミネーテッドエントリーシステム

電子キーの検知・ドアの施錠／解錠・ドアの開閉・“ エンジン スタート ストップ ” スイッチのモードにより、各部の照明※が自動的に点灯・消灯します。

※フロントパーソナルライトとルームライトの両方共に、スイッチの位置がドアポジション（ ）のときに作動します。

■自動消灯機能

半ドア状態でフロントパーソナルライトスイッチ・ルームライトスイッチがドアポジション（ ）のときに、次の照明が点灯したままの場合、約 20 分後に自動消灯します。

- ●“ エンジン スタート ストップ ” スイッチ照明
- ●フロントパーソナルライト
- ●ルームライト*
- ●オーナメント照明*
- ●ドアポケット照明*
- ●インサイドドアハンドル照明*
- ●足元照明*
- ●ステップ照明*

■カスタマイズ機能

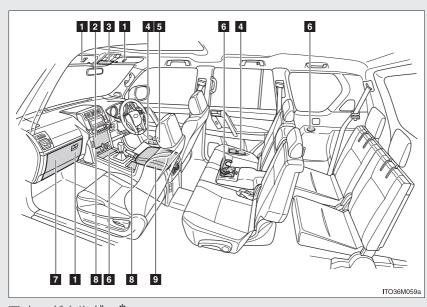
室内灯の消灯までの時間などの設定を変更できます。
（カスタマイズ一覧：→P. 413）

注意

■バッテリーあがりを防ぐために

エンジンが停止した状態で、長時間点灯しないでください。

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

収納装備一覧

1 カードホルダー*
2 センターボックス*
3 オーバーヘッドコンソールボックス（後席確認ミラー付き）
4 ボトルホルダー
5 ドアポケット
6 カップホルダー
7 グローブボックス
8 オープントレイ*
9 コンソールボックス（エアコン送風機能付き）*／クールボックス*

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

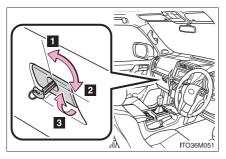
警告

■収納装備に放置してはいけないもの

メガネ、ライターやスプレー缶を収納装備内に放置したままにしないでください。放置したままでいると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。

- 室温が高くなったときの熱や、他の収納物との接触などにより、メガネが変形やひび割れを起こす
- 室温が高くなったときにライターやスプレー缶が爆発したり、他の収納物との接触でライターが着火したりスプレー缶のガスがもれるなどして火災につながる

グローブボックス

グローブボックスはレバーを引き上げて開いたり、メカニカルキーを使って施錠・解錠できます。

1 解錠

2 施錠

3 開ける（レバーを引き上げる）

知識

■グローブボックスライトについて

車幅灯が点灯しているとき、グローブボックスを開くとライトが点灯します。

■カードホルダー*

→P. 276

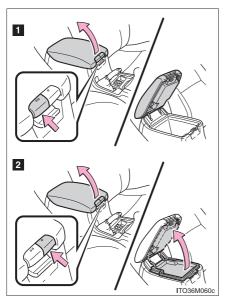
警告

■走行中の警告

グローブボックスを必ず閉じてください。
急ブレーキ時などに、開いたグローブボックスが体にあたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながりけがをするおそれがあります。

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

コンソールボックス（エアコン送風機能付き）*

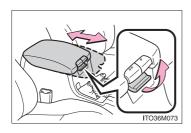
コンソールボックスには、保冷機能が付くタイプ（クールボックス）と付かないタイプがあります。
クールボックスについては、P. 288 を参照してください。

左右いずれかのノブを引き上げてロックを解除し、フタを持ち上げて開く

1 中間トレイごと開くとき

2 フタのみを開くとき

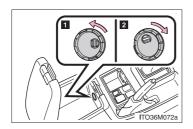
中間トレイは持ち上げて開くことができます。

知識

■コンソールボックスのフタをアームレストとして使うときは

レバーを引き上げ、フタを前後にスライドして位置を調整できます。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

■エアコン送風機能について

A/C（→P. 248）が ON のとき、エアコンの冷風をコンソールボックス内へ送風することができます。また、送風開閉ダイヤルで送風機能の ON ／ OFF 切りかえが可能です。

1 開ける
2 閉じる

■入れるものとして適さないもの

- フタがされていない容器に入ったもの
- 割れもの・腐るもの・臭いが強いもの
- 取扱書・車検証・電子機器・CD など

⚠ 警告

■走行中の警告

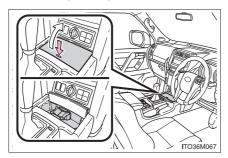
コンソールボックスのフタを必ず閉じてください。
急ブレーキ時などに、開いたフタが体にあたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながりけがをするおそれがあります。

⚠ 注意

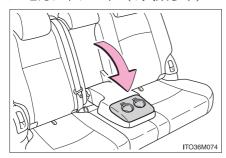
■中間トレイを使用するときは

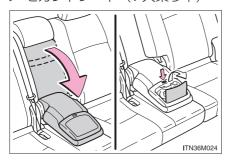
トレイの高さ以上にものを入れないでください。フタの開閉のさまたげとなるおそれがあります。

カップホルダー

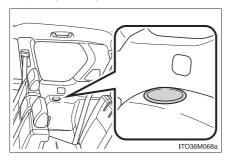
▶ フロントシート

フタの手前側を押して開ける

ホルダーは取りはずすことができます。（→P. 269）

▶ セカンドシート（5人乗り車）

セカンドシートアームレストを引き出す

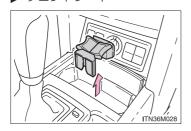
▶ セカンドシート（7人乗り車）

セカンドシートアームレストを引き出して、ボタンを押す

▶ サードシート*

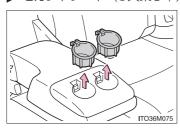
ITO36M068a

知識

■ホルダーを取りはずすには

▶ フロントシート

ITN36M028

ベース部分を持ってホルダーを引き上げます。

▶ セカンドシート（5人乗り車）

ITO36M075

ホルダーを引き上げます。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

警告

■収納してはいけないもの

カップホルダーにはカップや缶以外のものを置かないでください。
急ブレーキや事故により落ちてけがをするおそれがあります。やけどを防ぐために温かい飲み物にはフタを閉めておいてください。

■使わないときは

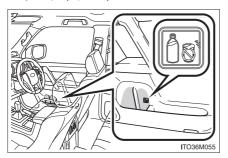
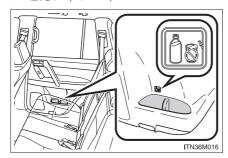
フタを必ず閉じてください。
急ブレーキ時などに、開いたカップホルダーが体にあたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながりけがをするおそれがあります。

注意

■カップホルダーの破損を防ぐために

- カップホルダーのフタに手をついたり、足で踏んだりしないでください。
- セカンドシートのカップホルダーを開いた状態で、アームレストを格納しないでください。（7人乗り車のみ）

ボトルホルダー

▶ フロントシート

▶ セカンドシート

知識

■ボトルホルダーについて

●ペットボトルのフタを必ず閉めてから収納してください。

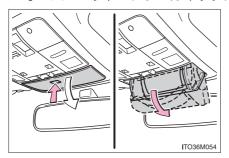
●ペットボトルの大きさ・形によっては収納できないことがあります。

注意

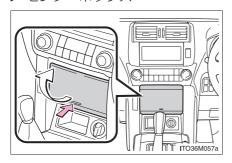
■収納してはいけないもの

ボトルホルダーには、ジュースなどが入っている紙コップ・ガラス製のコップなどを収納しないでください。ジュースなどがこぼれたり、ガラス製品が割れたりするおそれがあります。

小物入れ

▶ オーバーヘッドコンソールボックス

ボタンを押して、いっぱいまで開ける

サングラスなどの小物を一時的に収納するのに便利です。

▶ センターボックス*

フタの下側部分を押して開ける

知識

■後席確認ミラー（オーバーヘッドコンソールボックスのフタ側面）

→P. 279

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

警告

■**オーバーヘッドコンソールボックスについて**

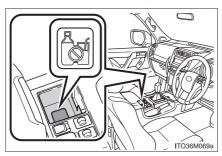
オーバーヘッドコンソールボックスに 200ｇ 以上のものを入れないでください。200ｇ 以上のものを入れるとフタが開き収納されているものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■**走行中の警告**

小物入れを必ず閉じてください。（後席確認ミラーの使用時を除く）
急ブレーキ時などに、開いたフタが体にあたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながりけがをするおそれがあります。

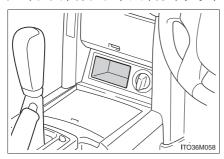
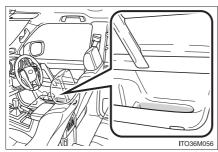
オープントレイ

▶ フロントコンソール前ポケット

ITO36M069a

▶ インストルメントパネルポケット（2TR-FE エンジン搭載車）

ITO36M058

▶ フロントドアポケット

ITO36M056

警告

■走行中の警告

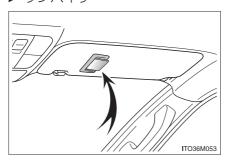
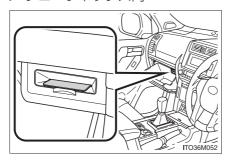
オープントレイには、転がりやすいものや、凹面からはみ出るようなものを置かないでください。
急ブレーキ時などに収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

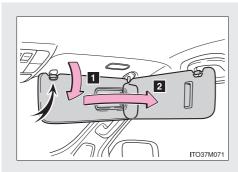
■収納してはいけないもの

フロントコンソール前ポケットには、ジュースなどが入っている紙コップ・ガラス製のコップなどを収納しないでください。
ジュースなどがこぼれたり、ガラス製品が割れたりするおそれがあります。

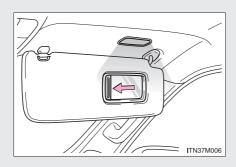
カードホルダー

▶ サンバイザー

▶ グローブボックス内*

使用するときは、レバーを引き上げてグローブボックスを開きます。(→P. 265)

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

サンバイザー

1 前方をさえぎるには、バイザーを下ろす

2 側方をさえぎるには、バイザーを下ろした状態でフックからはずし、横へまわす

バニティミラー

カバーをスライドして開ける

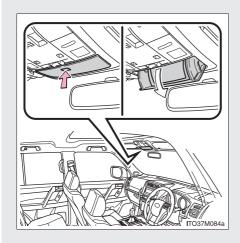
カバーを開けるとライトが点灯します。

注意

■バッテリーあがりを防ぐために

エンジンが停止した状態で、長時間ライトを点灯しないでください。

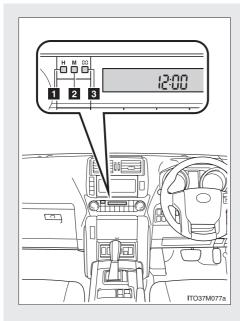
後席確認ミラー

車室内後方の状態を確認することができます。

ボタンを押して開ける

知識

■後席確認ミラーについて

後席確認ミラーをいっぱいまで引き出すと、サングラスなどの小物入れとして使用することができます。(→P. 272)

時計

1 “時” を調整する

2 “分” を調整する

3 “分” を 00 にする※

※（例） 1:00 ～ 1:29→1:00
1:30 ～ 1:59→2:00

知識

■時刻が表示されるとき

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチがアクセサリーモード、またはイグニッション ON モードのとき

■バッテリー端子の脱着をしたとき

バッテリー端子の脱着を行うと、時計のデータはリセットされます。

アクセサリーソケット・アクセサリーコンセント*

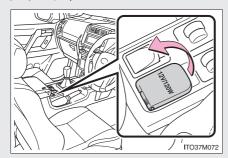
次の電気製品を使うときの電源としてお使いください。

アクセサリーソケット：
DC12V で最大電流 10A（最大消費電力 120W）以下の電気製品※

アクセサリーコンセント：
AC100V で最大消費電力 100W 以下の電気製品

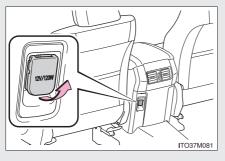
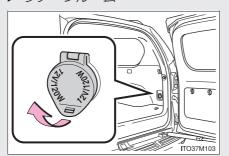
※ 電気製品の使用時は、車両に装着されているすべてのアクセサリーソケットの合計で、最大消費電力が 120W 以下になるようにしてください。

■ アクセサリーソケット

▶ フロント

フタの前側を引き上げて開ける

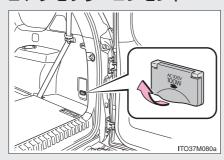
▶ リヤ

フタの下側を引き上げて開ける

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

▶ ラゲージルーム*

フタの下側を引き上げて開ける

■ アクセサリーコンセント

フタの下側を引き上げて開ける

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

知識

■使用条件

▶ アクセサリーソケット

“エンジン スタート ストップ”スイッチがアクセサリーモード、またはイグニッション ON モードのとき

▶ アクセサリーコンセント

“エンジン スタート ストップ”スイッチがイグニッション ON モードのとき

■アクセサリーソケットを使用するときは

接続する機器によっては、USB 接続端子*と同時に使用することができない場合があります。
USB 接続端子については、別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

⚠ **注意**

■ショートや故障を防ぐために

挿し込み口に異物が入ったり、飲料水などがかかったりしないように、使用しないときは、フタを閉めておいてください。

■ヒューズが切れるのを防ぐために

▶ アクセサリーソケット

DC12V で最大電流 10A（最大消費電力 120W）以上の電気製品を使用しないでください。

▶ アクセサリーコンセント

AC100V で最大消費電力 100W 以上の電気製品を使用しないでください。消費電力が 100W をこえる電気製品を使用すると、保護回路が作動して電源を遮断します。

■バッテリーあがりを防ぐために

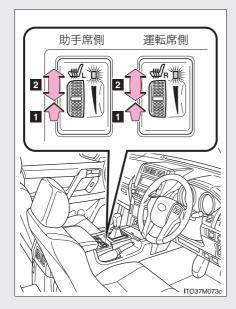
エンジンが停止した状態で、アクセサリーソケット・アクセサリーコンセントを長時間使用しないでください。

■正常に使用できないおそれのある電気製品（アクセサリーコンセント）

次のような AC100V の電気製品は、消費電力が 100W 以下の場合でも正常に作動しないおそれがあります。

- 起動時のピーク電力が高い電気製品
- 精密なデータを処理する計測機器
- 電源周波数の切りかえ（50 ／ 60Hz）のある機器
- 極めて安定した電力供給を必要とするその他の電気製品

シートヒーター＊

シートをあたためることができます。

1 ON

シートヒーターが ON のときは、作動表示灯が点灯します。

2 温度を調整する

ダイヤルを上にまわすほど高温になります。

知識

■作動条件

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチがイグニッション ON モードのとき

■使用しないときは

ダイヤルをいっぱいまで下にまわしてください。作動表示灯が消灯します。

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

警告

■やけどについて

●低温やけどを負うおそれがあるため、次の方は特に注意してください。

・乳幼児・お子さま・お年寄り・病人・体の不自由な方
・皮膚の弱い方
・疲労の激しい方
・深酒や眠気をさそう薬（睡眠薬・風邪薬など）を服用された方

●シートに毛布・クッションなどを使用しないでください。
シートヒーターの使用により保温性が高まり異常過熱の原因になります。

●シートヒーターを必要以上に使用しないでください。
低温やけどを負ったり､シートヒーターの異常過熱の原因になるおそれがあります。

注意

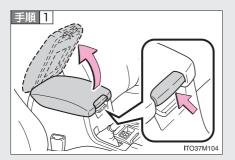
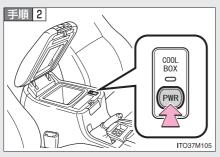
■シートヒーターの故障を防ぐために

凹凸のある重量物をシートの上に置いたり、針金や針などの鋭利なものを突き刺したりしないでください。

■バッテリーあがりを防止するために

エンジンが停止しているときはスイッチを OFF にしてください。

クールボックス*

エアコンを利用して、収納物を保冷することができます。

ノブを引き上げてロックを解除し、フタを持ち上げて開く

ON ／ OFF を切りかえる

クールボックスが ON のときは、作動表示灯が点灯します。

知識

■作動条件

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチがイグニッション ON モードのとき (ただし、エンジン回転中でないと保冷機能は働きません)

■クールボックスを ON にすると

- 連動してエアコンが作動します。なお、エアコンを停止した状態でクールボックスを使用することはできません。
- エアコンの冷房性能がわずかに低下します。不要の際は、クールボックスを OFF にしてください。

＊: 車両型式などで異なる装備やオプション装備

■クールボックスのフタをアームレストとして使うときは

ITO37M106

レバーを引き上げ、フタを前後にスライドして位置を調整できます。

■作動表示灯が点滅したときは

次の場合、クールボックスの作動表示灯が点滅します。このときは、クールボックスを使用することができません。

●クールボックスを ON にしたあとで [A/C] (→P. 248) を OFF にしたとき

その場合は [A/C] を ON にしてください。

●外気温が約 0 ℃以下のとき

● [A/C] の作動表示灯が点滅しているとき

その場合は [A/C] をいったん OFF にして、再度 ON にしてください。作動表示灯が点灯すれば使用できます。

上記の処置を行っても作動表示灯が点滅したままの場合は、システムの異常が考えられますので、クールボックスのスイッチと [A/C] を OFF にして、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■クールボックスに入れるものとして適さないもの

●フタがされていない容器に入ったもの

●割れもの・腐るもの・臭いが強いもの

●取扱書・車検証・電子機器・CD など

■クールボックス内を清掃するときは

水を少し含ませた布などで、汚れをふき取ってください。ボックス内に直接水をかけると、故障の原因になります。

警告

■走行中の警告

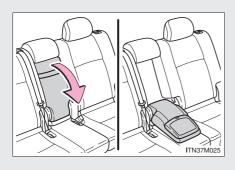
クールボックスを開けたままにしないでください。
急ブレーキ時などに、開いたフタが体にあたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながりけがをするおそれがあります。

注意

■バッテリーあがりを防ぐために

エンジンが停止した状態で、クールボックスを長時間使用しないでください。

アームレスト（セカンドシート）

ITN37M025

手前に倒して使用します。

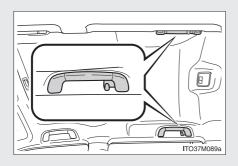
アームレストは、車種により形状が異なります。

注意

■アームレストの破損を防ぐために

過度の負荷をかけないでください。

アシストグリップ＆コートフック

リヤドアの上にあるアシストグリップには、コートフックが付いています。

⚠ 警告

■コートフックへかけてはいけないもの

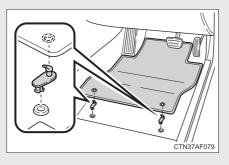
ハンガーや他の硬いもの、鋭利なものをかけないでください。
SRS カーテンシールドエアバッグがふくらんだときにそれらのものが飛び、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

■破損を防ぐために

過度の負荷をかけないでください。

フロアマット

お車（年式）専用のものを、フロアカーペットの上にしっかりと固定してお使いください。

フロアマット付属の固定フック（クリップ）を使用して固定してください。

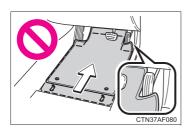
固定フック（クリップ）の形状およびフロアマットの固定方法はイラストと異なる場合があります。詳しい固定方法はフロアマット付属の取扱書をご確認ください。

⚠ 警告

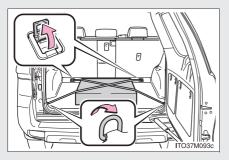
次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、フロアマットがずれて運転中に各ペダルと干渉し、思わぬスピードが出たり車を停止しにくくなるなど、重大な事故につながるおそれがあります。

■運転席にフロアマットを敷くときは

- トヨタ純正品であっても、他車種および異なる年式のフロアマットは使用しない
- 運転席専用のフロアマットを使用する
- 付属のフック（クリップ）を使って、常にしっかりと固定する
- 他のフロアマット類と重ねて使用しない
- フロアマットを前後逆さまにしたり、裏返して使用しない

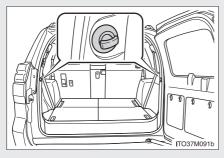
■運転する前に

- フロアマットがすべての固定フック（クリップ）で正しい位置にしっかりと固定されていることを定期的に確認し、特に洗車後は必ず確認を行う
- エンジン停止およびシフトレバーが P の状態で、各ペダルを奥まで踏み込み、フロアマットと干渉しないことを確認する

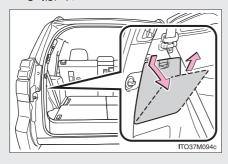
ラゲージルーム内装備

■ デッキフック*

フックを起こして使用してください。

フックを使って荷物を固定することができます。

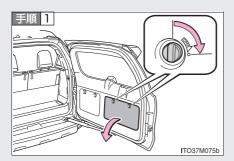
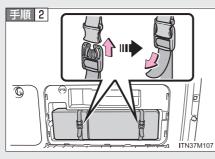
デッキフックの装着位置・形状は車種により異なります。

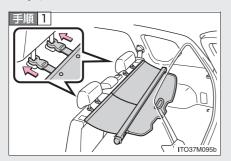
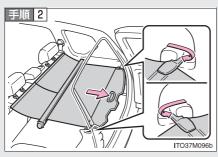
■ ネットフック

積荷ネットなどをかけるフックです。

■ 小物入れ*

ツメを押しながらフタを手前に開き、取りはずす

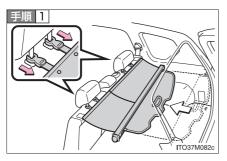
*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

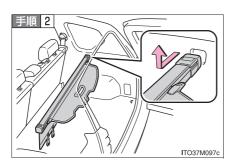
■ 三角表示板等収納スペース

市販の三角表示板などを収納することができます。

ダイヤルをOPEN側にまわしてロックをはずし、カバーを手前に開く

三角表示板を収納し、ベルトで固定する

■ トノカバー＊

サブカバーのクリップをセカンドシートヘッドレストに取り付ける

カバー部を手前に引き、左右のホルダーに取り付ける

トノカバーを取りはずすときは（トノカバー装着車）

トノカバーは次の手順で取りはずすことができます。

サブカバーのクリップをはずし、ホルダーからカバー部をはずして巻き取らせる

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

トノカバー本体の両端を内側に押し込んで、ホルダーから取りはずす

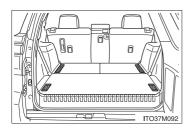
取りはずしたあとは、車から降ろして保管してください。

手順 3 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

知識

■三角表示板の収納について

三角表示板のケースの大きさや形状によっては、収納できない場合があります。

■ラゲージレールについて*

ラゲージルームにあるレールは、販売店オプションのアクセサリー用品取り付け用です。

アクセサリー用品の購入や取り扱い方法などについては、トヨタ販売店にご相談ください。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

警告

■**デッキフックを使用しないときは**

けがをしないように、必ずもとの位置にもどしておいてください。

■**走行中の警告**

各収納スペースのフタを必ず閉じてください。
急ブレーキ時などに収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■**トノカバーを使用するときは（トノカバー装着車）**

●トノカバーの上には、お子さまが乗ったりしないようにしてください。
トノカバーが破損しお子さまが重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●トノカバーを操作するときは、トノカバーとまわりの部品のあいだに指や腕などを入れないように注意してください。指や腕を挟み、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

お手入れのしかた

4

4-1. お手入れのしかた

4-2. 簡単な点検・部品交換

外装の手入れ

お手入れは、次の項目を実施してください。

- 水を十分かけながら、車体・足まわり・下まわりの順番に上から下へ汚れを洗い落とす
- 車体はスポンジやセーム皮のようなやわらかいもので洗う
- 汚れがひどいときはカーシャンプーを使用し、水で十分洗い流す
- 水をふき取る
- 水のはじきが悪くなったときは、ワックスがけを行う

  ボデーの表面の汚れを落としても水が玉状にならないときは、車体の温度が冷えているときにワックスをかける（およそ体温以下を目安としてください）

なお、ボデーコート・ホイールコート・ガラスコートなど、トヨタケミカル商品を施工された場合は、お手入れ方法が異なります。詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

知識

■自動洗車機を使うときは

- ドアミラーを格納し、車両前側から洗車してください。また、走行前は必ずドアミラーを復帰状態にもどしてください。
- ブラシで車体に傷が付き、塗装を損なうことがあります。
- 洗車機によっては、リヤスポイラーが引っかかり洗車できない場合や、傷付いたり、破損したりするおそれがあります。

■高圧洗車機を使うときは

●車内に水が入るおそれがあるため、ノズルの先端をドアガラスやドア枠付近に近付けすぎないでください。

●洗車の前に給油口が確実に閉まっていることを確認してください。

●駆動系部品（ディファレンシャルギヤなど）のベアリングやオイルシール部品に近付けすぎないでください。
近付けすぎると、水圧が高いため、内部への水入りやグリス流出により、性能が劣化するおそれがあります。

●リヤハイトコントロールエアサスペンション装着車は、ノズルの先端をエアサスペンション付近に近付けすぎないでください。

■アルミホイール

●中性洗剤を使用し、早めに汚れを落としてください。研磨剤の入った洗剤や硬いブラシは塗装を傷めますので使用しないでください。

●夏場の長距離走行後などでホイールが熱いときは、洗剤は使用しないでください。

●洗剤を使用したあとは早めに十分洗い流してください。

■バンパーについて

研磨剤入りの洗剤でこすらないようにしてください。

■フロントドアガラスの撥水コーティングについて

●撥水効果を長持ちさせるため、次のことに注意してください。

・フロントドアガラス表面の泥などの汚れを落とす
・汚れは早めにやわらかい湿った布などで清掃する
・コンパウンド（磨き粉）が入ったガラスクリーナーやワックスを使用しない
・金属製の道具で霜取りをしない

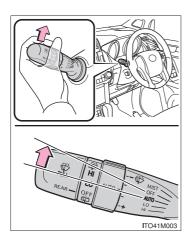
●水滴のはじきが悪くなったときは補修することができます。
詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

⚠ 警告

■洗車をするときは

エンジンルーム内に水をかけないでください。
電気部品などに水がかかると、車両火災につながるおそれがあり危険です。

■フロントウインドウガラスを清掃するときは（雨滴感知式ワイパー装着車）

ITO41M003

ワイパースイッチを OFF にしてください。AUTO モードになっていると、次のようなときにワイパーが不意に作動し、指などを挟み重大な傷害を受けたり、ワイパーブレードなどを損傷するおそれがあります。

- ●雨滴センサー上部のフロントウインドウガラスに手でふれたとき
- ●水分を含んだ布などを雨滴センサーに近付けたとき
- ●フロントウインドウガラスに衝撃を与えたとき
- ●車内から雨滴センサー本体にふれるなどして衝撃を与えたとき

■排気管について

排気管は排気ガスにより高温になります。洗車などでふれる場合は、十分に排気管が冷めてからにしてください。やけどをするおそれがあります。

注意

■塗装の劣化や車体·部品（ホイールなど）の腐食を防ぐために

●次のような場合はただちに洗車してください。

・海岸地帯を走行したあと
・凍結防止剤を散布した道路を走行したあと
・コールタール・花粉・樹液・鳥のふん・虫の死がいなどが付着したとき
・ばい煙・油煙・粉じん・鉄粉・化学物質などの降下が多い場所を走行したあと
・ほこり・泥などで激しく汚れたとき
・塗装にベンジンやガソリンなどの有機溶剤が付着したとき

●塗装に傷が付いた場合は、早めに補修してください。

●ホイール保管時は、腐食を防ぐために汚れを落とし、湿気の少ない場所へ保管してください。

■ライトの清掃

●注意して洗ってください。有機溶剤や硬いブラシは使用しないでください。ライトを損傷させるおそれがあります。

●ライトにワックスがけを行わないでください。
レンズを損傷するおそれがあります。

■自動洗車機を使用するときは（雨滴感知式ワイパー装着車）

ワイパースイッチを OFF にしてください。AUTO モードになっていると、不意にワイパーが作動してワイパーブレードなどを損傷するおそれがあります。

内装の手入れ

お手入れは、次の要領で実施してください。

■ 車内の手入れ

掃除機などでほこりを取り除き、水またはぬるま湯を含ませた布でふき取る

■ 本革部分の手入れ

- 掃除機などでほこりや砂を取り除く
- うすめた洗剤をやわらかい布に含ませ、汚れをふき取る

  ウール用の中性洗剤を約5%の水溶液までうすめたものを使用してください。
- 真水をひたした布を固くしぼり、表面に残った洗剤をふき取る
- 乾いたやわらかい布で表面の水分をふき取り、風通しのよい日陰で乾燥させる

■ 合成皮革部分の手入れ

- 掃除機をかけて、大まかな汚れを取る
- スポンジや、やわらかい布を使用して合成皮革部分に刺激の少ない洗剤を付ける
- 数分間洗剤につけておいてから汚れを落とし、固くしぼったきれいな布で洗剤をふき取る

知識

■本革部分のお手入れの目安

品質を長く保つため、年に 2 回程度の定期的なお手入れをおすすめします。

■カーペットの洗浄

カーペットは常に乾いた状態を保つことをおすすめします。洗浄には、市販の泡タイプクリーナーがご利用になれます。
スポンジまたはブラシを使用して泡をカーペットに広げ、円を描くように塗り込んでください。直接水をかけたりせず、ふき取ってから乾燥させてください。

■シートベルト

刺激の少ない洗剤とぬるま湯で、布かスポンジを使って洗ってください。
シートベルトのすり切れ・ほつれ・傷などを定期的に点検してください。

警告

■車両への水の浸入

●車内に水をかけたり液体をこぼしたりしないでください。
電気部品などに水がかかると、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。

●SRS エアバッグの構成部品や配線などをぬらさないでください。(→P. 114)
電気の不具合により、エアバッグが展開したり、正常に機能しなくなり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■内装の手入れをするときは（特にインストルメントパネル）

艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルがフロントウインドウガラスへ映り込み、運転者の視界をさまたげ思わぬ事故につながり、重大な傷害もしくは死亡におよぶおそれがあります。

注意

■清掃するとき使用する溶剤について

●変色・しみ・塗装はがれの原因になるため、次の溶剤は使用しないでください。

・シート以外の部分：ベンジン・ガソリンなどの有機溶剤や酸性またはアルカリ性の溶剤・染色剤・漂白剤

・シート部分：シンナー・ベンジン・アルコール・その他のアルカリ性や酸性の溶剤

●艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルやその他内装の塗装のはがれ・溶解・変形の原因になるおそれがあります。

■革の傷みを避けるために

皮革の表面の劣化や損傷を避けるために、次の注意をお守りください。

●革に付着したほこりや砂はすぐに取り除く

●直射日光に長時間さらさないようにする
特に夏場は日陰で車を保管する

●ビニール製・プラスチック製・ワックス含有のものは、車内が高温になると革に張り付くおそれがあるため、革張りの上に置かない

■床に水がかかると

水で洗わないでください。
オーディオやフロアカーペット下にある電気部品に水がかかると、車の故障の原因になったり、ボデーが錆びるおそれがあります。

■リヤウインドウガラス・リヤクォーターガラスの内側を掃除するときは

●熱線やアンテナを損傷するおそれがあるため、ガラスクリーナーなどを使わず、熱線やアンテナにそって水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいてください。

●熱線やアンテナを引っかいたり、損傷させないように気を付けてください。

タイヤについて

タイヤの点検は、法律で義務付けられています。日常点検として必ずタイヤを点検してください。
タイヤの摩耗を均等にし寿命をのばすために、タイヤローテーション（タイヤ位置交換）を 5,000 km ごとに行ってください。

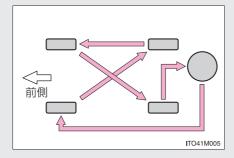
■ タイヤの点検項目

タイヤは次の項目を点検してください。
点検方法は別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

- タイヤ空気圧

  空気圧の点検は、タイヤが冷えているときに行ってください。

- タイヤの亀裂・損傷の有無
- タイヤの溝の深さ
- タイヤの異常摩耗（極端にタイヤの片側のみが摩耗していたり、摩耗程度が他のタイヤと著しく異なるなど）の有無

■ タイヤローテーションのしかた

図で示すようにタイヤのローテーションを行う

タイヤの摩耗状態を均一にし、寿命をのばすために、トヨタは定期点検ごとのタイヤローテーションをおすすめします。

知識

■タイヤ空気圧の数値

タイヤの指定空気圧は、運転席側のタイヤ空気圧ラベルで確認することができます。

タイヤサイズ	空気圧※ [kPa(kg/cm^2)]	
	前輪	後輪
265/65R17 112S	220(2.2)	220(2.2)
265/60R18 110H	220(2.2)	220(2.2)

※タイヤが冷えているときの空気圧

■タイヤ関連の部品を交換するとき

タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットを交換するときは、トヨタ販売店にご相談ください。

警告

■点検・交換時の警告

必ず次のことをお守りください。
お守りいただかないと、駆動系部品の損傷や不安定な操縦特性により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

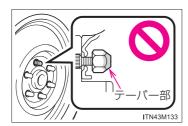
- タイヤはすべて同一メーカー・同一銘柄・同一トレッドパターンで、摩耗差のないタイヤを使用する
- メーカー指定サイズ以外のタイヤやホイールを使用しない
  - ・KDSS 非装着車：265/65R17 112S
  - ・KDSS 装着車：265/60R18 110H
- ラジアルタイヤ・バイアスベルテッドタイヤ・バイアスプライタイヤを混在使用しない
- サマータイヤ・オールシーズンタイヤ・冬用タイヤを混在使用しない

警告

■異常があるタイヤの使用禁止

異常があるタイヤをそのまま装着していると、走行時にハンドルをとられたり、異常な振動を感じることがあります。また、次のような事態になり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- ●破裂などの修理できない損傷を与える
- ●車両が横すべりする
- ●車の本来の性能（燃費・車両の方向安定性・制動距離など）が発揮されない

■タイヤ交換時の注意

- ●必ずナットのテーパー部を内側にして取り付けてください。
テーパー部を外側にして取り付けると、ホイールが破損しはずれてしまい、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ●ねじ部にオイルやグリースをぬらないでください。
ナットを締めるときに必要以上に締め付けられ、ボルトが破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。またナットがゆるみホイールが落下して、重大な事故につながるおそれがあります。オイルやグリースがねじ部に付いている場合はふき取ってください。

注意

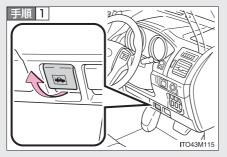
■走行中に空気もれが起こったら

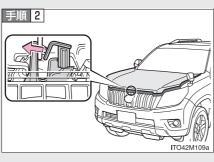
走行を続けないでください。
タイヤまたはホイールが損傷することがあります。

■悪路走行に対する注意

段差や凹凸のある路上を走行するときは注意してください。
タイヤの空気が抜けて、タイヤのクッション作用が低下します。また、タイヤ・ホイール・車体などの部品も損傷するおそれがあります。

ボンネット

車内からロックを解除して、ボンネットを開けます。

ボンネット解除レバーを引く

ボンネットが少し浮き上がります。

レバーを左に引いてフックをはずし、ボンネットを持ち上げる

知識

■バッテリー端子をはずすときは

バッテリー端子をはずすと、コンピューターに記憶されている情報が消去されます。バッテリー端子をはずすときは、トヨタ販売店にご相談ください。

警告

■走行前の確認

ボンネットがしっかりロックされていることを確認してください。
ロックせずに走行すると、走行中にボンネットが突然開いて、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■エンジンルームを点検したあとは

エンジンルーム内に工具や布を置き忘れていないことを確認してください。
点検や清掃に使用した工具や布などをエンジンルーム内に置き忘れていると、故障の原因になったり、また、エンジンルーム内は高温になるため車両火災につながるおそれがあり危険です。

■ボンネットを閉めるときは

ボンネットを閉めるときは、手などを挟まないように注意してください。
重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

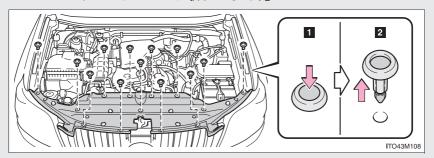
注意

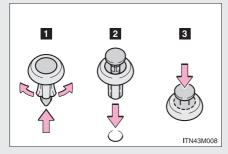
■ボンネットやダンパーステーへの損傷を防ぐために

- ボンネットを閉めるときは、体重をかけるなどして強く押さないでください。ボンネットがへこむおそれがあります。
- ボンネットには、ボンネットを支えるためのダンパーステーが取り付けられています。ダンパーステーの損傷や作動不良を防ぐため、次のことをお守りください。
  - ・ビニール片・ステッカー・粘着材などの異物をステーのロッド部（棒部）に付着させない
  - ・ロッド部を軍手などでふれない
  - ・ボンネットにトヨタ純正品以外のアクセサリー用品を付けない
  - ・ステーに手をかけたり、横方向に力をかけたりしない

エンジンルームカバー

メンテナンス時など、必要に応じて取りはずすことができます。

■ エンジンルームカバーの取りはずし方

1 中央部分を押す
2 引き抜く

■ クリップの取り付け方

1 中央部分を押し上げる
2 挿し込む
3 中央部分を押す

警告

■けがを防ぐために

エンジンルームカバーを取りはずす前に、“エンジン スタート ストップ”スイッチを OFF にしてください。熱くなった部品でやけどをしたり、作動中の部品に巻き込まれて重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

注意

■エンジンルームカバーを取り付けたあとは

もとの場所に確実に取り付けられていることを確認してください。

電球（バルブ）の交換

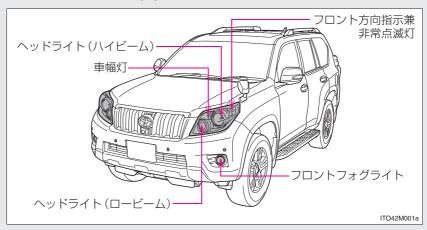
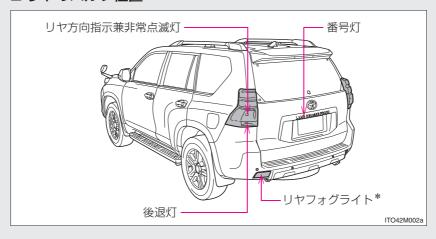
次に記載する電球は、ご自身で交換できます。詳細が不明な場合やその他の電球交換については、トヨタ販売店にご相談ください。

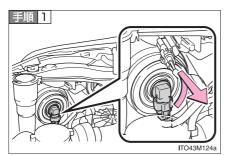
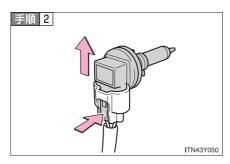
■ 電球の用意

切れた電球のW（ワット）数を確認してください。（→P. 411）

■ フロントのバルブ位置

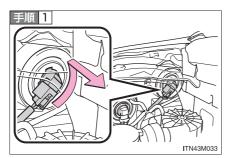
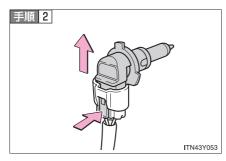
■ リヤのバルブ位置

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

電球交換のしかた

■ ヘッドライト（ロービーム）

手順 1 ソケットを取りはずす

手順 2 電球を取りはずす

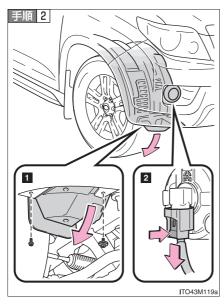
手順 3 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

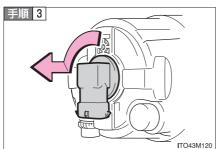
■ ヘッドライト（ハイビーム）

ソケットを取りはずす

電球を取りはずす

手順 3 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

■ フロントフォグライト

手順 1 ハンドルをいっぱいまでまわしてタイヤを動かし、作業スペースを広げる

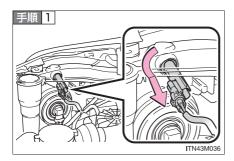
運転席側の電球を交換する場合は左に、助手席側の電球を交換する場合は右にハンドルをまわします。

1 ボルト(2 本)を取りはずし、フェンダーライナーをめくる

2 コネクターを取りはずす

電球を取りはずす

手順 4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

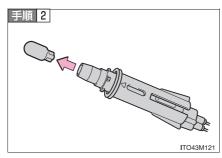
■ 車幅灯

手順 1

ITN43M036

ソケットを取りはずす

運転席側と助手席側でソケットの形状が異なりますが、取りはずし方は同様です。

手順 2

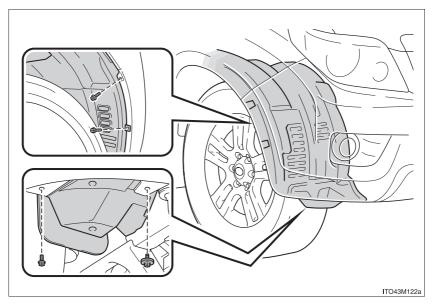
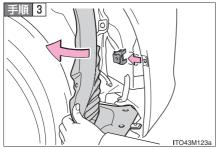
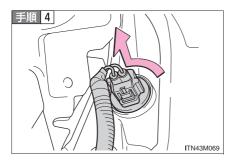
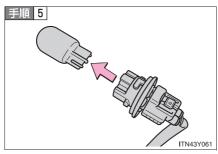
ITO43M121

電球を取りはずす

手順 3 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

■ フロント方向指示兼非常点滅灯

手順 1 ハンドルをいっぱいまでまわしてタイヤを動かし、作業スペースを広げる

運転席側の電球を交換する場合は左に、助手席側の電球を交換する場合は右にハンドルをまわします。

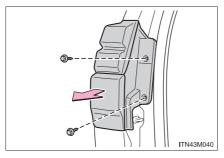
手順 2 ボルト（4 本）をはずす

手順 3 フェンダーライナーをめくり、クリップを取りはずす

ソケットを取りはずす

電球を取りはずす

手順 6 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

■ リヤ方向指示兼非常点滅灯・後退灯

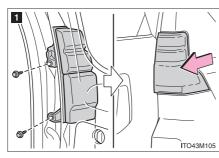
手順 1 バックドアを開け、ボルト(2 本)をはずしてランプ本体をはずす

▶ 助手席側

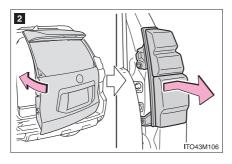
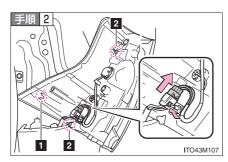
ITN43M040

ボルトをはずした状態でランプ本体をまっすぐ後方に引き、内部にあるピン※のかん合をはずす

※ 手順 2 のイラストを参照してください。

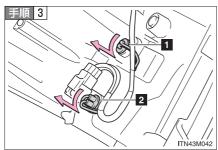
▶ 運転席側

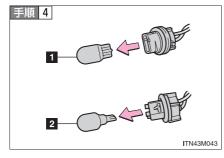
ITO43M105

1 ボルトをはずした状態でランプ本体をまっすぐ後方に引き、内部にあるピン※のかん合をはずす

※ 手順 2 のイラストを参照してください。

ITO43M106

2 バックドアを半開にして、車両本体とバックドアとのすき間を広げた状態にし、ランプ本体のステーを車両外側に引き出す

コネクターをはずす

1 車体側のクリップを受ける箇所

2 ピン

ソケットを取りはずす

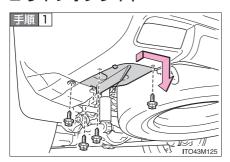
1 リヤ方向指示兼非常点滅灯

2 後退灯

電球を取りはずす

1 リヤ方向指示兼非常点滅灯

2 後退灯

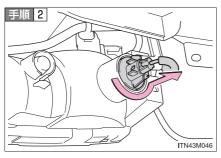
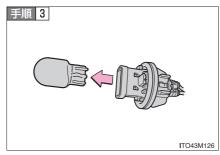
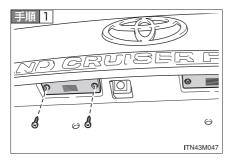
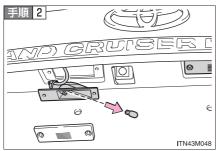
手順 5 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

■ リヤフォグライト*

ボルト（4 本）をはずし、アンダーカバーを取りはずす

ソケットを取りはずす

電球を取りはずす

手順 4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

■ 番号灯

ネジ(2本)をはずしてカバーを取りはずす

電球を取りはずす

手順 3 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

■ その他の電球

次の電球が切れたときは、トヨタ販売店で交換してください。

- サイド方向指示兼非常点滅灯
- 制動灯
- 尾灯
- ハイマウントストップライト

知識

■番号灯のカバーを取り付けるときは

必ずパッキンをもとどおりに取り付けてください。パッキンが正しく取り付けられていないと、水が入る原因になります。

■LED ライトについて

尾灯・制動灯・サイド方向指示兼非常点滅灯・ハイマウントストップライトは数個の LED で構成されています。もし LED がひとつでも点灯しないときは、トヨタ販売店で交換してください。

■レンズ内の水滴と曇り

次のようなときは、トヨタ販売店にご相談ください。ただし、レンズ内の一時的な曇りは、機能上問題ありません。

- レンズ内側に大粒の水滴が付いている
- ライト内に水がたまっている

■電球の交換について

電球の交換作業をするときに、部品などの破損が心配な方は、トヨタ販売店にご相談ください。

警告

■電球を交換するときは

●ライトは消灯してください。消灯直後は高温になっているため、交換しないでください。
やけどすることがあります。

●電球のガラス部を素手でふれないでください。
プラスチック部または金属ケース部を持ってください。また、電球を傷付けたり、落下させたりすると球切れや破裂することがあります。

●電球や電球を固定するための部品はしっかり取り付けてください。
取り付けが不十分な場合、発熱や発火、またはヘッドライト内部への浸水による故障や、レンズ内に曇りが発生することがあります。

■お車の故障や火災を防ぐために

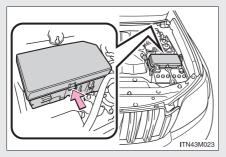
電球が正しい位置にしっかりと取り付けられていることを確認してください。

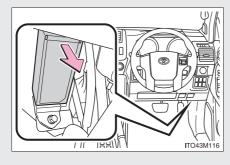
ヒューズの点検・交換

ライトがつかないときや電気系統の装置が働かないときは、ヒューズ切れが考えられます。ヒューズの点検を行ってください。

手順 1 “ エンジン スタート ストップ ” スイッチを OFF にする

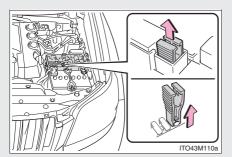
手順 2 ヒューズボックスを開ける

▶ エンジンルーム

ツメを押しながら、カバーを持ち上げる

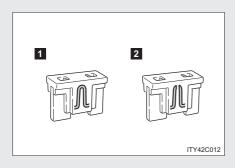
▶ 運転席足元

カバーを取りはずす

手順 3 故障の状況から、点検すべきヒューズを「ヒューズの配置と負荷」(→P. 329)で確認する

手順 4 ヒューズを引き抜く

ITO43M110a

ヒューズはずしでヒューズを引き抜くことができます。

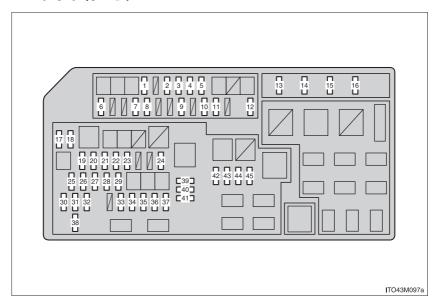
手順 5 ヒューズが切れていないか点検する

ITY42C012

1 正常

2 ヒューズ切れ

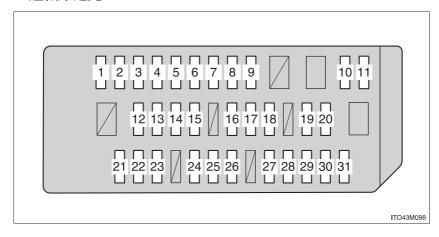
ヒューズボックスの表示に従い、規定容量のヒューズに交換します。

ヒューズの配置と負荷

■ エンジンルーム

ヒューズ名称		アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
1	INV	15 A	アクセサリーコンセント
2	DEF	30 A	リヤウインドウデフォッガー
3	FOG RR	7.5 A	リヤフォグライト
4	DEICER	20 A	フロントワイパーデアイサー
5	AIR PMP HTR	10 A	エアポンプヒーター
6	MIR HTR	15 A	ミラーヒーター
7	FOLD SEAT LH	30 A	電動格納式サードシート（助手席側）
8	FOLD SEAT RH	30 A	電動格納式サードシート（運転席側）
9	A/C COMP	10 A	エアコン
10	CDS FAN	20 A	エアコン

ヒューズ名称		アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
11	STOP	10 A	制動灯、緊急ブレーキシグナル、ハイマウントストップライト、燃料噴射システム、シフトロックシステム、VSC、始動系
12	AIR SUS NO.2	7.5 A	リヤハイトコントロールエアサスペンション
13	IG2	20 A	始動系、メーター
14	HORN	10 A	ホーン
15	EFI	25 A	燃料噴射システム、EFI コンピューター
16	A/F	20 A	燃料噴射システム
17	H-LP RH-HI	15 A	右側ヘッドライト（ハイビーム）
18	H-LP LH-HI	15 A	左側ヘッドライト（ハイビーム）
19	H-LP HI	25 A	ヘッドライト（ハイビーム）
20	ALT-S	7.5 A	充電系
21	TURN & HAZ	15 A	方向指示灯、非常点滅灯、方向指示表示灯
22	D/L NO.1	25 A	ドアロック、バックドアガラスオープンスイッチ
23	ETCS	10 A	EFI システム
24	TOWING	30 A	未使用
25	RAD NO.1	15 A	ナビゲーションシステム、ETC
26	AM2	7.5 A	始動系
27	RAD NO.2	10 A	ナビゲーションシステム
28	MAYDAY	7.5 A	メーデーシステム
29	AMP	30 A	ナビゲーションシステム、オーディオ
30	WIP RR	15 A	リヤワイパー
31	DOME	10 A	ルームライト、読書灯、バニティライト、カーテシライト

ヒューズ名称		アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
32	ECU-B	10 A	ボデー ECU、ヒーターコントロールパネル、VSC、バックガイドモニター、ドライビングポジションメモリー、電動チルト&テレスコピックステアリング、スマートエントリー&スタートシステム、電動格納式サードシート、クールボックス、ステアリングセンサー
33	H-LP RH-LO	15 A	右側ヘッドライト（ロービーム)、手動光軸調整ダイヤル
34	H-LP LH-LO	15 A	左側ヘッドライト（ロービーム）
35	INJ	10 A	点火系
36	EFI NO.2	10 A	吸排気センサー系
37	WIP FR NO.2	7.5 A	レーダークルーズコントロール
38	WSH RR	15 A	リヤウォッシャー
39	SPARE	–	予備ヒューズ
40	SPARE	–	予備ヒューズ
41	SPARE	–	予備ヒューズ
42	SECURITY	10 A	EFI コンピューター
43	SMART	7.5 A	スマートエントリー&スタートシステム
44	STRG LOCK	20 A	ステアリングロック ECU
45	TOWING BRK	30 A	未使用

■ 運転席足元

	ヒューズ名称	アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
1	P/OUTLET	15 A	アクセサリーソケット
2	ACC	7.5 A	電動ミラー、ボデーECU、ヒーターコントロールパネル、ナビゲーションシステム、ETC、5AT（Sモードスイッチ）、燃料噴射システム、シフトポジション・シフトレンジ表示、シフトロックシステム、G-BOOK
3	BKUP LP	10 A	制動灯、尾灯、後退灯、オーディオ、マルチインフォメーションディスプレイ、クリアランスソナー
4	TOWING BKUP	10 A	未使用
5	AVS	20 A	リヤハイトコントロールエアサスペンション
6	KDSS	10 A	KDSS
7	4WD	20 A	4WDシステム、リヤデフロック
8	P/SEAT FL	30 A	パワーシート、ドライビングポジションメモリー

	ヒューズ名称	アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
9	D/L NO.2	25 A	ドアロック、バックドアガラスオープンスイッチ
10	TI & TE	15 A	電動チルト＆テレスコピックステアリング
11	FOG FR	15 A	フロントフォグライト
12	OBD	7.5 A	ダイアグノーシス
13	A/C	7.5 A	エアコン
14	AM1	7.5 A	未使用
15	DOOR RL	25 A	パワーウインドウ（リヤ助手席側）
16	ECU-IG NO.1	10 A	シフトロックシステム、VSC、ABS、ミラーヒーター、レーダークルーズコントロール、パワーステアリング、電動チルト＆テレスコピックステアリング
17	IG1	7.5 A	充電系、VSC、エアコン
18	ECU-IG NO.2	10 A	リヤウインドウデフォッガー、シートヒーター、アクセサリーコンセント、ヒーターコントロールパネル、自動防眩ミラー、ボデーECU、ナビゲーションシステム、ムーンルーフ、クリアランスソナー、マルチインフォメーションディスプレイ、電動格納式サードシート、クールボックス、ヒーターコントロールパネル、フロントワイパーデアイサー、助手席シートベルト非着用警告灯、雨滴感知センサー、リヤハイトコントロールエアサスペンション
19	S/HTR FR	20 A	シートヒーター
20	P/SEAT FR	30 A	パワーシート
21	DOOR	10 A	パワーウインドウ（助手席）
22	DOOR D	25 A	パワーウインドウ（運転席）
23	DOOR RR	25 A	パワーウインドウ（リヤ運転席側）

	ヒューズ名称	アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
24	S/ROOF	25 A	ムーンルーフ
25	WIP	30 A	フロントワイパー
26	WASHER	20 A	ウォッシャー
27	COOLING	10 A	クールボックス
28	IGN	10 A	燃料噴射システム、VSC、スマートエントリー＆スタートシステム、G-BOOK
29	GAUGE	7.5 A	メーター
30	PANEL	7.5 A	スイッチ照明
31	TAIL	10 A	車幅灯、尾灯、番号灯、フォグライト

知識

■ヒューズを交換したあと

● 交換してもライト類が点灯しないときは、電球を交換してください。（→P. 314）

● 交換しても再度ヒューズが切れる場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■バッテリーからの回路に過剰な負荷がかかると

配線が損傷を受ける前にヒューズが切れるように設計されています。

警告

■車の故障や、車両火災を防ぐために

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、車の故障や火災、けがをするおそれがあります。

● 規定容量以外のヒューズ、またはヒューズ以外のものを使用しないでください。

● 必ずトヨタ純正ヒューズか同等品を使用してください。

● ヒューズやヒューズボックスを改造しないでください。

注意

■**ヒューズを交換する前に**

ヒューズが切れた原因が電気の過剰負荷だと判明したときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

キーの電池交換

電池が消耗しているときは、新しい電池に交換してください。

■ 用意するもの

● マイナスドライバー

● 小さいプラスドライバーなど

● リチウム電池 CR1632

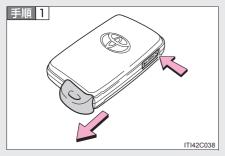
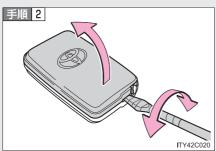
■ 電池交換のしかた

手順 1

ITI42C038

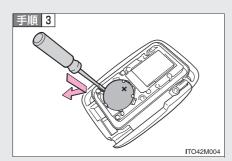
メカニカルキーを抜く

手順 2

ITY42C020

カバーをはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。

手順 3

ITO42M004

消耗した電池を取り出す

新しい電池は + 極を上にして取り付けます。

手順 4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

知識

■電池が消耗していると

次のような状態になります。

- ●スマートエントリー&スタートシステム、ワイヤレス機能が作動しない
- ●作動距離が短くなる

■リチウム電池 CR1632 の入手

電池はトヨタ販売店・時計店およびカメラ店などで購入できます。

■キーの電池を交換したときは

キーのスイッチを押し、本体の LED が点灯することを確認します。

警告

■取りはずした電池と部品について

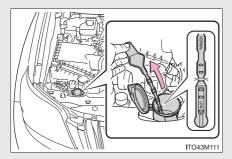
お子さまにさわらせないでください。
部品が小さいため、誤って飲み込むと、のどなどにつまらせ重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

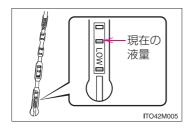
■交換後、正常に機能させるために

次のことを必ずお守りください。

- ●ぬれた手で電池を交換しない
  錆の原因になります。
- ●電池以外の部品に、ふれたり動かしたりしない
- ●電極を曲げない

ウォッシャー液の補給

液面が LOW の位置に近付いたらウォッシャー液を補給する

知識

■ゲージの使い方

ウォッシャー液の膜が張っているゲージの穴部の位置を確認して、ウォッシャー液の残量を判断します。
残量がゲージの先端から 2 つめの穴部より下まわった（LOW の位置まで低下した）ら、ウォッシャー液を補給してください。

⚠ 警告

■ウォッシャー液を補給するときは

エンジンが熱いときやエンジンがかかっているときは、ウォッシャー液を補給しないでください。
ウォッシャー液にはアルコール成分が含まれているため、エンジンなどにかかると出火するおそれがあり危険です。

注意

■**ウォッシャー液について**

ウォッシャー液のかわりに、せっけん水やエンジン不凍液などを入れないでください。
塗装にしみが付くおそれがあります。

■**ウォッシャー液のうすめ方**

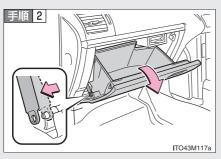
必要に応じて水でうすめてください。水とウォッシャー液の割合は、ウォッシャー液の容器に表示してある凍結温度を参考にしてください。

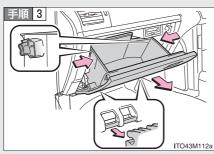
エアコンフィルターの清掃・交換

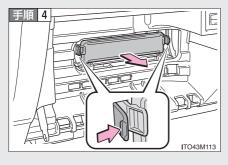
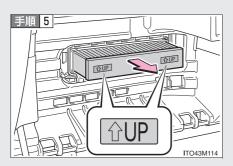
エアコンを快適にお使いいただくために、エアコンフィルターを定期的に清掃、または交換してください。

■ 交換のしかた

手順 1 “エンジン スタート ストップ”スイッチをOFFにする

手順 2

グローブボックスを開き、ダンパーステーのピンをはずす

手順 3

グローブボックス側面を内側に押して上部のツメを片側ずつはずし、下部のツメをはずして取りはずす

手順 4

フィルターカバーを取りはずす

フィルターを取りはずし、新しいフィルターと交換する

「↑ UP」マークの矢印が上を向くように取り付けます。

手順 6 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

知識

■エアコンフィルターの清掃・交換について

エアコンフィルターは下記の時期を目安に清掃、または交換してください。

清掃：15,000km [7,500km※] ごと
交換：30,000km [15,000km※] ごと

※大都市や寒冷地など、交通量や粉じんの多い地区

■エアコンの風量が減少したときは

フィルターの目づまりが考えられますので、フィルターを清掃、または交換してください。
なお、フィルターの清掃については、トヨタ販売店にご相談ください。

注意

■エアコンを使用するときの注意

フィルターを装着せずにエアコンを使用すると、故障の原因になることがあります。必ずフィルターを装着してください。

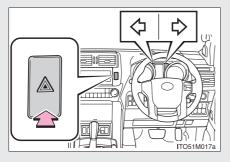
トラブルが起きたら

5

5-1. まず初めに

5-2. 緊急時の対処法

非常点滅灯

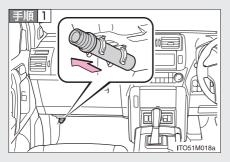
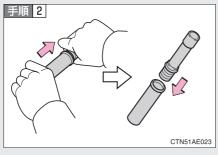
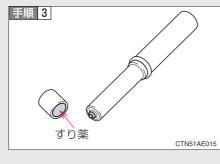
事故や故障のときなどにお使いください。

スイッチを押すとすべての方向指示灯が点滅し、もう一度押すと消灯します。

⚠ 注意

■バッテリーあがりを防ぐために

エンジン停止中に非常点滅灯を長時間使用しないでください。

発炎筒

事故や故障のときなど、緊急時に使用してください。
発炎時間は約５分です。非常点滅灯と併用してください。

助手席足元の発炎筒を取り出す

本体をまわしながら抜き、本体を逆さにして挿し込む

先端のフタを取り、すり薬と発炎筒の先端をこすり、着火させる

知識

■発炎筒の有効期限

表示してある有効期限が切れる前に、新しいものに交換してください。

警告

■発炎筒が使用できない場所

次の場所では、発炎筒を使用しないでください。
煙で視界が悪くなったり、引火するおそれがあるため危険です。

●トンネル内

●ガソリンなど可燃物の近く

■発炎筒の取り扱いについて

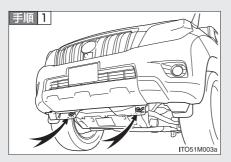
次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

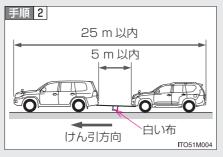
●使用中は、発炎筒を顔や体に向けたり、近付けたりしない

●発炎筒は、お子さまにさわらせない

けん引について

けん引は、できるだけトヨタ販売店または専門業者にご依頼ください。

■ けん引されるときは

車体に傷が付かないようにロープをけん引フックにかける

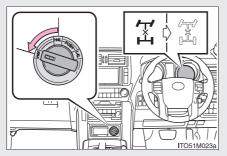
前進方向でけん引してください。

ロープの中央に白い布を付ける

布の大きさ：
0.3 m 平方（30 cm × 30 cm）以上

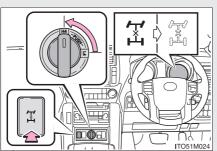
手順 3 けん引される車両のエンジンをかける

エンジンがかからないときは、“エンジン スタート ストップ”スイッチをアクセサリーモード、またはイグニッション ON モードにしてください。

手順 4 センターデフロック作動表示灯が点灯していないことを確認する

点灯している場合は、次の操作を行ってセンターデフロック状態を解除してください。

▶ 2TR-FE エンジン搭載車

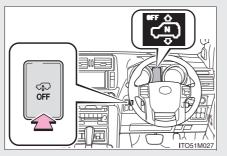
トランスファースイッチをH4F にします。※

センターデフロック作動表示灯が消灯したことを確認してください。

▶ 1GR-FE エンジン搭載車

トランスファースイッチをH4かつセンターデフロックスイッチを OFF にします。※

センターデフロック作動表示灯が消灯したことを確認してください。

※トランスファースイッチの詳しい説明については、別冊「オフロード走行取扱書」を参照してください。

手順 5 車高モードをN（標準）モードにし、車高制御を禁止する※（リヤハイトコントロールエアサスペンション装着車のみ）

車高制御 OFF スイッチを押すと、ハイトコントロール OFF モードになり、現在の車高モードで固定されます。

※ リヤハイトコントロールエアサスペンションの詳しい説明については、別冊「オフロード走行取扱書」を参照してください。

手順 6 けん引される車両のシフトレバーをNにしてから、パーキングブレーキを解除する

けん引中は、前の車の制動灯に注意し、ロープをたるませないようにしてください。

5

トラブルが起きたら

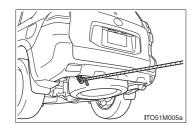
けん引する前に

次の場合は、駆動系の故障が考えられるため、トヨタ販売店へご連絡ください。

- エンジンはかかるが車が動かない
- 異常な音がする

知識

■他車をけん引する

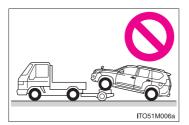
ITO51M005a

リヤ側のけん引フックは、自車より軽い車をやむを得ず一般路上でロープによりけん引するときに使用します。

■けん引フックの使用目的

フロント側のけん引フックはけん引されるときに使うものであり、他車をけん引するためのものではありません。

警告

■**車両を運搬するときは**

ITO51M006a

●必ず４輪接地または、４輪とも持ち上げた状態で運搬してください。
前輪または後輪だけ持ち上げたけん引は絶対にしないでください。駆動装置が焼き付きを起こしたり、車がトレッカー（台車）から飛び出すおそれがあります。

●駆動系内部の異常があると思われるとき、および次のときは、必ず車両積載車などにより４輪とも持ち上げて運搬してください。

・センターデフロック作動表示灯が消灯せず、センターデフロックが OFF（解除）になったことが確認できないとき
・センターデフロック状態（ON のとき）で故障したとき

●リヤハイトコントロールエアサスペンション※装着車は、４輪接地でかつエンジンがかかっている状態で他車にけん引してもらうときは、車高モードを N（標準）モードにし、車高制御を禁止にした状態で行ってください。オートレベリング機能により車高がかわり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

※リヤハイトコントロールエアサスペンションについては、別冊「オフロード走行取扱書」を参照してください。

■**けん引中の運転について**

●けん引を行うときは細心の注意を払ってください。
けん引フックやロープに過剰な負荷をかける急発進や、間違った車両操作は避けてください。
けん引フックやロープが破損するおそれがあります。万一の場合、その破片が周囲の人などにあたり、重大な傷害を与えるおそれがあり危険です。

●“ エンジン スタート ストップ ” スイッチを OFF にしないでください。
ハンドルがロックされハンドル操作ができなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●けん引される車は、慎重に運転してください。
エンジンが停止しているとブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが通常より重くなったりします。

⚠ **注意**

■車両の損傷を防ぐために

けん引するときは次のことを必ずお守りください。

- ワイヤーロープは使用しない
- 速度 30 km/h 以下、距離 80 km 以内でけん引する
- 前進方向でけん引する
- サスペンション部などにロープをかけない

上記の速度、距離をこえてのけん引、または後進方向でのけん引をするとトランスミッションに悪影響をおよぼし、損傷するおそれがあります。これらの場合は、車両積載車などにより 4 輪とも持ち上げて運搬してください。

■長い下り坂でけん引するときは

レッカー車でけん引してください。
レッカー車でけん引しないと、ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。

フューエルポンプシャットオフシステム

エンジン停止時および SRS エアバッグ作動時は、フューエルポンプシャットオフシステムが作動し、燃料供給を停止し、燃料もれを最小限に抑えます。

システム作動後にエンジンを再始動するには

システムが作動したあと、エンジンを始動するには、次の手順に従ってください。

手順 1 “ エンジン スタート ストップ ” スイッチをアクセサリーモードまたは OFF にする

手順 2 エンジンを再始動する

注意

■ **エンジンを始動する前に**

車両下をよく確認してください。
地面に燃料もれを見つけた場合は、燃料システムに損傷があり、修理する必要があります。その場合はエンジンを再始動しないでください。

イベントデータレコーダー

お車には、最適な車両性能を維持するためのコンピューターを搭載しています。このコンピューターはシステムが正常に作動していることを診断すると共に、衝突のときや衝突に近い状態のときのデータを記録するイベントデータレコーダー（EDR）を装備しています。

記録するデータ

エアバッグコンピューターに搭載しているイベントデータレコーダーが、衝突のときや衝突に近い状態のときに次のデータを記録します。

- エンジンの回転数
- 車速
- ブレーキペダルの操作状況
- アクセルペダルの操作状況
- トランスミッションのシフトポジション
- 運転者のシートベルト装着の有無
- エアバッグ作動に関する情報
- エアバッグシステムの故障診断情報

イベントデータレコーダーは、会話などの音声や映像は記録しません。

データの開示について

トヨタおよびトヨタが委託した第三者は、イベントデータレコーダーに記録されたデータを、車の研究開発を目的に取得・流用することがあります。なお、トヨタおよびトヨタが委託した第三者は、取得したデータを次の場合を除き、第三者へ開示・提供することはありません。

- お車の使用者の同意がある場合
- 裁判所命令などの法的強制力のある要請に基づく場合
- 統計的な処理を行うなどの、使用者や車が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

警告灯がついたときは

警告灯が点灯または点滅したままの場合は、落ち着いて次のように対処してください。点灯・点滅しても、その後消灯すれば異常ではありません。ただし、同じ現象が再度発生した場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

ただちに停車してください。走行を続けると危険です。

次の警告はブレーキの故障のおそれがあることを意味します。ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。

警告灯	警告灯名・警告内容
(!)	**ブレーキ警告灯（警告ブザー※）** ・ブレーキ液の不足 ・ブレーキ系統の異常 パーキングブレーキが解除されていないときも点灯します。 解除後、消灯すれば正常です。

※**パーキングブレーキ未解除走行時警告ブザー**：→P. 364

ただちに停車してください。

次の警告は、お車へのダメージや思わぬ危険を招くおそれがあることを意味します。ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。

警告灯	警告灯名・警告内容
- +	**充電警告灯** 充電系統の異常

ただちに点検を受けてください。

次の警告は、放置するとシステムが正しく働かず、思わぬ危険や故障を招くおそれがあることを意味します。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

警告灯・表示灯	警告灯／表示灯名・警告内容
	エンジン警告灯 ・エンジン電子制御システムの異常 ・電子制御スロットルの異常 ・オートマチックトランスミッション電子制御システムの異常
	SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯 ・SRS エアバッグシステムの異常 ・プリテンショナー付シートベルトシステムの異常
ABS	**ABS &ブレーキアシスト警告灯** ・ABS ／マルチテレイン ABS ※の異常 ・ブレーキアシストの異常
	パワーステアリング警告灯 パワーステアリングの異常
	スリップ表示灯（点灯したままのとき） 次のいずれかの機能の異常 ・VSC ・TRC ／アクティブ TRC ※ ・ダウンヒルアシストコントロールシステム※＊ ・ヒルスタートアシストコントロール※＊ ・クロールコントロール※＊
KDSS	**KDSS 警告灯※＊** KDSS の異常

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

警告灯・表示灯	警告灯／表示灯名・警告内容
PCS （点滅）	**PCS 警告灯＊（点滅したままのとき）** プリクラッシュセーフティシステムの異常 システムの異常時以外にも、警告灯が次のように作動します。 ・システムの作動時には、速い点滅でお知らせします。(→P. 232) ・プリクラッシュブレーキを OFF にすると点灯します。(→P. 234) ・システムが一時的に使用できないときに点灯します。(→P. 364)
4LO	**L4 作動表示灯※（点滅したままのとき）** 4WD システム異常のおそれ
	センターデフロック作動表示灯※（点滅したままのとき） 4WD システム異常のおそれ
	リヤデフロック作動表示灯※＊（点滅したままのとき） 4WD システム異常のおそれ

※ システムの詳しい説明については、別冊「オフロード走行取扱書」を参照してください。

知識

■パワーステアリング警告灯について

電圧が低い、または低下した場合に点灯することがあります。

■L4 作動表示灯・センターデフロック作動表示灯・リヤデフロック作動表示灯が点滅したままのときは

別冊「オフロード走行取扱書」を参照し、それぞれの対処方法に従って処置してください 。

ブレーキ警告灯やエンジン警告灯が同時に点灯している場合や、所定の対処方法を行っても、L4 作動表示灯・センターデフロック作動表示灯・リヤデフロック作動表示灯が点滅し続けている場合は、エンジンやブレーキシステム、4WD システムが故障しているおそれがあります。この場合は、トランスファーモードの切りかえができなくなったり、センターデフロック・リヤデフロックの切りかえができなくなることがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

⚠ 警告

■ABS 警告灯とブレーキ警告灯が同時に点灯したときは

ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店にご連絡ください。
ABS またはブレーキアシストシステムに異常が発生しているだけでなく、強めのブレーキの際に車両が不安定になるおそれがあり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■パワーステアリング警告灯が点灯したときは

ハンドルが非常に重くなることがあります。
ハンドル操作が通常より重いときは、ハンドルをしっかりと持ち、通常より強く操作してください。

ただちに処置してください。

次の警告は、それぞれの対処方法に従って処置し、警告灯・表示灯が消灯するのを確認してください。

警告灯・表示灯	警告灯／表示灯名・警告内容	対処方法
	半ドア警告灯（警告ブザー※1） いずれかのドアガラス、またはバックドアガラスが確実に閉まっていない	全ドア・バックドアガラスを閉める
	クルーズコントロール表示灯＊／定速制御モード表示灯＊（点滅しているとき） システム異常のおそれ	ON-OFFスイッチをOFFにし、再度設定する 設定できないとき、またはすぐに解除されるときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。
	車間制御モード表示灯＊（点滅しているとき） システム異常のおそれ	ON-OFFスイッチをOFFにし、再度設定する 設定できないとき、またはすぐに解除されるときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

警告灯・表示灯	警告灯／表示灯名・警告内容	対処方法
	燃料残量警告灯 燃料の残量が約 13 L 以下になった	燃料を補給する
	運転席シートベルト非着用警告灯（警告ブザー※2） 運転席シートベルトの非着用	シートベルトを着用する
PASSENGER	**助手席シートベルト非着用警告灯（警告ブザー※2）** 助手席シートベルトの非着用	シートベルトを着用する
	マスターウォーニング システムの異常時にブザーと共に点灯・点滅し、マルチインフォメーションディスプレイ上に警告メッセージを表示します。	→P. 360

※1 **半ドア走行時警告ブザー：**→P. 363

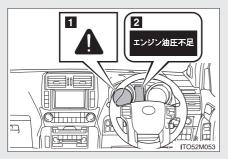
※2 **運転席・助手席シートベルト非着用警告ブザー：**
運転席・助手席シートベルトを非着用のまま、車速が約 20 km/h 以上になると、警告ブザーが 30 秒間断続的に鳴ります。その後も運転席・助手席シートベルトを非着用のままだと、ブザーの音がかわり 90 秒間鳴ります。

知識

■助手席シートベルト非着用警告灯の乗員検知センサーの作動について

- 乗員がいなくても、シートに荷物などを置くと、センサーが重量を検知して警告灯が点滅することがあります。
- 座布団などを敷くと、センサーが乗員を検知せず警告灯が作動しないことがあります。

警告メッセージが表示されたときは

マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示された場合は、落ち着いて次のように対処してください。

1 マスターウォーニングライト

マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されているとき、点灯・点滅します。

2 マルチインフォメーションディスプレイ

処置後に再度メッセージが表示されたときは、トヨタ販売店へご連絡ください。

ただちに停車してください。走行を続けると危険です。

警告ブザーと共に警告メッセージが表示されます。次の警告は、お車への損傷や思わぬ危険を招くおそれがあることを意味します。ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。

警告メッセージ	警告内容
エンジン油圧不足	**エンジンオイル圧力の異常** エンジンオイルの圧力が異常に低いと表示されます。

ただちに点検を受けてください。

警告ブザーと共に警告メッセージが表示されます。次の警告は、放置すると、システムが正しく働かず、思わぬ危険や故障を招くおそれがあることを意味します。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

警告メッセージ	警告内容
ステアリングロック システムチェック	**ステアリングロックシステムの異常**
トランスミッション システムチェック	**オートマチックトランスミッションの異常**
PCSシステム チェック PCS（点滅）	**PCS（プリクラッシュセーフティシステム）の異常※**

※装着車のみ

警告メッセージ	警告内容
クルーズシステム チェック	**レーダークルーズコントロールシステムの異常**※ 安全な場所に停車後、エンジンを始動し直し、レーダークルーズコントロールシステムを再セットしてください。
エアサスペンション システムチェック	**リヤハイトコントロールエアサスペンションの異常**※
ソナー システム チェック	**クリアランスソナー&バックソナーの異常**※ 異常のあるソナーが点滅して表示されます。

※装着車のみ

ただちに処置してください。

次の内容は、それぞれの対処方法に従って処置し、警告メッセージが消灯するのを確認してください。

警告メッセージ	警告内容	対処方法
	各ドアが確実に閉まっていない 開いているドアが表示されます。 各ドアが確実に閉まっていない状態のまま、車速が約 5km/h をこえたときには が点滅しブザーが鳴ります。	各ドアを閉める
	バックドアガラスが確実に閉まっていない バックドアガラスが確実に閉まっていない状態のまま、車速が約 5km/h をこえたときには が点滅しブザーが鳴ります。	バックドアガラスを閉める
ムーンルーフが開いています (点滅)	**ムーンルーフが確実に閉まっていない状態で “エンジン スタート ストップ” スイッチを OFF にして運転席ドアを開けた**※ 警告ブザーが鳴ります。	ムーンルーフを閉める

※装着車のみ

警告メッセージ	警告内容	対処方法
パーキングブレーキを 解除してください (!)	**パーキングブレーキが解除されていない** パーキングブレーキをかけたまま、車速が約 5km/h をこえたときには ⚠ が点滅しブザーが鳴ります。	パーキングブレーキを解除する
AT油温異常 安全な場所に 停車してください ⚠	**オートマチックトランスミッションフルードの温度が異常に高くなった** 警告ブザーが鳴ります。	ただちに安全な場所に停車し、シフトレバーを P にして、エンジンをかけたまま温度が下がるまで待つ しばらくして表示が消えたら、走行可能になります。表示が消えないときは、トヨタ販売店にご連絡ください。
PCS現在 使用できません PCS	**PCS（プリクラッシュセーフティシステム）が現在機能していない**※	・グリルまたはセンサーの汚れを取り除く ・プリクラッシュセーフティシステムが熱くなると点灯します。この場合はシステムが通常温度になるまでしばらくお待ちください。

※装着車のみ

警告メッセージ	警告内容	対処方法
ソナー汚れ	**クリアランスソナー＆バックソナーのセンサー部分の汚れ、氷などの付着**※ 警告ブザーが鳴ります。	汚れおよび氷などを取り除く
レーダー汚れ 清掃必要	**レーダークルーズコントロールのセンサー部分の汚れ、氷などの付着**※ 警告ブザーが鳴ります。	汚れおよび氷などを取り除く
クルーズ現在 使用できません	**レーダークルーズコントロールの車間制御の測定不可**※ 警告ブザーが鳴ります。	システムが悪天候と判断したため、使用できません。

※装着車のみ

警告メッセージ	警告内容	対処方法
（点滅）	**（レーダークルーズコントロールの車間制御中）衝突の危険性**※ 警告ブザーが鳴ります。	ブレーキを踏む
ブレーキ！ PCS （点滅）	**衝突の可能性が高い、またはプリクラッシュブレーキが作動している**※ 警告ブザーが鳴ります。	ブレーキで減速する
CRAWLが 解除されました	**クロールコントロールの使用中、機能が解除された**※ 警告ブザーが鳴ります。	クロールコントロールの作動条件に従って使用する クロールコントロールについては、別冊「オフロード走行取扱書」を参照してください。

※装着車のみ

警告メッセージ	警告内容	対処方法
MULTI-TERRAIN SELECT中のため操作できません	**マルチテレインセレクトの使用中、VSC OFF スイッチを押した、またはセカンドスタートモードに切りかえようとした※**	マルチテレインセレクトの使用中は、VSC を OFF にしたり、セカンドスタートモードに切りかえたりすることはできません。 マルチテレインセレクトについては、別冊「オフロード走行取扱書」を参照してください。
MULTI-TERRAIN SELECTが解除されました	**マルチテレインセレクトの使用中、機能が解除された※** 警告ブザーが鳴ります。	マルチテレインセレクトの作動条件に従って使用する マルチテレインセレクトについては、別冊「オフロード走行取扱書」を参照してください。

※装着車のみ

知識

■車間制御モード中の接近警報について（レーダークルーズコントロール装着車）

→P. 209

ただちに処置してください。

それぞれの対処方法に従って処置し、警告メッセージが消灯するのを確認してください。

車内警告ブザー	車外警告ブザー	警告メッセージ	警告内容	対処方法
1回	なし	キーが 見つかりません (点滅)	電子キーを携帯していないか、電子キーが正常に作動しない状態でエンジンをかけようとした	電子キーを携帯してエンジンをかける※
1回	3回	キーが 見つかりません (点滅)	“エンジンスタートストップ”スイッチがOFF以外の状態で運転席以外のドアが開閉され、同乗者が電子キーを持ち出した	電子キーを車内にもどす
			シフトレバーがPの状態で、“エンジン スタート ストップ ”スイッチをOFFにせずに電子キーを持ち出したまま運転席ドアが開閉された	“ エンジン スタート ストップ ” スイッチをOFFにする または 電子キーを車内にもどす

※電子キーが車内にあってもエンジンが始動しない場合は、電池が切れているか電波の状況が悪い可能性があります。(→P. 36)

車内警告ブザー	車外警告ブザー	警告メッセージ	警告内容	対処方法
1 回	10 秒間吹鳴	キーが見つかりません 電源をOFFしてください （交互に表示） （点滅）	“エンジン スタート ストップ”スイッチを OFF にせずに、電子キーを外に持ち出してドアを施錠しようとした	“エンジン スタート ストップ”スイッチを OFF にしたあと、再度施錠する
1 回	なし	キーが見つかりません （点滅）	正規の電子キーが車室内にない状態で走行をはじめた	車室内に電子キーがあるか確認する

車内警告ブザー	車外警告ブザー	警告メッセージ	警告内容	対処方法
連続音	なし	降車時はPレンジに入れてください (点滅)	シフトレバーがP以外の状態で“エンジン スタートストップ”スイッチをOFFにせずに運転席ドアを開いた	シフトレバーをPにする
連続音	連続音	降車時はPレンジに入れてください キーが見つかりません (交互に表示) (点滅)	シフトレバーがP以外の状態で“エンジン スタートストップ”スイッチをOFFにせずに電子キーを持ち出したまま運転席ドアが開閉された	・シフトレバーをPにする ・電子キーを車内に入れる

<table>
<tr><th>車内
警告
ブザー</th><th>車外
警告
ブザー</th><th>警告メッセージ</th><th>警告内容</th><th>対処方法</th></tr>
<tr><td rowspan="2">1 回</td><td rowspan="2">連続音</td><td rowspan="2">車室内に
キーがあります
（点滅）</td><td>車内に電子キーを置いたまま、スマートエントリー&スタートシステムでドアを施錠しようとした</td><td rowspan="2">車内から電子キーを取り出したあと、再度施錠する</td></tr>
<tr><td>車内に電子キーを置いたまま、フロントドアを開き、ロックレバーを施錠側にしてドアハンドルを引いたままドアを閉めて施錠しようとした</td></tr>
</table>

車内警告ブザー	車外警告ブザー	警告メッセージ	警告内容	対処方法
1 回	なし	ブレーキを 踏みながらキーで エンジンスイッチに 触れてください (点滅)	メカニカルキーで解錠して“エンジン スタート ストップ”スイッチを押した際、車室内で電子キーを検出できなかった “エンジン スタートストップ”スイッチを押したときに車室内で電子キーを検出できないことが2回連続で続いた	ブレーキペダルを踏みながら電子キーで“エンジン スタート ストップ”スイッチにふれる
1 回	なし	始動時はPレンジに 入れてください (点滅)	エンジン始動不可能なシフトレバー位置でエンジンを始動しようとしている	シフトレバーをPに入れてからエンジンを始動させる

車内警告ブザー	車外警告ブザー	警告メッセージ	警告内容	対処方法
1回	なし	電源OFF時は Pレンジに入れて エンジンスイッチを 押してください (点滅)	シフトレバーがP以外で“エンジン スタート ストップ”スイッチのモードをOFFにしようとした	“エンジン スタート ストップ”スイッチのモードをOFFにしたい場合は、シフトレバーをPにして“エンジン スタート ストップ”スイッチを押す
なし	なし	バッテリー保護の為 自動電源OFF しました	自動電源 OFF機能が作動した	次回エンジン始動時にエンジン回転数を少し高めにし、約5分間その回転数を保持してバッテリーを充電する
1回	なし	キーバッテリー 残りわずか	電子キーの電池残量が少ない	新しい電池と交換する(→P. 336)

車内警告ブザー	車外警告ブザー	警告メッセージ	警告内容	対処方法
1回	なし	始動時はブレーキを踏みながらエンジンスイッチを押してください （点滅）	“エンジン スタート ストップ”スイッチがOFFの状態で運転席のドアを開閉してから、エンジンを始動せずに“エンジン スタート ストップ”スイッチをアクセサリーモードに2回以上した	始動時はブレーキペダルを踏んで“エンジン スタート ストップ”スイッチを押す
			電子キーが正常に働かないときの始動の方法（→P. 393）で“エンジン スタート ストップ”スイッチに電子キーをふれた	ブザーが鳴ってから10秒以内に“エンジン スタート ストップ”スイッチを押す
1回	なし	ステアリングロック未解除 （点滅）	“エンジン スタート ストップ”スイッチを押してから約3秒以内にステアリングロックが解除できなかった	ブレーキペダルを踏んでハンドルを左右にまわしながら“エンジン スタート ストップ”スイッチを押す

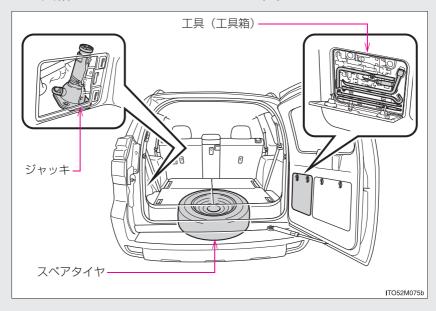
パンクしたときは

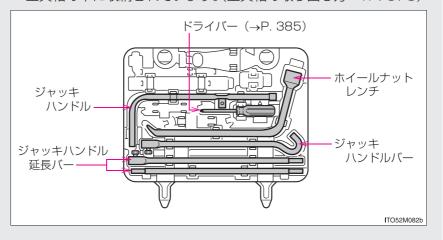
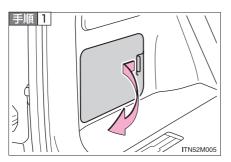
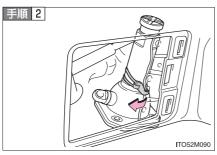
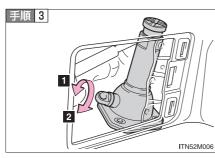
パンクしたタイヤを、備え付けのスペアタイヤと交換してください。
（タイヤについての詳しい説明は、P. 307 を参照してください）

■ ジャッキで車体を持ち上げる前に

- 地面が固く平らな場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- シフトレバーを P に入れる
- 車高制御を禁止する※
  （リヤハイトコントロールエアサスペンション装着車）
- エンジンを停止する
- 非常点滅灯を点滅させる

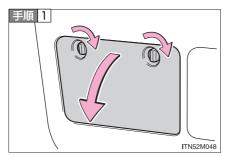
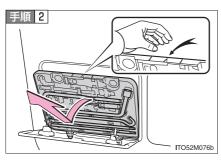
※車高制御の禁止のしかたについては、別冊「オフロード走行取扱書」を参照してください。

■ 工具箱・ジャッキ・スペアタイヤの位置

■ **工具**

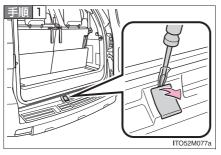
工具箱の中に収納されています。(工具箱の取り出し方：→P. 378)

ジャッキの取り出し方

ツメを押しながらフタを手前に引開き、取りはずす

固定バンドをはずす

1 ゆるむ

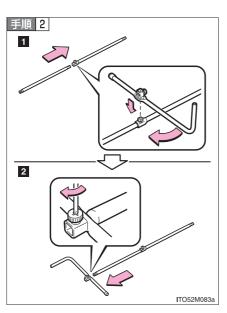
2 締まる

使用後はもとの位置にもどします。また、ジャッキはバンドで確実に固定してください。

工具箱の取り出し方

ダイヤルを OPEN 側にまわしてロックをはずし、カバーを手前に開く

工具箱を取りはずす

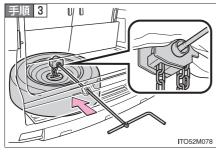
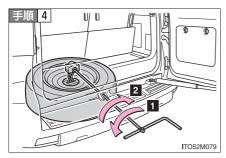
マークの付いている部分をつかんで、持ち上げます。

スペアタイヤの取り出し方

マイナスドライバーを使用して、リヤバンパーのフタを取りはずす

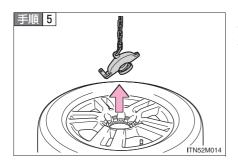
傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。

ジャッキハンドルを組み付ける

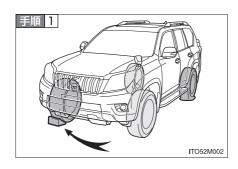
工具箱からジャッキハンドル･ジャッキハンドル延長バーを取り出し、図のように組み付けます。

1 ジャッキハンドル延長バーのボルトは、図のようにジャッキハンドルの穴部を使ってしっかりと締め付けます。

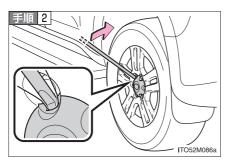
2 ジャッキハンドルのネジ部は、搭載されているドライバーでしっかりと締め付けます。

組み付けたジャッキハンドルを図のように挿し込む

ジャッキハンドルをまわして、スペアタイヤが完全に地面に着くまで下げる

1 下がる

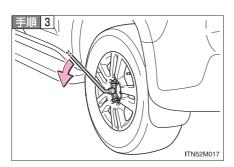
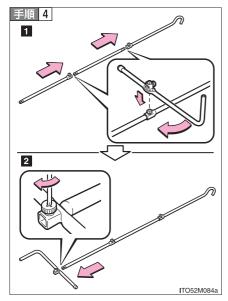
2 上がる

スペアタイヤを引き出し、アンカープレートを取りはずす

パンクしたタイヤの交換

輪止め※をする

パンクしたタイヤ		輪止めの位置
前輪	左側	右側後輪うしろ
	右側	左側後輪うしろ
後輪	左側	右側前輪前
	右側	左側前輪前

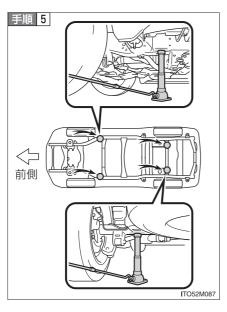
※ 輪止めは、トヨタ販売店で購入することができます。

センターオーナメントをはずす

ホイールナットレンチの後端を図のように挿し込んで、センターオーナメントをはずします。

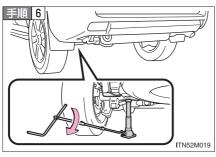
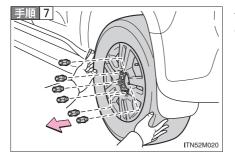
傷が付くのを防ぐため、図のように布などを巻いて保護してください。

ナットを少し(約 1 回転)ゆるめる

ジャッキハンドルを組み付ける

工具箱からジャッキハンドル･ジャッキハンドル延長バー･ジャッキハンドルバーを取り出し (→P. 376)、図のように組み付けます。

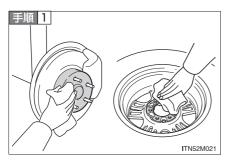
1 ジャッキハンドルバー・ジャッキハンドル延長バーのボルトは、図のようにジャッキハンドルの穴部を使ってしっかりと締め付けます。

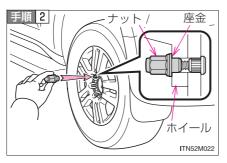
2 ジャッキハンドルのネジ部は、搭載されているドライバーでしっかりと締め付けます。

組み付けたジャッキハンドルをジャッキ穴部に挿し込みジャッキセット位置にジャッキをかける

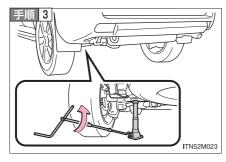
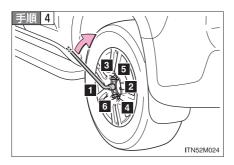
ジャッキセット位置：

フロント	シャシーフレームサイドレール下
リヤ	リヤアクスルハウジング下

タイヤが地面から少し離れるまで、車体を上げる

ナットすべてを取りはずし、タイヤを取りはずす

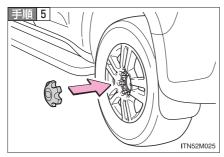
タイヤを直接地面に置くときは、ホイールの意匠面に傷が付かないよう意匠面を上にします。

タイヤの取り付け

ホイール接触面の汚れをふき取る

ホイール接触面が汚れていると、走行中にナットがゆるみ、タイヤがはずれるおそれがあります。

タイヤを取り付け、タイヤががたつかない程度まで手でナットを仮締めする

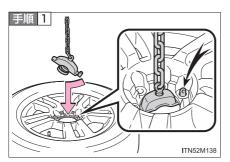
ナットの座金がホイールに軽くあたるまでまわします。

車体を下げる

図の番号順でナットを2､3度しっかり締め付ける

締め付けトルク：

112 N・m (1140 kgf・cm)

センターオーナメントを取り付ける

手順 6 パンクしたタイヤを格納し、工具・ジャッキをもとどおりに収納する（→P. 385）

パンクしたタイヤ・ジャッキ・工具の収納

手順 1

タイヤの外側が上になるように地面に置き、アンカープレートを取り付ける

アンカープレートのツメをホイールの穴にはめます。

手順 2 ジャッキハンドルをまわしてタイヤを上げる（→P. 379）

KDSS※ 装着車は、アンカープレートにセットしたタイヤを車両後方に引きながら、ジャッキハンドルをまわしてタイヤを上げてください。
また、タイヤを上げたあと、格納したタイヤがサスペンションの部品に干渉していないことを目視で確認してください。

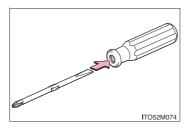
※ KDSS については、別冊「オフロード走行取扱書」を参照してください。

手順 3 工具・ジャッキを収納する（→P. 377, 378）

知識

■スペアタイヤについて

空気圧を必ず点検してください。（→P. 410）

■ドライバーの使い方

軸部分を引き抜いて挿し込み方向をかえることにより、プラス・マイナス両方のドライバーとして使用できます。

警告

■**ジャッキの使用について**

ジャッキの取り扱いを誤ると、車が落下して重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
次のことをお守りください。

- ジャッキはタイヤ交換・タイヤチェーン取り付け・取りはずし以外の目的で使用しない
- 備え付けのジャッキは、お客様の車にしか使うことができないため、他の車に使ったり、他の車のジャッキをお客様の車に使用したりしない
- ジャッキセット位置に正しくジャッキがかかっていることを確かめる
- 車高制御が禁止の状態で、エンジンが停止している※(リヤハイトコントロールエアサスペンション装着車)
- ジャッキで支えられている車の下に体を入れない
- ジャッキで支えられている状態で、エンジンをかけたり走らせない
- 車内に人を乗せたまま車を持ち上げない
- 車を持ち上げるときは、ジャッキの上または下にものを載せない
- 車を持ち上げるときは、タイヤ交換できる高さ以上に上げない
- 車の下にもぐり込んで作業する場合は、ジャッキスタンドを使用する

車両を下げる際は特に、ご自身や周囲の人がけがをしないよう注意してください。

※操作方法については、別冊「オフロード走行取扱書」を参照してください。

警告

■タイヤ交換について

けがを負う危険を減らすため、次のことを必ずお守りください。

- スペアタイヤは、ジャッキアップする前に格納具から取りはずしておく
- スペアタイヤは完全に地面に降ろしてから取り出す
- センターオーナメントは直接手をかけて取らない
  取り扱いには十分に注意してください。けがをするおそれがあります。
- 走行直後、ディスクホイールやブレーキまわりなどにはふれない
  走行直後のディスクホイールやブレーキまわりは高温になっているためタイヤ交換などで手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。
- ホイールの交換後はすぐに 112 N・m（1140 kgf・cm）の力でナットを締める
- タイヤの取り付けには、使用しているホイール専用のナットを使用する
- ボルトやナットのねじ部や、ホイールのボルト穴につぶれや亀裂などの異常がある場合は、トヨタ販売店で点検を受ける
- ナットを取り付けるときは、必ずテーパー部を内側にして取り付ける
  （→P. 309）

上記のことをお守りいただかないと、ナットがゆるみ、ホイールがはずれ落ち、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ジャッキハンドルを使用するときは

ジャッキハンドルが不意に分解しないように、ジャッキハンドルを組み付けたあと、搭載されているドライバーでネジ部を確実に締め付けてください。

■工具・ジャッキを使用したあとは

走行前に必ず、指定の場所に確実に収納してください。車室内などに放置すると、急ブレーキ時などに工具類が飛び出し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠ **注意**

■**パンクしたままの走行について**

タイヤがパンクした状態で走行を続けないでください。
短い距離の運転でも、タイヤとホイールが修理できないほどの損傷になります。

■**パンクしたタイヤを格納するときは**

- タイヤと車両とのあいだにものが挟まっていないことを確認してください。
- スペアタイヤを格納したあとは、確実に固定されていることを確認してください。固定されていないとタイヤががたつき、走行中にはずれるおそれがあります。

エンジンがかからないときは

正しいエンジンのかけ方（→P. 154）に従っても、エンジンがかからないときは、次のことを確認してください。

■ スターターは正常にまわっているのにエンジンがかからない場合

次の原因が考えられます。

● 燃料が入っていない可能性があります。
給油してください。

● 燃料を吸い込みすぎている可能性があります。
再度、正しい手順（→P. 154）に従って、エンジンをかけてください。

● エンジンイモビライザーシステムに異常がある可能性があります。（→P. 109）

■ スターターがゆっくりまわる／室内灯・ヘッドライトが暗い／ホーンの音が小さい、または鳴らない場合

次の原因が考えられます。

● バッテリーあがりの可能性があります。（→P. 395）

● バッテリーのターミナルがゆるんでいる可能性があります。

■ スターターがまわらない

電装品の断線やヒューズ切れなど、電気系統異常の可能性があります。異常の種類によっては、エンジンを一時的な処置でかけることができます。（→P. 390）

■ スターターがまわらない／室内灯・ヘッドライトが点灯しない／ホーンが鳴らない場合

次の原因が考えられます。

● バッテリーのターミナルがはずれている可能性があります。

● バッテリーあがりの可能性があります。（→P. 395）

● ステアリングロックシステムに異常がある可能性があります。

処置のしかたがわからないとき、あるいは処置をしてもエンジンがかからないときは、トヨタ販売店にご連絡ください。

緊急始動機能

通常のエンジン始動操作でエンジンが始動しないときは、次の手順でエンジンが始動する場合があります。緊急時以外は、この方法で始動させないでください。

手順 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する

手順 2 シフトレバーが P の位置にあることを確認する

手順 3 “ エンジン スタート ストップ ” スイッチをアクセサリーモードにする

手順 4 ブレーキペダルをしっかり踏んで、“ エンジン スタート ストップ ” スイッチを約 15 秒以上押し続ける

上記の方法でエンジンが始動しても、システムの故障が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

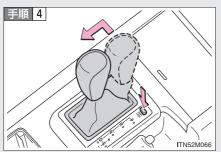
シフトレバーがシフトできないときは

ブレーキペダルを踏んだ状態でシフトレバーがシフトできない場合、シフトロックシステム（シフトレバーの誤操作を防ぐ装置）などの故障が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。ただし一時的な処置として、次の方法でシフトレバーをシフトすることができます。

手順 1 パーキングブレーキをかける

手順 2 " エンジン スタート ストップ " スイッチをアクセサリーモードにする

手順 3 ブレーキペダルを踏む

手順 4

シフトロック解除ボタンを押す

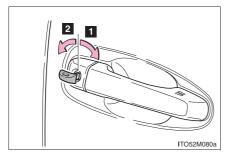
ボタンを押しているあいだは、レバーをシフトできます。

キーをなくしたときは

キーナンバープレートに打刻されたキーナンバーと残りのキーから、トヨタ販売店でトヨタ純正品の新しいキーを作ることができます。(→P. 28)

電子キーが正常に働かないときは

電子キーと車両間の通信がさまたげられたり（→P. 36）、電子キーの電池が切れたときは、スマートエントリー&スタートシステムとワイヤレスリモコンが使用できなくなります。このような場合、次の手順でドアを開けたり、エンジンを始動したりすることができます。

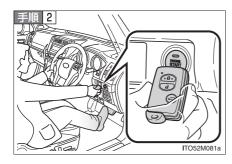
ドアの施錠・解錠

メカニカルキー（→P. 28）を使って次の操作ができます。

1 全ドア施錠

2 全ドア解錠

メカニカルキーの操作で、ドアガラス・ムーンルーフを開閉できるように設定を変更できます。
詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

モードの切りかえ・エンジン始動の方法

手順 1 シフトレバーが P の状態でブレーキペダルを踏む

電子キーのトヨタエンブレム面で、“ エンジン スタート ストップ ” スイッチにふれる

この操作中にいずれかのドアが開閉されると、スマートエントリー&スタートシステムが “ エンジン スタート ストップ ” スイッチにふれた電子キーを正しく検知できず、警告音が鳴ります。

手順 3 モードの切りかえ：
ブザーが鳴ってから 10 秒以内に、ブレーキペダルから足を離して “ エンジン スタート ストップ ” スイッチを押します。スイッチを押すごとにモードを切りかえることができます。(→P. 155)

エンジン始動：
ブザーが鳴ってから 10 秒以内に、ブレーキペダルをしっかりと踏み込んで、“ エンジン スタート ストップ ” スイッチを押します。

処置をしても作動しないときは、トヨタ販売店にご連絡ください。

知識

■エンジンの停止のしかた

通常のエンジン停止のしかたと同様に、シフトレバーを P にして “ エンジン スタート ストップ ” スイッチを押します。

■電池交換について

ここで説明しているエンジンの始動方法は一時的な処置です。電池が切れたときは、ただちに電池の交換をおすすめします。(→P. 336)

■オートアラームについて

メカニカルキーで施錠した場合、オートアラームが設定されません。
なお、オートアラーム設定中にメカニカルキーで解錠したときの作動は、車両の設定により異なります。(カスタマイズ一覧：→P. 413)

■スマートエントリー&スタートシステムについて

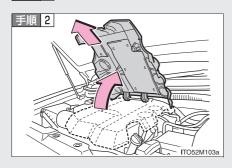
カスタマイズ機能でスマートエントリー&スタートシステムをキャンセルすることができます。
電子キーが正常に働かないときは、スマートエントリー&スタートシステムがキャンセルされていないことも確認してください。
(カスタマイズ一覧：→P. 413)

バッテリーがあがったときは

バッテリーがあがった場合、次の手順でエンジンを始動することができます。

ブースターケーブルと 12V のバッテリー付き救援車があれば、次の手順に従って、エンジンを始動させることができます。

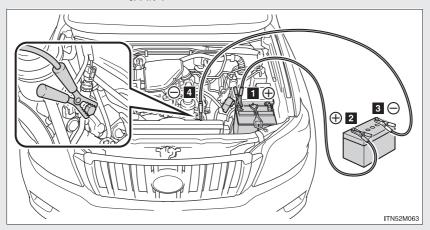
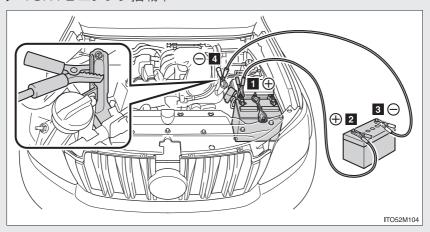
手順 1 ボンネットを開ける（→P. 310）

手順 2

エンジン上部のカバーをはずす（1GR-FE エンジン搭載車のみ）

先端を持ち上げて固定ピンをはずし、手前に引いてカバーを取りはずします。

手順 3 バッテリーの ＋ 端子のカバーをはずし、ブースターケーブルを次の順につなぐ

1. 赤色のブースターケーブルを自車のバッテリーの＋端子につなぐ
2. 赤色のブースターケーブルのもう一方の端を救援車のバッテリーの＋端子につなぐ
3. 黒色のブースターケーブルを救援車のバッテリーの－端子につなぐ
4. 黒色のブースターケーブルのもう一方の端をバッテリーから離れた、未塗装の金属部（次ページの図に示すような固定された部分）につなぐ

▶ 2TR-FE エンジン搭載車

▶ 1GR-FE エンジン搭載車

手順 4 救援車のエンジンをかけ、回転を少し高めにして、約 5 分間自車のバッテリーを充電する

手順 5 " エンジン スタート ストップ " スイッチが OFF の状態で、いずれかのドアを開閉する

手順 6 救援車のエンジン回転を維持したまま、“エンジン スタート ストップ”スイッチをいったんイグニッションONモードにしてから、自車のエンジンをかける

手順 7 自車のエンジンが始動したら、ブースターケーブルをつないだときと逆の順ではずす

ブースターケーブルをはずしたあとは、バッテリー＋端子のカバーをもとにもどしてください。

手順 8 エンジン上側のカバーをもとどおりに取り付ける（1GR-FE エンジン搭載車のみ）

取りはずしたときと逆の手順で、エンジン上部のカバーを取り付けます。取り付け後は、固定ピンが確実にはめ込まれていることを確認してください。

エンジンがかかっても、早めにトヨタ販売店で点検を受けてください。

知識

■バッテリーあがり時の始動について

この車両は、押しがけによる始動はできません。

■バッテリーあがりを防ぐために

- ●エンジンがかかっていないときは、ライトやオーディオ（装着車のみ）の電源を切ってください。
- ●渋滞などで長時間止まっているときは、不必要な電装品の電源を切ってください。

■バッテリーがあがったときは

コンピューターに記憶されている情報が消去されます。バッテリーがあがったときはトヨタ販売店で点検を受けてください。

■バッテリーの充電について

バッテリーの電力は、車両を使用していないあいだも、一部の電装品による消費や自然放電のために、少しずつ消費されています。そのため、車両を長期間放置すると、バッテリーがあがってエンジンを始動できなくなるおそれがあります。(バッテリーは走行中に自動で充電されます)

⚠警告

■バッテリーの引火または爆発を防ぐために

バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険ですので、火や火花が発生しないよう、次のことをお守りください。

- ●ブースターケーブルは正しい端子または接続箇所以外に接続しない
- ●ブースターケーブルは＋側と－側の端子を絶対に接触させない
- ●バッテリー付近では、喫煙したりマッチやライターなどで火を起こさない

■バッテリーの取り扱いについて

バッテリー内には有毒で腐食性のある酸性の電解液が入っており、また関連部品には鉛または鉛の混合物を含んでいるので、取り扱いに関し、次のことを必ずお守りください。

- ●バッテリーを取り扱うときは保護メガネを着用し、液 (酸) が皮膚･衣服･車体に付着しないようにする
- ●必要以上に、顔や頭などをバッテリーに近付けない
- ●誤ってバッテリー液が体に付着したり目に入ったりした場合、ただちに大量の水で洗い、すぐに医師の診察を受ける
  また、医師の診察を受けるまで、水を含ませたスポンジや布を患部にあてておく
- ●バッテリーの支柱・ターミナル・その他の関連部品の取り扱い後は手を洗う
- ●お子さまをバッテリーに近付けない

注意

■ブースターケーブルの取り扱いについて

ブースターケーブルを接続したり、取りはずすときは、冷却ファンやベルトに巻き込まれないように十分注意してください。

■エンジン上部のカバーの損傷を防ぐために（1GR-FE エンジン搭載車のみ）

次のことを必ずお守りください。

●カバーを取りはずすときは、必ず先端を持ち上げて固定ピンをはずしてから、カバー本体を手前に引いてください。

●カバーを取り付けるときは、取り付け部上面を強い力で押さえたり、たたいたりしないでください。

オーバーヒートしたときは

オーバーヒートしたときは：

手順 1 車を安全な場所に止め、エアコンを止める

手順 2 エンジンルームから蒸気が出ているか確認する

蒸気が出ている場合：

エンジンを停止する。蒸気が出なくなったら、注意してボンネットを開け、エンジンを再始動する

蒸気が出ていない場合：

エンジンをかけたまま、注意してボンネットを開ける

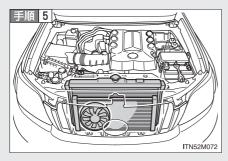
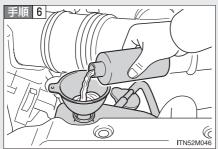
手順 3 エンジンルームカバーをはずす（→P. 312）

手順 4 ラジエーター冷却用のファンが作動しているか確認する

ファンが作動している場合：

水温計の針が下がってきてからエンジンを停止する

ファンが作動していない場合：

すぐにエンジンを停止して、トヨタ販売店に連絡する

エンジンが十分に冷えてから、冷却水の量やラジエーターコア部（放熱部）の冷却水もれを点検する

冷却水が不足している場合は、冷却水を補給する

冷却水がない場合は、応急措置として水を補給してください。

早めに最寄りのトヨタ販売店で点検を受けてください。

知識

■オーバーヒートとは

次の状態がオーバーヒートです。

- ●メーター内の水温計の針がレッドゾーンに入ったり、エンジン出力が低下する
- ●エンジンルームから蒸気が出る

警告

■エンジンルーム点検中の事故やけがを防ぐために

- ●エンジンルームから蒸気が出ている場合は、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けないでください。エンジンルーム内が高温になっているため、やけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ●エンジンがかかっているときは、手や着衣をファンやベルトから離してください。
- ●ボンネット（→P. 310）、エンジンルームカバー（→P. 312）の注意事項も併せてお読みください。
- ●エンジンおよびラジエーターが熱いうちはラジエーターキャップを開けないでください。
  高温の蒸気や冷却水が圧力によって噴き出し、やけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

注意

■冷却水を入れるときの注意

エンジンが十分に冷えてから入れてください。
冷却水はゆっくり入れてください。
エンジンが熱いときに急に冷たい冷却水を入れると、エンジンが損傷するおそれがあります。

スタックしたときは

ぬかるみや砂地、雪道などでタイヤが空転したり埋まり込んで動けなくなったときは次の方法で脱出してください。

手順 1 パーキングブレーキをかけ、シフトレバーを P にして、エンジンを停止する

手順 2 タイヤ前後の土や雪を取り除く

手順 3 タイヤの下に木や石などをあてがう

手順 4 エンジンを再始動する

手順 5 シフトレバーを D または R に確実に入れ、パーキングブレーキを解除して注意しながらアクセルを踏む

TRC ／アクティブ TRC・VSC の作動で脱出しにくいときは、TRC ／アクティブ TRC または VSC を停止してください。(→P. 227)

スタックからの脱出方法について

別冊「オフロード走行取扱書」では、センターデフロックやリヤデフロック（装着車のみ）など、4WD 車の特殊機能を使用したスタック脱出の方法を説明しています。状況によっては、それらの機能を使用すると脱出が容易になる場合がありますので、併せて参照してください。

警告

■脱出するときは

前進と後退をくり返してスタックから脱出する場合、他の車・ものまたは人との衝突を避けるため周囲に何もないことを確認してください。
スタックから脱出するとき、車が前方または後方に飛び出すおそれがありますので、特に注意してください。

■シフトレバーを操作するときは

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。
車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

■ **トランスミッションやその他の部品への損傷を避けるために**

- タイヤが空転するのを避け、必要以上にアクセルペダルを踏まないでください。
- この方法で脱出できなかった場合、けん引による救援が必要です。

車両を緊急停止するには

万一、車が止まらなくなったときの非常時のみ、以下の手順で車両を停止させてください。

手順 1 ブレーキペダルを両足でしっかりと踏み続ける

ブレーキペダルをくり返し踏まないでください。通常より強い力が必要となり、制動距離も長くなります。

手順 2 シフトレバーを N に入れる

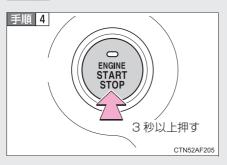
▶ シフトレバーが N に入った場合

手順 3 減速後、車を安全な道路脇に停める

手順 4 エンジンを停止する

▶ シフトレバーが N に入らない場合

手順 3 ブレーキペダルを両足で踏み続け、可能な限り減速させる

手順 4

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチを 3 秒以上押し続けてエンジンを停止する

手順 5 車を安全な道路脇に停める

⚠ 警告

■走行中にやむを得ずエンジンを切るときは

ブレーキの効きが悪くなりハンドルが重くなるため、車のコントロールがしにくくなり危険です。エンジンを切る前に、十分に減速するようにしてください。

車両仕様 6

メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）

使用するオイルの品質により、お車の寿命は著しく左右されます。
トヨタ車には最も適したトヨタ純正オイル・液類のご使用をおすすめします。トヨタ純正油脂以外を使用される場合は、それぞれの油脂に相当する品質のものをご使用ください。

燃料

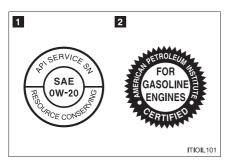
指定燃料	容量 [L]（参考値）
無鉛レギュラーガソリン	87

エンジンオイル

銘柄	エンジン	容量 [L]（参考値）	
		オイルのみ交換	オイルとオイルフィルター交換
トヨタ純正モーターオイル SN 0W-20※ ―API SN, RC/ILSAC GF-5, SAE 0W-20 トヨタ純正モーターオイル SN 5W-20 ―API SN, RC/ILSAC GF-5, SAE 5W-20 トヨタ純正モーターオイル SN 5W-30 ―API SN, RC/ILSAC GF-5, SAE 5W-30 トヨタ純正モーターオイル SN 10W-30 ―API SN, RC/ILSAC GF-5, SAE 10W-30 トヨタ純正モーターオイル SM 0W-20 ―API SM, EC SAE 0W-20 トヨタ純正モーターオイル SM 5W-30 ―API SM, EC SAE 5W-30 トヨタ純正モーターオイル SM 10W-30 ―API SM, EC SAE 10W-30	2TR-FE	5.0	5.7
	1GR-FE	5.7	6.1

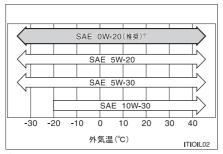
※ 0W-20 は新車時に充填されている、省燃費性に優れるオイルです。

■ 指定エンジンオイル

API 規格 SN/RC、SM/EC か、ILSAC 規格合格油をおすすめします。なお、ILSAC 規格合格油の缶には ILSAC CERTIFICATION（イルサックサーティフィケーション）マークが付いています。

1 API マーク

2 ILSAC CERTIFICATIONマーク

■ エンジンオイル推奨粘度

下記表に基づき、外気温に適した粘度のものをご使用ください。

※ 0W-20 は新車時に充填されている、省燃費性に優れるオイルです。

オイル粘度について：

● オイル粘度表示の0Wは、低温時のエンジン始動特性を示しています。W の前の数値が小さいほど冬場や寒冷時のエンジン始動が容易になります。

● 0W-20 の 20 は、オイル粘度の硬さを示しています。
粘度の高いオイルは高速または重負荷走行に適しています。

ラジエーター

銘柄	エンジン	容量 [L] (参考値)
トヨタ純正スーパーロングライフクーラント 凍結保証温度 濃度 30% −12 ℃ 濃度 50% −35 ℃	2TR-FE	8.1
	1GR-FE	11.0

オートマチックトランスミッション

銘柄	エンジン	容量 [L] (参考値※)
トヨタ純正オートフルード WS	2TR-FE	9.9
	1GR-FE	10.9

※ 交換が必要な際はトヨタ販売店にご相談ください。

ディファレンシャル

銘柄（推奨粘度）	項目		容量 [L] (参考値)
トヨタ純正ディファレンシャルギヤオイル LT (API GL-5 SAE 75W-85)	フロント		1.4
	リヤ	ノーマル	2.7
		デフロック付き	2.65

トランスファー

銘柄（推奨粘度）	容量 [L]（参考値）
トヨタ純正トランスファーギヤオイル LF (SAE 75W)	1.4

パワーステアリング

銘柄	エンジン	容量 [L] (参考値)
トヨタ純正パワーステアリングフルード	2TR-FE	0.7
	1GR-FE	1.0

ブレーキ

■ ブレーキフルード

銘柄
トヨタ純正ブレーキフルード 2500H

■ ブレーキペダル

項目		基準値 [mm]
遊び		1 ～ 6
踏み込んだときの床板とのすき間 ※1	2TR-FE エンジン搭載車	106
	1GR-FE エンジン搭載車	101

※1 エンジン回転時に 490 N (50 kgf) の踏力をかけたときの床板とのすき間の最小値

■ パーキングブレーキ

項目	基準値（回数）
引きしろ 操作力 200N（20kgf）のときのノッチ数 ※2	5 ～ 7

※2 ノッチとは、パーキングブレーキをかけるときの節度（“カチッ”という音）のことです。

ウォッシャー

容量 [L]（参考値）	4.75

タイヤ

タイヤサイズ	タイヤが冷えているときの空気圧 kPa (kg/cm^2)	
	前輪	後輪
265/65R17 112S	220（2.2）	220（2.2）
265/60R18 110H	220（2.2）	220（2.2）

電球（バルブ）

電球		W（ワット）数
車外	ヘッドライト ハイビーム（バルブタイプ：HB3） ロービーム（バルブタイプ：H11）	 60 55
	フロント方向指示兼非常点滅灯	21
	車幅灯	5
	フロントフォグライト（バルブタイプ：H11）	55
	サイド方向指示兼非常点滅灯	LED※
	リヤ方向指示兼非常点滅灯	21
	制動灯	LED※
	尾灯	LED※
	後退灯	16
	リヤフォグライト*	21
	ハイマウントストップライト	LED※
	番号灯	5
	ステップ照明*	5

※LED は、Light Emitting Diodes（発光ダイオード）の略で、半導体発光電子素子です。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

電球		W（ワット）数
車内	フロントパーソナルライト	5
	ルームライト*	8
	読書灯*	5
	バニティライト	8
	ドアカーテシ照明	5
	グローブボックスライト	LED ※
	シフト照明*	LED ※
	オーナメント照明*	LED ※
	ドアポケット照明*	LED ※
	インサイドハンドル照明*	LED ※
	足元照明*	LED ※

※LED は、Light Emitting Diodes（発光ダイオード）の略で、半導体発光電子素子です。

車両仕様

型式	エンジン	駆動方式
TRJ150W	2TR-FE（2.7L ガソリン）	4WD（4 輪駆動）
GRJ150W	1GR-FE（4.0L ガソリン）	
GRJ151W		

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

ユーザーカスタマイズ機能一覧

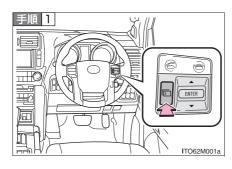
お車には、設定を変更することが可能な数多くの装備が付いています。設定変更は、マルチインフォメーションディスプレイのメーターカスタマイズ機能、またはメーカーオプションのナビゲーションシステムの画面操作（装着車のみ）※、トヨタ販売店で行うことが可能です。（設定可能な機能は、それぞれの方法で一部異なります）

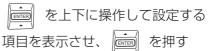
マルチインフォメーションディスプレイのメーターカスタマイズ機能で設定変更を行う場合は、ここで説明している手順で操作を行います。

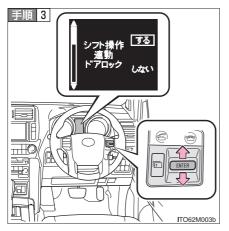
機能によっては、他の機能と連動して設定がかわるものもあります。詳しくはトヨタ販売店へお問い合わせください。

※ ナビゲーションシステムでの設定変更のしかたについては、別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。（バック＆クリアランスソナーの設定変更のしかたについては、P. 221 を参照してください）

設定変更のしかた

操作するときは、安全な場所に停車してシフトレバーをＰに入れ、パーキングブレーキをかけた状態で行ってください。

［ボタン］を押し続けて、カスタマイズモード画面を表示する

ENTER を上下に操作して設定する項目を表示させ、ENTER を押す

設定変更画面が表示されます。

現在の設定値は枠付きで表示されます。

ENTER を上下に操作して設定値を変更する

機能を有効にする場合は「する」を、無効にする場合は「しない」（または「OFF」など）を選択します。

その他の項目では、目的の数値・調整レベルなどを選択します。

を押す

設定変更中画面が表示されます。
カスタマイズモード画面にもどると、設定内容が確定します。

手順 5 を押して、もとの画面にもどす

知識

■マルチインフォメーションディスプレイの作動条件

"エンジン スタート ストップ" スイッチがイグニッション ON モードのとき

車両カスタマイズ設定一覧

変更する機能により、トヨタ販売店でのみ変更が可能か、メーターカスタマイズ機能などでも可能かどうかが異なります。次の表を参考に、1 ～ 4 の該当する方法で設定変更を行ってください。

1 ナビゲーションシステム※装着車：ナビゲーションシステムによる設定
2 ナビゲーションシステム※装着車：メーターカスタマイズ機能による設定
3 ナビゲーションシステム※非装着車：メーターカスタマイズ機能による設定
4 トヨタ販売店で設定可能

※メーカーオプション

項目	機能の内容	初期設定	変更後	1	2	3	4
ドアロック (→P. 45)	メカニカルキーによる解錠	1回で全ドア解錠	1回で運転席ドア解錠、連続2回で全ドア解錠	○	―	―	○
	車速感応オートドアロック	する	しない	○	―	○	○
	シフトレバーをP 以外にしたときの全ドア施錠 (シフト操作連動ドアロック)	しない	する	○	―	○	○
	シフトレバーをP にしたときの全ドア解錠 (シフト操作連動アンロック)	する	しない	○	―	○	○
	運転席を開けたときの全ドア解錠 (運転席ドア開連動アンロック)	しない	する	○	―	○	○

項目	機能の内容	初期設定	変更後	1	2	3	4
スマートエントリー&スタートシステム(→P. 31)、ワイヤレスドアロック(→P. 43)共通	作動の合図(ブザー音量調整)	レベル 7	OFF レベル 1 ～ 6	○	ー	○	○
	作動の合図(非常点滅灯)	する	しない	○	ー	○	○
	解錠後、ドアを開けなかったときの自動施錠までの時間	30 秒	60 秒 120 秒	ー	ー	ー	○
	半ドア警告ブザー	する	しない	ー	ー	ー	○
スマートエントリー&スタートシステム(→P. 31)	スマートエントリー&スタートシステム	する	しない	○	ー	○	○
	解錠されるドアの選択	全席解錠	運転席のみ解錠	○	ー	○	○
	連続ロック操作の有効回数	2回	無制限	ー	ー	ー	○
ワイヤレスドアロック(→P. 43)	ワイヤレス機能	する	しない	ー	ー	ー	○
	解錠時の操作	1回で全ドア解錠	1回で運転席ドア解錠、連続2回で全ドア解錠	○	ー	○	○
	ワイヤレスリモコンスイッチでのバックドアガラスのロック解除操作	1 回押し続ける(短)	1 回押し 2回押し 1 回押し続ける(長) 非作動	ー	ー	ー	○
ライト自動点灯・消灯システム(→P. 185)	ライトセンサーの感度調整	標準	レベル −2～+2	○	ー	○	○
	ライトを点灯するまでの時間	標準	長め	ー	ー	ー	○

項目	機能の内容		初期設定	変更後	1	2	3	4
イルミネーション(→P. 258)	室内照明	点灯制御	する	しない	―	―	―	○
		消灯までの時間	15 秒	OFF	○	―	○	○
				7.5 秒				
				30 秒				
		接近時の作動	する	しない	―	―	―	○
		解錠時の作動	する	しない	―	―	―	○
		“エンジンスタートストップ”スイッチOFF 後の作動	する	しない	―	―	―	○
	ステップ照明*	点灯制御	する	しない	―	―	―	○
		消灯までの時間	15 秒	OFF	○	―	○	○
				7.5 秒				
				30 秒				
		接近時の作動	する	しない	―	―	―	○
		解錠時の作動	する	しない	―	―	―	○
		ドアロックスイッチで解錠したときの作動	する	しない	―	―	―	○
		ドアを開けたときの作動	する	しない	―	―	―	○

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

項目	機能の内容	初期設定	変更後	1	2	3	4
イルミネーション(→P. 258)	シフト照明の作動	する	しない	—	—	—	○
	足元照明・インサイドドアハンドル照明・ドアポケット照明の作動*	する	しない	—	—	—	○
	ラウンジイルミネーション調光制御*	する	しない	—	—	—	○
パワーウインドウ(→P. 97)	ドアキー連動開閉機能	しない	する	—	—	—	○
	ワイヤレスリモコン連動開閉機能	しない	する	—	—	—	○
ムーンルーフ*(→P. 100)	ドアキー連動開閉機能	しない	する	—	—	—	○
	ワイヤレスリモコン連動開閉機能	しない	する	—	—	—	○
メーター照明(→P. 170)	周囲の明るさにより、メーターの照度を自動減光するためのセンサー感度調節	レベル0	レベル－2～＋2	○	—	—	○
	周囲の明るさにより、減光したメーターの照度をもとにもどすためのセンサー感度調節	レベル0	レベル－2～＋2	○	—	—	○
エコドライブインジケーターランプ(→P. 146)	エコドライブインジケーターランプの作動	する	しない	—	○	○	—

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

項目	機能の内容	初期設定	変更後	1	2	3	4
オート エアコン (→P. 248)	AUTO スイッチをON にしたとき、A/C（エアコン）スイッチが連動してON になる	する	しない	○	—	—	○
	AUTO スイッチがON のとき、連動して外気導入と内気循環を自動的に切りかえる	する	しない	○	—	—	○
オート アラーム (→P. 110)	メカニカルキーを使って解錠したときのアラーム解除	する	しない	—	—	—	○
クリアランスソナー& バック ソナー* (→P. 214)	フロントセンサーの検知可能距離	約 100cm	約 50cm	○	—	—	○
	バックセンサーの検知可能距離	約 150cm	約 65cm	○	—	—	○
	ブザー音量	レベル 3	レベル 1 ～ 5	○	—	—	○

＊ : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

知識

■メーターカスタマイズ機能の設定画面が終了するとき

次の場合は、メーターカスタマイズ機能の設定画面が終了、または他の画面に切りかわります。

- ● (→P. 175)を押したとき
- ●“ エンジン スタート ストップ ” スイッチを OFF にしたとき
- ●車が走りはじめたとき（車速約 8km/h 以上）
- ●警告メッセージが表示されたとき

警告

■設定変更の操作を行うときは

換気のよい場所に停車して行ってください。エンジンを始動した状態で操作を行うため、車庫内など囲まれた場所では排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素（CO）により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■バッテリーあがりを防ぐために

設定変更の操作は、エンジンをかけた状態で行ってください。

初期設定が必要な項目

次の項目はバッテリーを再接続したり、メンテナンスを行ったあとなどに、システムを正しく作動させるために初期設定が必要です。

項目	初期設定が必要なとき	参照
バックガイドモニター*	バッテリーの充電・交換後の再接続時	別冊「ナビゲーションシステム取扱書」
ワイドビューフロント＆サイドモニター*	ヒューズ交換後	
マルチテレインモニター*	バッテリーの充電・交換後の再接続時	別冊「オフロード走行取扱書」

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

さくいん

メーカーオプションのナビゲーションシステム装着車にお乗りのお客様は、次の装備については「ナビゲーションシステム取扱書」をお読みください。

・ GPS ボイスナビゲーション
・ オーディオ＆ビジュアル
・ バックガイドモニター
・ ワイドビューフロント＆サイドモニター
・ ETC システム

アルファベット略語一覧

アルファベット略語	カタカナ表記
A ／ C	エアコン
ABS	アンチロックブレーキシステム
AI-SHIFT	アーティフィカルインテリジェンスシフト
AVS	アダプティブバリアブルサスペンションシステム
CRAWL	クロールコントロール
DAC	ダウンヒルアシストコントロールシステム
DISP	ディスプレイ
ECU	エレクトリックコントロールユニット
EDR	イベントデータレコーダー
ETC	エレクトロニックトールコレクション
INT	インターミテント
KDSS	キネティックダイナミックサスペンションシステム
LED	ライトエミッティングダイオード
PCS	プリクラッシュセーフティシステム
PWR	パワー
SRS	サプリメンタルレストレイントシステム
TRC	トラクションコントロール
VSC	ビークルスタビリティコントロール

五十音順さくいん

※1：メーカーオプションのナビゲーションシステムは、
別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照ください。
※2：別冊「オフロード走行取扱書」を参照してください。

※1：メーカーオプションのナビゲーションシステムは、
別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照ください。
※2：別冊「オフロード走行取扱書」を参照してください。

※：別冊「オフロード走行取扱書」を参照してください。

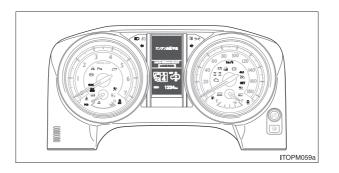
※1：メーカーオプションのナビゲーションシステムは、
別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照ください。
※2：別冊「オフロード走行取扱書」を参照してください。

※1：メーカーオプションのナビゲーションシステムは、
別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照ください。
※2：別冊「オフロード走行取扱書」を参照してください。

※：別冊「オフロード走行取扱書」を参照してください。

※1：メーカーオプションのナビゲーションシステムは、
別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照ください。
※2：別冊「オフロード走行取扱書」を参照してください。

症状別さくいん

症状	ページ	参照先
タイヤがパンクした	P. 375	パンクしたときは
エンジンがかからない	P. 389	エンジンがかからないときは
	P. 109	エンジンイモビライザーシステム
	P. 395	バッテリーがあがったときは
シフトレバーが動かない	P. 391	シフトレバーがシフトできないときは
水温計の針が赤いゾーンに入った エンジンルームから蒸気が立ちのぼった	P. 400	オーバーヒートしたときは
キーをなくした	P. 392	キーをなくしたときは
バッテリーがあがった	P. 395	バッテリーがあがったときは
ドアが施錠できない	P. 31 P. 43 P. 45	ドア
ホーンが鳴り出した	P. 110	オートアラーム
ぬかるみや砂地などで動けなくなった	P. 402	スタックしたときは
警告灯が点灯・点滅した	P. 355	警告灯がついたときは

■ 表示灯による警告一覧

表示灯	内容	表示灯	内容
	クルーズコントロール表示灯※（点滅時） P. 358		4LO 作動表示灯（点滅したままのとき） P. 357
	スリップ表示灯（点灯したままのとき） P. 356		センターデフロック作動表示灯（点滅したままのとき） P. 357
	車間制御モード表示灯（点滅時） P. 358		リヤデフロック作動表示灯（点滅したままのとき） P. 357

※レーダークルーズコントロール装着車は、定速制御モード表示灯になります。

■警告一覧

マスターウォーニング P. 359

充電警告灯 P. 355

エンジン警告灯 P. 356

ブレーキ警告灯 P. 355

半ドア警告灯 P. 358

SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯 P. 356

ABS ＆ブレーキアシスト警告灯 P. 356

PCS
PCS 警告灯（点滅したままのとき） P. 356

パワーステアリング警告灯 P. 356

KDSS
KDSS 警告灯 P. 356

運転席シートベルト非着用警告灯 P. 359

助手席シートベルト非着用警告灯 P. 359

燃料残量警告灯 P. 359

警告メッセージが表示された → P. 360 警告メッセージが表示されたときは

警告音が鳴った →

■警告灯の点灯・点滅、またはマルチインフォメーションディスプレイの警告メッセージをご確認ください。

●警告灯が点灯・点滅している（→P. 355）

●警告メッセージが表示されている（→P. 360）

■警告灯の点灯･点滅やマルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージがないとき、または車外で警告音が鳴ったときは、次のことを確認ください。

お車の状況	鳴ったときの状況	参照ページ
停車／駐車中	ドアを開けたとき	P. 40
	車外に出たとき	
	バックドアガラスを閉めたとき	
	スマートエントリー＆スタートシステムでロックセンサー部にふれたとき	
走行中	シフトレバーをRにしたとき	P. 163
	シフトダウンしたとき	P. 163
	ブレーキを踏んだとき	P. 149

ガソリンスタンドでの情報

給油や交換などの際に必要になる項目をまとめてあります。

燃料の容量(参考値)	87L
燃料の種類	無鉛レギュラーガソリン　P. 106，406
タイヤが冷えているときの空気圧	タイヤサイズ / 前輪 / 後輪 265/65R17 112S：220(2.2)kPa(kg/cm²) 265/60R18 110H：220(2.2)kPa(kg/cm²)
エンジンオイル容量(参考値)	▶ 2TR-FE エンジン搭載車 オイルのみ交換時 ………………… 5.0L オイルとフィルター交換時 …… 5.7L ▶ 1GR-FE エンジン搭載車 オイルのみ交換時 ………………… 5.7L オイルとフィルター交換時 …… 6.1L
エンジンオイルの種類	トヨタ純正モーターオイル ・ SN 0W-20 (API SN、RC/ILSAC GF-5、SAE 0W-20) ・ SN 5W-20 (API SN、RC/ILSAC GF-5、SAE 5W-20) ・ SN 5W-30 (API SN、RC/ILSAC GF-5、SAE 5W-30) ・ SN10W-30(API SN、RC/ILSAC GF-5、SAE 10W-30) ・ SM 0W-20 (API SM、EC SAE 0W-20) ・ SM 5W-30 (API SM、EC SAE 5W-30) ・ SM10W-30(API SM、EC SAE 10W-30)

お問い合わせ、ご相談は
下記へお願いいたします。

トヨタ自動車株式会社　お客様相談センター

全国共通・フリーコール

フリーコール **0800-700-7700**

オープン時間　365日　9：00～18：00

所在地　〒450－0002　名古屋市中村区名駅四丁目10の27
第二豊田ビル西館7階

「個人情報保護方針」については、
http://www.toyota.co.jpにて掲載しております。

トヨタ自動車株式会社
http://toyota.jp

モ-34

M　60D86
01999ー60D86
I I-2011年 9 月26日
2011年10月 3 日　初版
ランドクルーザープラド